

# 釧路労災病院 2015年 年報

やちぼうず 第20号





## 目次

I. 事業報告	3	III. 委員会報告	57
(1) 巻頭言	5	(1) 委員会一覧	59
(2) 理念・方針・患者さんの権利、責務	7	(2) 委員会活動報告	
(3) 病院概要	8	・倫理委員会	60
(4) 医療機関の承認・指定状況	9	・地域医療支援運営委員会	61
II. 診療科及び部門報告	13	・院内研修委員会	64
(1) 診療部門		・院内感染対策委員会	65
・内科	15	・化学療法委員会	66
・精神科	18	・臨床研修管理委員会	67
・神経内科	19	・医師研修プログラム委員会	67
・循環器内科	20	・薬事／臨床研究審査委員会	69
・外科	21	・DPC／クリニカルパス委員会	70
・整形外科	23	・地域医療連携総合センター運営委員会	72
・形成外科	25	・HIV運営委員会	73
・脳神経外科	28	・診療医事業務／査定減対策委員会	74
・泌尿器科	30	・診療情報／個人情報管理委員会	76
・眼科	32	・医療安全推進委員会	77
・耳鼻咽喉科	33	・医療情報システム委員会	79
・放射線科	35	・機器等整備委員会	81
・麻酔科	37	・救急診療運営委員会	82
・歯科口腔外科	38	・緩和医療委員会	83
・健康診断部	40	・禁煙実行委員会	86
・中央検査科・病理診断科	41	・がん診療連携拠点病院運営委員会	87
・栄養管理部	43	・診療材料等検討委員会	89
(2) 中央診療部門		・血液浄化室安全管理委員会	90
・中央リハビリテーション部	44	・在宅医療運営委員会	91
・中央放射線部	46	・公舎管理委員会	92
・中央検査部	47	・栄養管理／NST委員会	93
(3) 診療支援部		・図書委員会	95
・臨床工学部	48	・省エネルギー推進委員会	97
(4) 薬剤部	51	・防災委員会	98
(5) 看護部	53	・手術部運営委員会	99
		・輸血療法委員会	100
		・医療ガス安全管理委員会	101
		・褥瘡対策委員会	102
		・放射線部安全運営委員会	104
		・中央検査部管理運営委員会	106
		・健診業務体制整備委員会	108
		・保育委員会	109
		・広報編集委員会	110
		・病院誌「やちぼうず」編集委員会	111
		・衛生委員会	112
		・患者サービス向上委員会	114
		・ドクターズクラブ運営委員会	116

<b>IV. 医療統計</b> .....	117
患者数の推移（入院・外来）.....	119
診療科別入院患者数の推移.....	120
診療科別外来患者数（平成27年度）.....	121
診療科別入院単価の推移.....	122
診療科別外来単価の推移.....	122
紹介率・逆紹介率の推移.....	123
病床利用率の推移.....	123
平均在院日数の推移.....	124
時間外取扱患者数1日平均の推移.....	125
救急車受入件数（1日平均と総数）.....	126
手術件数の推移（手術室内）.....	126
全身麻酔件数の推移.....	127
化学療法件数の推移（入院・外来）.....	127
透析件数の推移（入院・外来）.....	128
内視鏡件数の推移（上部・下部）.....	128
放射線治療件数の推移.....	129
解剖件数の推移.....	129
2015年度後発医薬品指数.....	130
D P C 14桁 診断群分類上位頻度表（全科共通）.....	130
D P C MDC 6桁 診療科別上位頻度表.....	131
Kcode 診療科別上位頻度表.....	134
<b>V. 講演会等活動実績報告</b> .....	137
講演活動報告.....	139
<b>VI. 業績目録</b> .....	145
(1) 原 著.....	147
(2) 学会報告.....	147
(3) 論 文.....	154

## I. 事業報告

- (1) 巻頭言……………5
- (2) 理念・方針・患者さんの権利、責務……………7
- (3) 病院概要……………8
- (4) 医療機関の承認・指定状況……………9



## 巻頭言



独立行政法人 労働者健康安全機構  
釧路労災病院 院長

野々村 克也

世界では、イスラム圏における政治的混乱やISの登場から欧州への大量の難民流失に始まり、英国では国民投票によりEU離脱の方向に向かい、米国における共和党のトランプ氏指名などナショナリズムの復活ともとれる流れがあります。また、フランス・ベルギー・トルコにおけるソフトターゲットに対するテロはバングラディッシュでも起こり、そこで多くの日本人の命が失われことは世界の各地で生じている混乱が決して対岸の火事でないことを物語っております。一方、我々日本人からみれば理不尽ともとれる南沙諸島の実効支配に象徴される中国の政治的・経済的擡頭は人的資源の面から考えれば歴史的必然であり、印度のIT分野における活躍や今後の発展性も疑いのないところと思われます。その中であって、少子高齢化が加速している日本の進むべき道は極めて厳しく、民間の大企業が事実上台湾・中国企業に買収される事態となっていることなど、日本全体の凋落の兆しと捉えるのは考えすぎでしょうか？

国内に目を向けると、道半ばとする「アベノミクス」は多くの国民が「実感をもてない。」「うまく行っていない。」としているにもかかわらず、与党勝利の参議院選挙の結果は他の選択肢を見出せない厳しい将来の展望と解釈すべきでしょう。医療に関しては、団塊の世代の高齢化などにより益々その需要が膨らんでいく中、ついに40兆円を越えた医療費の唯々節減という厚生労働省のお題目は出口が見えないまま、陰に陽に病院運営に大きな影響を与えております。

今年度の診療報酬のマイナス改定はより厳しい病院運営を要求しております。当院としてはガバナンスの強化と共に平成27年度にスタートした電子カルテの積極的運用や地域医療連携総合センターの更なる活性化などにより病院全体のactivityの向上を図っていくことが必要と考えております。また、DPCや重症度、医療・看護必要度などを意識した無駄のないより効率的な診療姿勢を取ることも大切です。幸いこのような観点は職員の皆さんに徐々に浸透して来ていると判断され、今後もより一層の徹底を期待していきたく思います。

中長期的課題として、団塊の世代が後期高齢者となる2025年の医療需要を想定した地域医療構想の策定が課題となっております。逆の言い方をすると、今後10年間は、釧路管内においても無視できない数の高齢者に対する対応が必須であることを意味します。悪性腫瘍、新しい概念としてのロコモティブ症候群、脳血管障害、認知症などの高齢化と関連の深い疾病は、急性期病院である当院においても大半を占めており、各科相互の連携の下適切な対応が望まれております。

病床の見直し・適正配置などに関しても、医師・看護師・その他医療スタッフが大幅に不足する釧路管内の現状・将来像と大きな乖離があります。当院としては、釧路地区地域医療支援病院の名のごとく地域の医療を担う中心的存在として、どのような医療を提供していくかが常に問われており、厳しい医療環境の中住民に伝えていかなければならないと思っております。

このような病院をとりまく状況を踏まえての体制整備として、平成28年度は電子カルテに対応していない血液浄化室、眼科の機器等の更新を行うと共に、外来化学療法室はベッド数を増やして4階に移転し、手狭な採血室をより広い場所に移すなど2階の外来スペース再開発を企画しております。提供する医療の質の維持・向上を担保していくには不断の整備が欠かせませんが、それにより実をあげることも大切です。ナイチンゲールの言葉に「進歩し続けられない限りは、後退することになるのです。」「進歩のない組織で持ちこたえたものはない。」とあるように、現状に留まることなく常に高みに向かって進んでいく姿勢が必要です。

年報の発行は取りも直さず一年間の活動をまとめ、内外に示すことによって評価を仰ぐと同時に、我々一人ひとりが一年を総括し、新たな目標を設定し、スキルアップ・キャリアアップと共に病院全体の発展に繋げるものであります。本院がこの地でより良質な医療を提供し続けるためには、欠かせない作業と位置付けられます。そういう意味からも今年度は編集委員長を医局長である磯部先生にお願い致しました。大変忙しい立場であることは重々承知しておりましたが、他の編集委員各位と共に真摯に取り組んで上梓できたこと、深く感謝申し上げます。時間が限られる中、本当に、ご苦勞様でした。本誌を基点として、Think globally Act locallyの精神で、職員の皆が明るく温かく笑顔で、より良質の医療を展開していきましょう。また、関係各位には本誌をご笑覧戴き、より一層のご指導・ご鞭撻をお願い申し上げます。

2016年7月22日

(院長室にて)

# 理念・方針・患者さんの権利、責務

## 理念

- ・最新の知識と技術に基づき、良質で信頼される医療を実践します。

## 基本方針

1. 安全で質の高い医療を実践します。
2. 患者さんの権利を尊重し、十分な説明と同意に基づく医療を実践します
3. 透明性の高い医療を実践します。
4. 地域住民と勤労者の健康づくりのために、予防医療を実践します。

## 臨床倫理方針

1. 患者さんの人権を守ります。
2. 患者さんの自己決定権を尊重します。
3. 生命倫理に関する法律及びガイドラインを遵守して診療を行います。
4. 患者さんの信条や生命の尊厳に関する問題については審議を行い、治療方針を決定します。

## 患者さんの権利

- ・患者さんは、人格を尊重した良質な医療を公平に受ける権利があります。
- ・患者さんは、診療上の個人のプライバシーを守られる権利があります。
- ・患者さんは、自らの診療記録の開示を求め、情報を得る権利があります。
- ・患者さんは、自らの意思で医療に同意・選択・決定する権利があります。
- ・患者さんは、診断や治療などについて、他の医療機関の医師の意見（セカンドオピニオン）を求める権利があります。

## 患者さんの責務

- ・患者さんには、自身に関する正確な情報の提供をお願いします。
- ・院内の取り決めを守り、他の患者さんの療養生活や病院職員の医療提供に支障を与えないようお願いします。

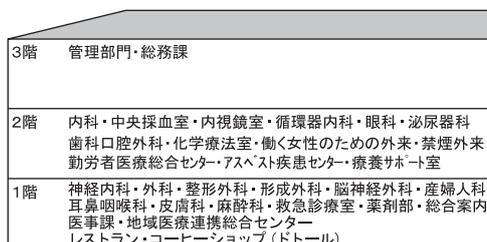
# 病院概要

開設者	独立行政法人 労働者健康安全機構 理事長 有賀 徹
管理者	院長 野々村 克也
所在地	郵便番号 085-8533 住所 北海道釧路市中園町13-23 電話番号 0154-22-7191(代)
病床数	500床(承認) 450床(稼働)
手術室	10室
標榜診療科 (21科)	内科/消化器内科/循環器内科/神経内科/外科/脳神経外科/整形外科/形成外科/ 精神科/小児科/皮膚科/泌尿器科/産婦人科/眼科/耳鼻咽喉科/リハビリ科/ 放射線科/病理診断科/麻酔科/歯科/歯科口腔外科
院内標榜科	腫瘍内科/血液内科
専門センター	勤労者リハビリテーションセンター/勤労者メンタルヘルスセンター/ 勤労者医療総合センター/アスベスト疾患センター/消化器病センター/ 脊椎外科センター/関節鏡・人工関節センター/脳・脊髄外科センター/ 末梢神経外科センター
特殊外来	働く女性のための外来/助産師外来/禁煙外来/緩和ケア外来/ 睡眠時無呼吸症候群/フットケア外来/セカンド・オピニオン外来
主な特色	(1) 地域医療支援病院 (2) 地域がん診療連携拠点病院 (3) エイズ治療中核拠点病院 (4) 日本医療機能評価認定施設 (一般病院2 3rdG : Ver.1.1)
その他の施設	釧路労災看護専門学校
敷地面積	39,684.57㎡
建物延面積	42,156.44㎡ 地上9階 屋上ヘリポート有

病棟案内図



外来棟案内図



## 医療機関の承認・指定状況

### 1. 病院開設承認等

区分	承認年月日
独立行政法人 労働者健康安全機構 釧路労災病院	昭和35年1月22日

### 2. 法令による医療機関の指定等

法令等の名称	法令等の名称
保険医療機関 (健康保険法、国民健康保険法、労災保険法)	母子保護法指定医療機関
生活保護法指定医療機関	結核予防法指定医療機関
身体障害者福祉法指定医療機関	原子爆弾被爆者に係る指定医療機関

### 3. 政策医療等の対応状況

区分	区分
厚生労働省指定臨床研修病院（医科・歯科）	臓器提供施設
釧路圏二次救急医療機関	エイズ治療中核拠点指定病院
日本医療機能評価機構認定	地域医療支援承認病院
地域がん診療連携拠点指定病院	メディネットたんちょうネットワーク加盟施設

### 4. 学会認定施設等の対応状況

区分	区分
日本内科学会認定医制度教育関連病院	日本口腔外科学会専門医制度准研修施設
日本外科学会外科専門医制度修練施設	日本肝臓学会関連施設
日本脳神経外科学会専門医認定制度指定訓練場所	日本消化器外科学会専門医修練施設
日本病理学会研修認定施設（認定施設B）	日本血液学会血液研修施設
日本神経学会専門医制度教育関連施設	日本臨床腫瘍学会認定研修施設
日本形成外科学会認定医研修施設	乳房再建用エキスパンダー実施施設
日本形成外科学会認定施設	乳房再建用インプラント実施施設
日本整形外科学会認定医制度研修施設	日本核医学専門医教育病院
日本耳鼻咽喉科学会専門医研修施設	
日本消化器内視鏡学会専門医制度指導施設	
日本泌尿器科学会専門医教育施設	
日本消化器病学会認定施設	
日本乳癌学会関連施設	
日本脊髄外科学会認定訓練施設	
日本臨床細胞学会施設認定	
日本静脈経腸栄養学会 NST専門療法士認定規則実地修練認定教育施設	
日本栄養療法推進協議会 NST稼働施設	
日本がん治療認定医機構認定研修施設	
日本眼科学会専門医制度研修施設	

## 医科・歯科点数表

### 基本診療料

平成28年3月31日現在

承認事項	項承認年月日
1 入院時食事療養（Ⅰ）・ 入院時生活療養（Ⅰ）	昭和58年6月1日
2 臨床研修病院入院診療加算 （基幹型）	平成19年4月1日
3 医療安全対策加算	平成20年4月1日
4 歯科外来診療環境体制加算	平成20年6月1日
5 がん診療連携拠点病院加算	平成21年4月1日
6 救急医療管理加算	平成22年4月1日
7 地域歯科診療支援病院歯科初診料	平成22年4月1日
8 栄養サポートチーム加算	平成23年4月1日
9 患者サポート体制充実加算	平成24年4月1日
10 データ提出加算	平成24年10月1日

承認事項	項承認年月日
11 無菌治療室管理加算1	平成25年4月1日
12 10対1一般病棟入院基本料 （看護必要度加算）	平成25年4月1日
13 重症者等療養環境特別加算	平成25年8月1日
14 医師事務作業補助体制加算2 （40対1補助体制加算）	平成26年4月1日
15 感染防止対策加算	平成27年4月1日
16 療養環境加算	平成27年7月1日
17 診療録管理体制加算1	平成27年9月1日
18 一般病棟入院基本料	平成27年1月1日
19 褥瘡ハイリスク患者ケア加算	平成27年4月1日
20 50対1急性期看護補助体制加算	平成28年2月1日

### 特掲診療料

平成28年3月31日現在

承認事項	承認年月日
1 補綴物維持管理料 （現：クラウン・ブリッジ維持管理料）	平成8年12月1日
2 血液細胞核酸増幅同定検査 （現：造血器腫瘍遺伝子検査）	平成12年4月1日
3 高エネルギー放射線療法	平成14年4月1日
4 放射線治療専任加算	平成15年4月1日
5 直線加速器による定位放射線治療	平成16年4月1日
6 歯科治療総合医療管理料（Ⅰ） 及び（Ⅱ）	平成18年9月1日
7 ニコチン依存症管理料	平成18年9月1日
8 脳刺激装置植込術（頭蓋内電極植込 術を含む。）及び脳刺激装置交換術	平成18年10月1日
9 医療機器安全管理料1	平成20年4月1日
10 医療機器安全管理料2	平成20年4月1日
11 外来化学療法加算1	平成20年4月1日

承認事項	承認年月日
12 無菌製剤処理料	平成20年4月1日
13 集団コミュニケーション療法料	平成20年4月1日
14 外来放射線治療加算	平成20年4月1日
15 医科点数表第2章第10部手術の通 則5（歯科点数表第2章第9部の 通則4を含む。）及び6に掲げる 手術	平成20年4月1日
16 歯周組織再生誘導手術	平成20年6月1日
17 糖尿病合併症管理料	平成20年10月1日
18 ペースメーカー移植術及びペー スメーカー交換術	平成21年12月1日
19 大動脈バルーンパンピング法 （IABP法）	平成21年12月1日
20 医療機器安全管理料（歯科）	平成22年2月1日
21 検体検査管理加算Ⅳ	平成22年4月1日

承認事項	承認年月日
22 乳がんセンチネルリンパ節加算 1及び2	平成22年4月1日
23 がん患者カウンセリング料	平成22年4月1日
24 肝炎インターフェロン治療計画料	平成22年4月1日
25 センチネルリンパ節生検併用及び 単独	平成22年4月1日
26 透析液水質確保加算 I	平成22年4月1日
27 抗悪性腫瘍剤処方管理加算	平成22年4月1日
28 薬剤管理指導料	平成22年4月1日
29 膀胱水圧拡張術	平成22年4月1日
30 輸血管管理料 II	平成22年11月1日
31 がん治療連携計画策定料	平成23年11月1日
32 脊髄刺激装置埋込術及び脊髄刺激 装置交換術	平成24年1月1日
33 退院支援加算	平成24年4月1日
34 夜間休日救急搬送医学管理料	平成24年4月1日
35 外来リハビリテーション診療料	平成24年4月1日
36 がん治療連携管理料	平成24年4月1日
37 在宅患者訪問看護・指導料	平成24年4月1日
38 同一建物居住者訪問看護・指導料	平成24年4月1日
39 時間内歩行試験	平成24年4月1日
40 ヘッドアップティルト試験	平成24年4月1日
41 CT撮影（16列以上64列未満のマ ルチスライスCT）	平成24年4月1日
42 MRI撮影 （1.5テスラ以上3テスラ未満）	平成24年4月1日
43 呼吸器リハビリテーション料（I）	平成24年4月1日
44 輸血適正使用加算	平成24年4月1日
45 人工肛門・人工膀胱増設術前処置 加算	平成24年4月1日

承認事項	承認年月日
46 広範囲顎骨支持型装置埋入手術	平成24年4月1日
47 院内トリアージ実施料	平成24年5月1日
48 画像誘導放射線治療（IGRT）	平成24年10月1日
49 開放型病院共同指導料	平成24年11月1日
50 画像診断管理加算 1	平成25年4月1日
51 早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術	平成25年6月1日
52 脳血管疾患等リハビリテーション料 （I）	平成26年4月1日
53 運動器リハビリテーション料（I）	平成26年4月1日
54 糖尿病透析予防指導管理料	平成26年4月1日
55 持続血糖測定器加算	平成26年4月1日
56 1回線量増加加算	平成26年4月1日
57 歯科口腔リハビリテーション料 2	平成26年4月1日
58 外来放射線照射診療料	平成27年3月1日
59 麻酔管理料 I	平成27年4月1日
60 胃瘻造設時嚥下機能評価加算	平成27年4月1日
61 がん患者指導管理料 3	平成27年4月1日
62 がん患者指導管理料 1	平成27年5月1日
63 がん患者指導管理料 2	平成27年5月1日
64 がん患者リハビリテーション料（I）	平成27年6月1日
65 がん性疼痛緩和指導管理料	平成27年9月1日
66 神経学的検査	平成27年9月1日
67 組織拡張期による再建手術 （乳房（再建手術）の場合に限る）	平成28年2月1日
68 ゲル充填人工乳房を用いた乳房再 建術（乳房切除後）	平成28年2月1日

医科点数表第2章第10部手術の通則5及び6（歯科点数表第2章第9部の通則4を含む。）に掲げる手術

**区分1に分類される手術**

頭蓋内腫瘍摘出術等  
黄班下手術等  
鼓膜形成手術等  
肺悪性腫瘍手術等  
経皮的カテーテル心筋焼灼術

**区分2に分類される手術**

靭帯断裂形成手術等  
水頭症手術等  
鼻副鼻腔悪性腫瘍手術等  
尿道形成手術等  
角膜移植術  
肝切除術  
子宮附属器悪性腫瘍手術等

**区分3に分類される手術**

上顎骨形成術等  
上顎骨悪性腫瘍手術等  
バセドウ甲状腺全摘（亜全摘）術（両葉）  
母指化手術等  
内反足手術等  
食道切除再建術等  
同種死体腎移植術等

**その他の区分に分類される手術**

人工関節置換術  
乳児外科施設基準対象手術  
ペースメーカー移植術及び  
ペースメーカー交換術（電池交換を含む）  
冠動脈、大動脈バイパス移植術及び  
体外循環を要する手術  
経皮的冠動脈形成術  
経皮的冠動脈血栓切除術及び  
経皮的冠動脈ステント留置術

## II. 医療報告

(1) 診療部門	
・内科	15
・精神科	18
・神経内科	19
・循環器内科	20
・外科	21
・整形外科	23
・形成外科	25
・脳神経外科	28
・泌尿器科	30
・眼科	32
・耳鼻咽喉科	33
・放射線科	35
・麻酔科	37
・歯科口腔外科	38
・健康診断部	40
・中央検査科・病理診断科	41
・栄養管理部	43
(2) 中央診療部門	
・中央リハビリテーション部	44
・中央放射線部	46
・中央検査部	47
(3) 診療支援部	
・臨床工学部	48
(4) 薬剤部	51
(5) 看護部	53



# 内科

副院長 宮城島 拓 人

## 2016年度の目標と方針

平成25年度から、内科という大きな括りの中に消化器内科、血液内科、腫瘍内科を標榜し、それぞれの専門的特殊性を生かした内科を構築してきたが、これをさらに発展させ、それぞれの専門分野のレベルを上げ、地域医療に貢献する。

消化器内科は消化管悪性腫瘍の診断と内視鏡的治療をさらに浸透させ、肝炎治療の拠点病院としての任務を遂行するとともに大学との臨床研究を押し進め、すでに大学並みの胆膵疾患の診断治療レベルを維持することを目指す。

血液内科は釧路根室地域での専門性を担保するとともに、札幌で血液幹細胞移植を行った患者の地元でのサポートのシステムを構築する。

腫瘍内科は癌化学療法均てん化（全国ですべからく標準的な治療の恩恵が地域にもたらされる）のみならず、一歩進んだ最新治療の臨床治験をさらに追及し地域での最先端の治療を目指す。

また、内科という大きな括りはそのままとし、三つの専門分野以外の疾患についてもきっちりと関わっていく体制を維持する。それにより地域への貢献はもとより、研修医の懐の深い人材を育成できる。すなわち釧路労災病院内科の伝統的な『広く深く』を合言葉にした診療体制で最新の医療技術と診断能力をもって地域を守る。

## 2016年度の具体的な重点項目

- (1) ESD（粘膜下層剥離術）による食道、胃、大腸早期癌の切除数150件。
- (2) 上部消化管内視鏡6,000件、下部消化管内視鏡3,000件。
- (3) 肝炎外来の充実。
- (4) 2次救急でさらに増えることが予想される胆膵疾患の救急体制の充実。
- (5) 外来化学療法センターの稼働への取り組み。化学療法外来システムの構築。
- (6) 血液疾患の地域連携構築。
- (7) 各種学会発表、論文化の推進。若手医師には最低一回以上の学会発表を義務付ける。部長にはそれぞれの専門領域の臨床試験を依頼する。

## 2015年度診療実績

(件)

侵襲的治療、検査実績	平成25年度	平成26年度	平成27年度
上部消化管内視鏡	6,190	5,649	5,574
下部消化管内視鏡	2,913	3,150	3,317
食道ESD	8	7	11
胃ESD	66	68	83
十二指腸ESD	0	0	1
大腸EMR	460	515	622
大腸ESD	25	28	41
小腸鏡（ダブルバルーン）	14	6	8
内視鏡的止血術	68	58	98
食道静脈結紮術	5	6	31
内視鏡的硬化療法	13	10	10
異物除去	17	13	29
イレウス管	88	64	57
食道拡張術	0	0	59
胃瘻造設術	48	41	28
気管支／経気管支気管生検	123	89	35
内視鏡的乳頭切開術（EST）	83	66	84
内視鏡的バルーン拡張術（EPBD）	19	4	12
内視鏡的機械的碎石術（EML）	49	19	20
内視鏡的胆道ドレナージ（EBS）	42	53	142
内視鏡的経鼻胆管ドレナージ（ENBD）			
内視鏡的金属ステント留置術（EMS）	67	81	63

## 2015年度の評価

スタッフ14名と研修医が絶えず複数いる体制で、アクティブに内科としての活動ができた。1日平均入院患者も150人程度を維持し、地域医療の役割を果たし病院の経営にも寄与したと自負している。しかし、地域の医師数の減少、とりわけ消化器内科医の他病院での減少は、直接当科への負担増加につながり、特に救急の現場での過重労働が医師たちの疲弊に繋がったのは否定できない。若い力と義務感・責任感で乗り切ってきたが、それも限界と感じたので日中の新患救急搬送は制限することとなった。医師のQOLを見直す必要を感じた。

釧路根室地域における、血液内科の需要も極めて高く、入院治療すべき症例のほとんどは当院血液内科で対応せざるを得ない状況が続いている。血液内科医一

人当たりの入院患者も20人を超えることが日常的であるが、なんとか切り抜けてきた印象がある。

平成27年度の実績は持ち得る限りのパフォーマンスを最大限に発揮した結果であると考え。学問的などころでは、国際学会にも2演題、国内の総会でも6演題、地方会では13演題を発表した。

## 2015年度スタッフ構成

### 副院長

宮城島 拓 人

- ・日本内科学会 認定総合内科専門医・指導医
- ・日本内科学会 認定内科医
- ・日本消化器病学会 専門医・指導医
- ・日本消化器内視鏡学会 専門医・指導医
- ・日本がん治療認定機構 認定医 暫定指導医
- ・日本血液学会認定 血液専門医・血液指導医
- ・日本肝臓学会 認定肝臓専門医
- ・日本臨床腫瘍学会 暫定指導医
- ・日本エイズ学会 認定医
- ・日本医師会 認定産業医
- ・地方協力医

### 消化器内科部長

小 田 寿

- ・消化器内視鏡専門医
- ・日本静脈経腸栄養学会 認定医
- ・日本内科学会 認定医

### 腫瘍内科部長

曾我部 進

- ・日本内科学会 認定医
- ・日本消化器病専門医
- ・日本臨床腫瘍学会がん薬物療法専門医
- ・日本臨床腫瘍学会 暫定指導医
- ・日本がん治療認定機構 認定医

### 消化器内科部長

羽 場 真

- ・日本内科学会 認定内科医
- ・日本消化器病専門医

### 血液内科部長

岡 田 耕 平

- ・日本血液学会 認定血液専門医
- ・日本内科学会 認定内科医

### 消化器内科部長

高 橋 一 宏

- ・日本内科学会 認定内科医
- ・日本消化器内視鏡学会 消化器内視鏡専門医

### 消化器内科部長

寺 下 勝 巳

- ・日本内科学会 認定内科医
- ・日本消化器病学会 消化器病専門医
- ・日本消化器内視鏡学会 内視鏡専門医
- ・日本肝臓学会 肝臓専門医

### 腫瘍内科部長

小 林 良 充

- ・日本内科学会 認定内科医
- ・日本消化器病学会 専門医
- ・日本肝臓学会 認定肝臓専門医
- ・日本消化器内視鏡学会 消化器内視鏡専門医
- ・日本がん治療認定医機構 認定医

### 内科医師

中 島 正 人 ・ 北 原 言

平 田 甫 ・ 中 野 真太郎

二 瓶 壮 史 ・ 横 山 翔 大

## 主な対象疾患

### 消化器癌

(食道癌、胃癌、大腸癌、肝臓癌、胆管癌、胆嚢癌、その他)

### 肺癌、血液悪性腫瘍

(リンパ腫、多発性骨髄腫、白血病、MDSその他)

### 他の血液疾患

(貧血、多血症、血小板減少症、凝固異常症、その他)

### 炎症性疾患

(肝炎、膵炎、胆管炎、胆石症、肺炎、胸膜炎、その他)

気胸、糖尿病、他の代謝性疾患、自己免疫性疾患、腎不全 など。

## 特色

消化器領域、血液領域、癌化学療法の専門領域の疾患については全国レベルを維持し、均てん化に寄与している。それ以外の領域疾患についても、地域の実情を鑑み積極的に対応している。また、専門性を生かしてセカンドオピニオンの提供も積極的に行っている。

## 臨床研修医教育内容

日本内科学会認定医制度教育関連病院、日本消化器病学会認定施設、日本消化器内視鏡学会専門医制度指導施設、日本臨床腫瘍学会認定施設、日本がん治療認

定医機構認定研修施設、日本肝臓学会関連施設、日本胆道学会指導施設、日本血液学会認定血液研修施設、など多彩な教育施設となっており、それぞれの専門医・指導医を持つ部長が、若手をOn Jobで指導し、専門医を育成する環境が整っている。

また、各種学会へも積極的に参加することで知識技術のブラッシュアップを図っている。

完全主治医制で、研修医でも責任を持って患者、家族と対応することになるが、一人で抱え込まないように、全員参加のカンファレンスを充実している。

週二回の病棟カンファレンスでは、研修医が主治医として受け持ち患者をプレゼンし、指導医から指摘や教育を受ける。これにより主治医として関わらなくても、多岐にわたる多くの疾患を経験することができ、疾患の偏りが無い経験値が格段に向上する。少なくとも新しい内科専攻医研修制度で求められる疾患のほとんどを網羅できる。

## ■ 2016年度の目標と方針

初診患者さんの総数に対して再来継続となる患者さんの割合が少ないと思われる、これは当科初診患者さんの約半数を占めるのは当院入院中の患者さんであるが、入院中初診患者さんの状況（入院中で一過性に精神症状が悪化した場合にだけ対応する、退院後は地元他院へ通院する、本人が退院後当科通院に同意しない等）が再来に移行しにくい面がある。当院外からの紹介患者さんは比較的多くが再来に移行しているが、通院が必要であるにもかかわらず不規則通院であったり自己中断で悪化するまで再来受診しない患者さんも散見される。これらの状況改善が今年度の目標、方針となる。

## ■ 2016年度の具体的な重点項目

入院患者さんに対して当院退院後も継続的な対応ができるようにすることが重点目標となる。また、不規則通院も可能な限り是正する必要がある。

## ■ 2015年度の評価

精神科外来再開後2年目であったが若干の外来患者数の増加に止まっている。ただし、初診患者さんの受診依頼から初診までの期間は短いと思われる。

## ■ 2015年度スタッフ構成

### 精神科部長

村田佳應

- 日本精神神経学会 精神科専門医
- 精神保健指定医
- 日本医師会認定産業医

## ■ 主な対象疾患及び特色

当院には入院病棟がないこと、精神保健指定医が1名であることから措置入院（緊急措置入院を含む）、医療保護入院、応急入院、任意入院のいずれもができない。中心となる疾患は精神病圏ではなく神経症圏である。最初から入院が必要と判断される患者さんは入院病棟を保有する病院にお願いすることになる。

特色については、外来での対応が可能であれば比較的待ち日数は短く初診対応が可能である。心理士が常駐しているので必要と判断されれば精神科カウンセリング、各種心理検査が可能である。最近は成人の発達障害に関する心理検査が多い傾向にある。

# 神経内科

部長 津坂和文

## 2016年度の目標と方針

当院の神経内科は帯広以東の唯一の、神経内科専門医による科である。地域のニーズに応えるべく、ほぼすべての神経疾患について、全国的に見ても遜色のないスタンダードな医療を目指している。

競合施設が近隣にないため、数値目標としては昨年、および一昨年年がみ妥当と考えている。

当科は神経学会准教育施設であり、研修医への教育指導にも力を入れている。

## 2016年度の具体的な重点目標

- (1) 地域からの受け入れをいとわない。たとえ休日でも、できうる限り患者の受け入れをして、地域医療機関に貢献していく。
- (2) 学会発表をとおして、研修医、若手医師の教育、指導をしていく。
- (3) 保健師と連携し、難病患者の在宅医療、地域での療養を支援していく。(難病患者在宅ケア連絡会議が年4回。また、今年度から難病対策地域協議会にも参加。)
- (4) 訪問診療の継続

## 2015年度診療実績

### (1) 入院患者疾患分類集計 (人)

	平成25年度	平成26年度	平成27年度
総計	210	164	176
パーキンソン〈Parkinson〉病	21	32	28
多発性硬化症	13	13	22
脊髄性筋萎縮症及び関連症候群	16	12	14
自律神経系の障害	10	9	14
炎症性多発(性)ニューロパチー	10	4	7
神経根及び神経そう<叢>の障害	2	1	5
重症筋無力症及びその他の神経筋障害	9	3	5
神経系のその他の変性疾患、他に分類されないもの	8	4	5
皮膚(多発性)筋炎	0	0	5
その他の急性播種性脱髄疾患	1	1	4
その他	120	85	67

## 2015年度の評価

地域医療機関のニーズに応えることは、ある程度達成できたと思っている。直接の依頼は基本的に断っていない。入院患者が減っているのは、DPCで検査入院を極力減らしてきたためかと思っている。

## 2015年度スタッフ構成

### 神経内科部長

津坂和文

- ・日本内科学会 認定医
- ・日本神経学会 専門医

### 神経内科医師

江口克紀

### 嘱託医

伊藤芳子(月2回 2日)

- ・日本内科学会 認定内科医
- ・日本神経学会 専門医
- ・日本神経学会 認定医

中村雅一(月1回 2日)

上床尚(月1回 2日)

## 主な対象疾患

神経疾患(脳・脊髄疾患)

神経筋疾患(末梢神経疾患、筋疾患) など

## 特色

神経疾患・神経筋疾患全般についての、診断、治療、療養の相談をおこない、これらの疾患の「医療空白地帯」とならないよう努力している。

## 臨床研修医教育内容

日本神経学会 准教育施設である。帯広以東の道東地区の神経疾患を一手に引き受けている当科は、症例も豊富であり、片寄りなく、広く症例を経験することが出来る。それらの症例の診断から、治療、さらには終末期まで当科で経験することが出来る。

新外来患者のプレゼンテーション、入院患者の方針検討は毎日おこなっている。研修医にはトレーニングの機会が十分にあると思われる。神経学会地方会には毎回演題を出しており、研修医にもその機会を提供している。

## 2016年度の目標と方針

平成27年度の状況と今後の展望について

昨年度は常勤1名と非常勤1名（週2回勤務）で従来どおり、外来診療中心の診療活動でした。患者数は若干増加傾向であるが、予約枠は慢性的にオーバーブッキングとなること多く、待ち時間が長くなり、ややもすると患者様にはご迷惑をお掛けしてしまっている。

入院診療としては、ペースメーカ植え込み症例中心の診療を行っているほか、他科入院患者の循環器系合併疾患の状態評価、経過観察などを、関連各科にご協力いただき、行っている。

外来では、おもに慢性心不全、高血圧、不整脈に加え、末梢血管疾患の状態評価、投薬管理などのfollow、他科の術前症例の心機能評価などを中心に行っている。

新患症例についても、スクリーニング評価を積極的に行い、必要に応じて高度医療可能な施設との連携を密に保つよう努めていく。平成28年度も基本的に現行の態勢となる。

## 2015年度スタッフ構成

循環器科部長

鮫 島 睦 生

- 日本胸部外科学会 認定医
- 日本外科学会 外科専門医
- 日本外科学会 認定医

## 2015年度診療実績

### (1) 入院患者疾患分類集計 (人)

	平成25年度	平成26年度	平成27年度
総計	3	10	4
その他の不整脈	2	4	3
心房細動及び粗動	0	1	1
リンパ管及びリンパ節のその他の非感染性障害	1	3	0
房室ブロック及び左脚ブロック	0	2	0

### (2) 手術実績 (件)

<麻酔別>		平成25年度	平成26年度	平成27年度
総計		2	6	4
局所		2	6	4
<疾患・術式別>		平成25年度	平成26年度	平成27年度
総計		2	6	4
その他の不整脈		2	3	3
心房細動及び粗動		0	1	1
房室ブロック及び左脚ブロック		0	2	0

## 2016年度の目標と方針

消化器外科、乳腺外科、緩和ケアを三本柱として地域医療への貢献を第一に考えます。外科医数は平成27年度に1名減となり、大学の研修医不足の影響を受けて今年度はさらに1名減となりました。外来担当医師数も3名から2名に減らさざるを得ず、患者さんをはじめとして皆様にご迷惑をおかけしております。しかしながら、手術件数もその質も低下させることなく、より安全で確実な外科治療を目指して努力します。

## 2016年度の具体的重点項目

### ・腹腔鏡手術の適応拡大と合併症対策

より患者さんにやさしい手術（低侵襲手術）としての腹腔鏡手術を積極的に実施し、術後感染症を含む合併症の減少に努めます。

### ・乳がん治療の多様化に対応

癌の進行度と生物学的特徴に応じた治療法を提案し、治療成績の向上を目指します。手術においては、部分切除＋放射線照射＝温存療法から、形成外科との協働による一次・二次乳房再建まで、多様なニーズに応えられる体制を確保します。

### ・緩和ケア外来の強化

院外からの紹介や院内他科からの要請に対応すべく、がん看護専門看護師とのチーム連携による緩和ケア外来を強化します。緩和ケア専門医のいない当院において限界はあるものの、地域在宅医療システムとの連携を深めてニーズに応えます。緩和ケア病床の活用により入院と在宅のスムーズな移行を図ります。

### ・新たな専門医制度に対応する教育体制

従来通り、多くの手術を経験できることはもちろん、大学や関連病院から技術認定医・指導医の応援を得て、地方病院の不利を払拭し、高度な技術を持つ専門医を育成します。

### ・顔の見える関係を通じた地域連携

スタッフ外科医は積極的に院内・院外の研修会や医師会行事に参加し、地域の皆さんとふれあう機会を増やすようにします。とくにドクター・トゥ・ドクターの連携がよりスムーズに行われるよう、医師同士の関係を密にします。

## 2015年度診療実績

### (1) 入院患者疾患分類集計

(人)

	平成25年度	平成26年度	平成27年度
総 計	1,149	973	910
乳房の悪性新生物	253	236	217
そけい<鼠径>ヘルニア	93	102	90
結腸の悪性新生物	93	84	83
胆石症	114	82	83
胃の悪性新生物	60	58	51
急性虫垂炎	52	43	37
直腸の悪性新生物	82	47	31
その他の外因の作用	23	23	26
消化器系の処置後障害、 他に分類されないもの	19	13	15
直腸S状結腸移行部の悪性新生物	8	17	14
その他	352	268	263

### (2) 手術実績

(件)

<麻酔別>	平成25年度	平成26年度	平成27年度
総 計	708	640	580
全 麻	663	581	537
局 麻	42	56	42
脊 椎	3	1	1

<疾患・術式別>	平成25年度	平成26年度	平成27年度
総 計	708	640	580
そけい<鼠径>ヘルニア	101	114	87
胆 石 症	107	94	77
結 腸 の 悪 性 新 生 物	79	73	70
乳 房 の 悪 性 新 生 物	74	55	58
胃 の 悪 性 新 生 物	48	44	45
急 性 虫 垂 炎	50	43	38
直 腸 の 悪 性 新 生 物	44	38	36
隣 の 悪 性 新 生 物	10	9	9
そ の 他	195	170	160

## 2015年度の評価

マンパワーの低下（副院長にスタッフ6名）、手術枠の削減と激しい逆風の中、手術件数は減少しましたが、外科医の仕事は手術だけではありません。乳がん検診、振動障害等の労働災害に対する外来・入院診療、禁煙外来、緩和ケアチームを通じての活動など多岐にわたっています。

一切の診療制限を行わず少ない外科医でキャパシテ

イ以上の業務を遂行したと考えています。

## 2015年度スタッフ構成

### 副院長

小笠原 和 宏

- ・日本外科学会 認定医・専門医・指導医
- ・日本消化器外科学会 専門医・  
消化器がん外科治療認定医
- ・日本消化器病学会 専門医・指導医
- ・日本乳癌学会 認定医・乳腺専門医
- ・検診マンモグラフィ読影認定医師
- ・日本がん治療認定医機構 認定医 暫定指導医
- ・日本外科感染症学会 インфекションコントロールドクター
- ・日本医師会 認定産業医
- ・日本職業・災害医学会 労働災害認定指導医
- ・乳房再建エキスパンダー／インプラント基準医師
- ・地方労災委員

### 外科部長

小 林 清 二

- ・日本外科学会 専門医・指導医
- ・日本消化器外科学会 認定医・専門医
- ・日本内視鏡外科学会 技術認定医

河 合 朋 昭

- ・日本外科学会 認定医・指導医
- ・日本消化器外科学会 専門医
- ・日本消化器病学会 がん外科治療認定医
- ・日本乳癌学会 認定医
- ・マンモグラフィ読影認定医

### 外科副部長

江 本 慎

- ・日本外科学会 専門医・指導医
- ・日本消化器外科学会 認定医・専門医
- ・日本内視鏡外科学会 技術認定医
- ・マンモグラフィ読影認定医

### 外科医師

宮 岡 陽 一 ・ 柴 田 賢 吾  
吉 田 祐 一

## 臨床研修医教育内容

日本外科学会修練指定施設、日本消化器外科認定施設、日本乳癌学会認定施設（2016年度申請中）であり、豊富な手術経験を積んで早いタイミングで外科専門医を取得するための基礎を学ぶことができます。

多数の消化器外科専門医のほか、内視鏡外科技術認定医や乳腺専門医を育成した実績があります。外科医の経験を基盤として緩和ケア専門医に転身した医師もいます。幅広い臨床経験を約束できる環境です。

## 主な対象疾患および特色

- ・消化器がん（胃癌・大腸癌・肝胆膵癌・食道癌など）
- ・乳がん
- ・胆石症・消化器良性疾患
- ・急性虫垂炎など手術を必要とする感染性疾患
- ・鼠径ヘルニア、大腿ヘルニアなど
- ・手術後の合併症や後遺障害など

## 2016年度の目標及び方針

整形外科は運動器疾患を診断・治療する分野で、主にその疾病は変性疾患と外傷に大別されます。5名体制で診療活動を行っており、脊椎専門医（放生）と下肢専門医（藪内・関口）が常勤し、それぞれの分野で手術をはじめとした専門的な治療に当たると同時に、若手医師の育成を行っております。

脊椎専門医は日本脊椎脊髄病学会指導医であり、脊椎疾患の治療はもちろんのこと、脊椎外科医の育成を行っております。

その他、北大から上肢・下肢専門医の診療応援があり、運動器疾患のあらゆる分野において専門性の高い高度な医療を提供しております。

釧路市内のみならず、道東全域および道北・十勝地区からも患者さんを紹介して頂き、地域の中核病院としての役割が強く求められております。その期待に応えるべく、高い医療水準を保ちながら、患者一人一人に合わせた柔軟な治療を心掛けています。

## 2016年度の具体的な重点項目

### • 脊椎外科専門治療の推進

当科脊椎専門医は釧路地区で唯一人の日本脊椎脊髄病学会指導医です（学会HP）。脊椎外科治療には豊富な知識と高度な技術が要求されることが多く、その専門性を生かした治療を推進していくと同時に、脊椎外科医育成にも重点的に注力していくことを目指しています。

### • 膝関節疾患治療の重点化

変形性膝関節症に対し、人工関節置換術に加えて、関節を温存した手術治療（HTO手術）を重点的に行っていきます。また、北海道大学整形外科と協力しながら、本手術の有効性を確認し、術式の更なる改良を行っていきます。

### • スポーツ医学

整形外科の特徴的な分野であるスポーツ医学を通じて、競技レベルからレクリエーションレベルまで、患者に合わせた診断・治療を行います。

### • 運動器外傷への積極的な取り組み

地域の中核病院における整形外科として、救急医療に欠くことのできない運動器外傷に積極的に取り組みます。

### • 骨粗鬆症の社会啓蒙活動と検査・治療の推進

骨粗鬆症は50歳以上の女性の3人に1人が患っているとされていますが、実際に治療を受けているのはその1/6未満とされています。本疾患の存在と治療の重要性を社会に啓蒙すると同時に、検査・治療を推進していきます。

### • 整形外科専門医の育成

当院は日本整形外科学会研修施設であり、整形外科専門医教育を積極的に行ってきました。これからも、臨床および学術的な指導を行うことにより整形外科医学教育にも注力していきます。

### • 地域の整形外科医への指導

釧路市整形外科医会（当科部長が会長を兼任）の取り組みとして、症例検討会・講演会などを積極的に開催し、地域の整形外科診療レベルの向上を図ります。

## 2015年度診療実績

### (1) 入院患者疾患分類集計

(人)

		平成25年度	平成26年度	平成27年度
総	計	1,361	1,265	1,069
	膝の関節及び靭帯の脱臼、捻挫及びストレイン	131	115	116
	膝関節症【膝の関節症】	85	95	86
	大腿骨骨折	78	89	71
	肩及び上腕の筋及び腱の損傷	79	89	63
	その他の脊椎障害	66	62	61
	下腿の骨折、足首を含む	66	60	51
	股関節症【股関節部の関節症】	33	33	51
	前腕の骨折	72	60	49
	その他の変形性脊柱障害	31	61	45
	肩及び上腕の骨折	69	57	37
	その他	651	544	439

### (2) 手術実績

(件)

		平成25年度	平成26年度	平成27年度
＜麻酔別＞				
総	計	1,016	1,031	854
全	身	681	651	554
脊	椎	186	177	164
伝	麻	125	144	126
局	所	23	59	10

<麻酔別>		平成25年度	平成26年度	平成27年度
静	脈	1	0	0
<疾患・術式別>		平成25年度	平成26年度	平成27年度
総	計	1,016	1,031	855
膝の関節及び靭帯の脱臼, 捻挫及びストレイン		129	111	116
膝関節症【膝の関節症】		83	92	86
大腿骨骨折		63	72	64
肩及び上腕の筋及び腱の損傷		77	89	63
股関節症【股関節部の関節症】		31	33	51
下腿の骨折, 足首を含む		53	51	50
前腕の骨折		68	59	46
肩及び上腕の骨折		77	89	31
その他の脊椎障害		27	30	30
上肢の単ニューロパチー		29	55	29
その他		379	350	289

## 2015年度評価

今年度よりも1名多い6名で診療活動を行っており、さらに整形外科3分野（脊柱・上肢・下肢）の各専門医がいたため、全ての領域で高度な治療が可能でした。そのため、手術数は850件を超え、地域の中核病院として重要な役割を果たしてきたと考えています。今年度は常勤医が5名となり、上肢専門医が不在となっていますが、北海道大学整形外科からの診療応援により、専門性の高い、高度な治療水準を維持していきます。

## 2015年度スタッフ構成

### 整形外科部長

放生 憲 博

- ・日本整形外科学会 専門医
- ・日本整形外科学会 脊椎脊髄病医
- ・日本脊椎脊髄学会 指導医
- ・日本整形外科学会 運動器リハビリテーション認定医

### 整形外科部長

五十嵐 達 弥

渡 辺 直 也

- ・日本整形外科学会 専門医

### 整形外科医師

関 口 博 丈

- ・日本整形外科学会 専門医

釜 場 大 介 ・ 江 畑 拓

## 主な対象疾患及び特色

### 主な対象疾患

#### <脊椎疾患>

- ・腰部椎間板症
- ・腰椎椎間板ヘルニア
- ・脊椎分離症・すべり症
- ・腰部脊柱管狭窄症
- ・腰椎変性すべり症
- ・腰椎変性側弯症
- ・頸椎椎間板ヘルニア
- ・頸椎症・頸髄症
- ・頸椎後縦靭帯骨化症
- ・骨粗鬆症・脊椎圧迫骨折
- ・脊椎腫瘍
- ・脊椎脊髄損傷
- ・胸髄症（ヘルニア、脊椎症、靭帯骨化）
- ・化膿性・結核性脊椎炎
- ・脊柱側弯症

#### <下肢疾患>

- ・変形性膝関節症
- ・変形性股関節症
- ・膝前十字靭帯損傷
- ・膝半月板損傷

## 特色

整形外科の主要疾患はすべて対象としています。脊椎疾患に対して高度な専門性の高い治療を目指します。下肢疾患に対しては、北海道大学整形外科と協力しながら最先端の治療を提供してまいります。また、上記以外の疾患についても、北海道大学整形外科からの診療応援により、適切な治療を行っています。

## 臨床研修医教育内容

当院は日本整形外科学会研修施設であり、整形外科専門医教育を積極的に行っています。整形外科カンファレンスを毎日行い、整形外科学の基礎的な知識から検査・診断へのプロセス、実際の保存・手術治療まで、個別の症例ごとに全員で検討しています。

また、学会や研究会への発表・論文作成指導もっており、様々な方面からの教育を目指しています。

# 形成外科

部長 池田正起

## ■ 2016年度の目標及び方針

当科は釧路医療圏、根室医療圏における唯一の形成外科学会認定施設であり、多くの形成外科疾患に対応しています。北海道大学病院形成外科、蘇春堂形成外科との連携により、最先端の医療を提供できるように体制を整え、また必要に応じて大学病院をはじめ適切な医療機関へ紹介を行っております。

褥瘡や外傷など地域の他施設からの受け入れも多く、外来受診できない他施設の入院患者については必要に応じて往診で対応しています。

初期臨床研修医や形成外科専攻医への教育指導についても随時行っており、形成外科専門医を目指す人材の育成を図っております。

## ■ 2016年度の具体的な重点項目

### • 抗PD-1抗体による悪性黒色腫の治療

腫瘍内科医との協力で平成27年度より開始した抗PD-1抗体による悪性黒色腫の治療について、釧路・根室医療圏では当院が唯一実施可能な施設であり、頻回の通院が必要な外来化学療法についても対応しています。なお悪性黒色腫の治療に関しては、放射性同位元素を用いたセンチネルリンパ節生検など当院で実施できない一部を除き、当院で一貫して診断、治療を行っています。

※平成28年6月現在、悪性黒色腫に対する本治療が可能な施設は北海道内で14施設（全国200施設）

### • 人工物を用いた乳房再建（一次再建および二次再建）

平成27年度より外科との協力で北海道内で7番目の乳房再建用エキスパンダー実施施設（一次・二次両方）として認定を受け、手術を開始しました。本術式に豊富な経験を持つ蘇春堂形成外科との協力により、高水準な再建技術を提供できるよう努力しております。

### • 地域の糖尿病性足病変治療の取り組み

平成27年度に市民講演で糖尿病性足病変について話す機会を得ました。現在の釧路・根室医療圏では、糖尿病の専門的治療と下肢の血行再建、形成外科の入院治療を全て同時に行うことができる施設が存在しないため、多施設の協力が不可欠です。今年度は糖尿病治療に関する講演会等への参加を通じ、地域の体制について協議を進めたいと考えています。

当科は皮膚灌流圧（SPP）測定を行うことで虚

血肢の評価が可能であり、足部での小切断や壊死組織のデブリードマン、植皮などの手術治療や高圧酸素療法などの保存的治療を行っております。

### • 術後電子線照射、あるいはステロイド局注を併用したケロイド治療

2014年度より外傷や手術後の肥厚性瘢痕やケロイドの治療について、従来の切除+術後電子線照射による治療の他に、術後ステロイド局注による治療を行っています。この2つの治療法は術後再発率に差がないと報告されており、通院頻度等について患者の希望に沿った治療を選択しています。

### • 医療スタッフへの教育活動を活発化する

当院併設の看護学校において、学生への授業を年に4時間担当しております。その他、新しい治療を導入する際には院内勉強会を開催し、関係部署のスタッフの教育に努めております。

今年度は専攻医と協力し、病棟、手術室、外来のスタッフを対象とした勉強会を定期的に開催し、知識の共有と日々の診療の質の向上を目指しています。

### • 形成外科専攻医の学術的活動および研修の奨励

専攻医は形成外科専門医取得のため年1回の学術講習会出席を行うことを目標とし、また努力目標として学会発表、あるいは論文投稿を年1回行う方針としています。専門医はその際に必要な指導を行い、また新制度に対応するために指導医の取得のため必要となる講習会や分野専門医の申請を行う予定です。これらと並行して当院の施設認定を維持することを目標とします。

## ■ 診療実績

平成25年度から平成27年度まで3年間の診療実績については表に示す通りです。

### 1：診療実績

年 度	2013	2014	2015
形成外科新患者数	1024	1134	1295
形成外科入院患者数 (延べ人数ではない)	299	272	389
全手術件数	1091	1093	1099
入院手術	389	390	388
外来手術	702	703	711
全身麻酔	206	250	245

年 度	2013	2014	2015
局所麻酔、その他の麻酔	885	843	854
外傷	248	254	242
熱傷・凍傷・化学損傷・電撃傷等	24	7	10
顔面軟部組織損傷	93	77	104
顔面骨折	26	37	36
頭部・頸部・体幹の外傷	17	25	22
上肢の外傷	65	81	52
下肢の外傷	23	27	18
先天異常	29	11	25
唇裂・口蓋裂	2	2	4
頭蓋・顎・顔面の先天異常	19	6	14
頸部の先天異常	0	0	1
四肢の先天異常	3	2	5
体幹の先天異常	5	1	1
腫瘍	552	572	553
良性腫瘍（レーザー除く）	463	485	444
悪性腫瘍	89	87	105
腫瘍切除後の組織欠損（一次再建）	0	0	4
瘢痕・瘢痕拘縮・ケロイド	28	28	22
難治性潰瘍	57	83	69
褥瘡	16	19	13
その他の潰瘍	41	64	56
炎症変性疾患	173	128	170
美容外科	1	0	0
その他	2	1	0
レーザー治療	1	16	18
良性腫瘍でのレーザー治療例	1	16	17
美容処置でのレーザー治療例	0	0	1

形成外科医の常勤2名の施設として認定施設基準を大きく上回る手術症例数を有しておりこれを維持しております。手術の内訳として全体の約半数が腫瘍1/4が外傷でありその他の手術も炎症変性疾患（眼瞼下垂症など）を筆頭に多岐に渡ります。

外来新患者数は増加傾向にあり新しく開始した治療も含め地域の医院病院との協力の輪を広げより多くの患者に適切な形成外科診療を提供できるよう尽力する方針です。

## 2015年度の評価

診療スタッフ2名による診療を行い、入院外来患者数、手術件数はいずれも前年度より増加しました。新しい試みとして抗PD-1抗体による悪性黒色腫の治療と、人工物を用いた乳房再建を開始しました。前者は2-3週間ごとの通院と多数の観察項目（及び全例調査）があり、大学病院など遠方への通院を要せず地域で治療可能となったことは非常に大きいと考えます。

後者についても2013年より保険適応となったティッシュ・エキスパンダーとシリコンインプラントによる治療を地域で実施可能となり、今後は件数が増加すると考えています。

平成27年度は乳腺外科志望の初期臨床研修医1名が当科で短期研修を行い、乳房一次再建をはじめ多くの形成外科手術や診療の現場を経験しました。将来の乳がん診療、乳房再建の際にこの経験を生かして活躍することを期待しております。

## 2015年度スタッフ構成

### 形成外科部長

池田正起

- ・日本形成外科学会 専門医
- ・日本がん治療認定医機構 認定医

### 形成外科医師

小田陽一郎

### 臨床研修医

押野智博

## 主な対象疾患及び特色

主な対象疾患 ※形成外科学会の項目に準じて記載

### [外傷]

熱傷・凍傷・化学損傷・電撃傷  
顔面軟部組織損傷・顔面骨折、眼窩骨折、頬骨骨折、鼻骨骨折など  
頭部・頸部・体幹・上肢・下肢の外傷  
外傷後の組織欠損

### [先天異常]

唇裂・口蓋裂  
（北海道大学病院や釧路赤十字病院と連携）  
頭蓋・顎・顔面・頸部の先天異常  
四肢・体幹（その他）の先天異常：多指（趾）症など

### [腫瘍]

良性腫瘍：粉瘤、色素性母斑（ほくろ）、脂肪腫など  
悪性腫瘍：悪性黒色腫、有棘細胞癌、基底細胞癌など  
腫瘍の続発症  
腫瘍切除後の再建（一次・二次再建）

### [瘢痕・瘢痕拘縮・ケロイド]

外傷後や手術後の瘢痕・肥厚性瘢痕・ケロイド、ピアスケロイド等

### [難治性潰瘍]

褥瘡・その他の潰瘍（糖尿病性潰瘍、虚血性潰瘍など）

### [炎症・変性疾患]

眼瞼の変性疾患：眼瞼下垂、眼瞼内反など  
爪の変性疾患：巻き爪、陥入爪など（手術、超弾性ワイヤー）

### [美容]

美容外科に類する保険外診療は現在行っておりません

### [その他]

腋臭症（手術、保存的治療）  
顔面神経麻痺（リハビリ指導、再建術など）

### [レーザー治療]

色素レーザー・Qスイッチ付キルビーレーザー（故障中）

単純性血管腫

毛細血管拡張症

※Qスイッチ付キルビーレーザーが故障中のため、  
以下の疾患は現在治療できません

異所性蒙古斑

太田母斑

外傷性色素沈着症

扁平母斑

しみ（保険外）

刺青除去（保険外）

## ■ 特色

ほぼ全ての形成外科疾患を対象としています。

釧路・根室医療圏は当院の他に形成外科医が常勤している施設がなく、外傷、先天異常、炎症・変性疾患（特に眼瞼下垂・内反）のニーズが総じて高いことが特色です。悪性腫瘍についても地域での治療を希望する患者が多く、当科でも可能な限り多くの治療法を提供できるよう努力しております。加えて必要に応じて北海道大学病院をはじめ他施設とも連携をとって診療にあたっています。

形成外科はチーム医療に携わることが多いですが、当院においても再建を中心に多くの科と合同手術を行っております。また内科から悪性リンパ腫のリンパ節生検などの依頼にも対応しています。

平成27年度より開始した抗PD-1抗体（ニボルマブ）による悪性黒色腫の治療と人工物を用いた乳房再建に関して、現在も継続して実施しております。

## ■ 臨床研修医教育内容

当科での研修を選択した初期臨床研修医を対象とし、疾患の知識や診察法についての教育から、具体的な手術

術手技に至るまで個別に指導を行っています。

研修期間に応じて習得できる内容は変わりますが、形成外科疾患に対する基本的な考え方や対処法の理解、また手術手技の基本と技術のトレーニングについて学ぶことを目標としています。

## 2016年度の目標及び方針

救急、紹介患者さんを全て受け入れることは、もちろん、労災病院（脳外科）にかかりたいと思われることが、診療実績につながる。

そのためにひとつは診療内容の充実のための医師全員の自覚が必要。

少ない医師数なので、各自が、診療内容の共有、協調、協力、そして無駄のない適正な言動で何人力の働きをしているのに、正論だからと言って、状況に合わない身勝手な考えで言動行動を、度を大きく越して行ってしまうのは、優越誇示自己満足で、医師同士のみならず、院内各所に不快悪影響を及ぼし、患者さんには悪評価される訳で、仲間はずなのに、まるで敵だ。これではどこへ行っても同じ評価だし自覚して自分をセーブして活躍貢献して頂きたい。

労災を選んでもらう、もう一つは、知ってもらうこと、ホームページのみならずYouTubeが有効では。

もう一つは、患者サービスというか、受診しやすいこと。対策を考えれる、委員会などが必要では。入りやすさ、待ち時間問題など。

## 2016年度 具体的な重点項目

繰り返しになるが、受診希望者の増加のため、当科としては医師の充実。

病院の協力が必要：情報発信の工夫、受け入れる外来サービスの向上。脳外科救急（救急車、ドクターヘリ）の大きな偏りの是正に向けて。

## 2015年度診療実績

### (1) 入院患者疾患分類集計 (人)

	平成25年度	平成26年度	平成27年度
総計	927	896	827
脳梗塞	156	178	174
神経根及び神経そう<叢>の障害	200	139	147
脳内出血	61	59	62
その他の脊椎障害	22	46	44
頭蓋内損傷	42	45	35
その他の脳血管疾患	34	24	30
てんかん	33	29	27
前庭機能障害	20	8	22
脊椎症	21	25	18
くも膜下出血	10	15	18
その他	328	328	250

### (2) 手術実績 (件)

<麻酔別>		平成25年度	平成26年度	平成27年度
総計	計	332	311	272
局麻	麻	169	151	88
全身	身	163	159	184
伝麻	麻	0	1	0

<疾患・術式別>		平成25年度	平成26年度	平成27年度
総計	計	332	311	272
神経根及び神経そう<叢>の障害		99	95	47
その他の脊椎障害		33	33	39
脳内出血		16	24	24
その他の脳血管疾患		21	15	16
くも膜下出血		13	9	15
その他の非外傷性頭蓋内出血		10	10	14
その他の椎間板障害		9	14	13
脊椎症		21	16	12
頭蓋内損傷		9	13	11
脳の悪性新生物		7	1	9
その他		94	81	72

## 2015年度の評価

手術件数：約340件。

2014年は約430件。2013年約460件から見て、大幅に減った。

原因は当科受診者の増加がないことと、全麻手術枠減少による士気の低下と当科医師の問題。

問題ある医師は、恥ずかしながら意外と多いが、まだまだ修行の身なのに、言うこと聞けない、自己中で迷惑三昧である者は厳しい。自分をセーブし同じ考え方で診療に当らなければならない。

## 2015年度スタッフ構成

脳外科なのにスタッフ全員脊髄外科専門医。指導医井須先生のもと脊髄末梢神経診療が充実している、脳から手足の神経まで診療する日本でも屈指の施設。脳、救急は指導医磯部で、実働：山崎、松本、佐藤（10月から大学戻り）、院内対応も転移病巣対応を含め充実。

### 脳神経外科部長

磯部 正則

- ・日本脳神経外科学会 指導医
- ・日本脊髄外科学会 専門医

**脳神経外科部長**

井 須 豊 彦

- ・日本脳神経外科学会 専門医
- ・日本脳卒中学会 専門医
- ・日本脊髄外科学会 指導医

**脳神経外科部長**

山 内 朋 裕

- ・日本脊髄外科学会 認定医
- ・日本脳神経外科学会 専門医

**脳神経外科部長**

岩 本 直 高

- ・日本脳神経外科学会 専門医

**脳神経外科副部長**

山 崎 和 義

- ・日本脳神経外科専門医
- ・日本脊髄外科専門医

斉 藤 拓 実

**■ 主な対象疾患及び特色****救急医療**

- ・くも膜下出血(破裂脳動脈瘤)、脳内出血、脳梗塞
- ・外傷性頭蓋内出血(硬膜内外、脳内)、脊椎硬膜内外出血

これらには、救急手術対応で、休日・深夜でも行える。

**脳外科領域**

- ・脳腫瘍
- ・脳動脈瘤、動静脈奇形
- ・顔面けいれん、三叉神経痛
- ・水頭症

**脊髄・末梢神経領域**

- ・頸椎症、後縦靭帯骨化症、脊柱管狭窄症、椎間板ヘルニア

**腰痛の治療**

- ・腰椎ヘルニア、狭心症、すべり症など以外に、上殿皮神経障害などの臀部末梢神経障害が、腰痛の原因であるものの治療も特色。

## 2016年度の目標及び方針

泌尿器科は、泌尿器科疾患全般に対応することはもちろんであるが、癌診療連携拠点病院として、腎・腎盂尿管・膀胱・前立腺・精巣癌に対する診断、治療、フォローアップに重点を置いている。腎癌、腎盂尿管癌に対しては腹腔鏡手術を標準術式として早期腎癌に対しては部分切除による腎温存術を行っている。膀胱癌に対しては経尿道的手術、膀胱全摘術と尿路変更(回腸導管、代用膀胱)、前立腺癌に対してはQOLも考慮した前立腺全摘除術を行っている。進行癌や再発・転移癌に対しては、分子標的治療薬や化学療法、放射線治療も患者の状態を十分考慮した上で積極的に施行している。各種癌に対する治療成績の関しても標準的治療が行えていることを検証・発表することを重要視している。

腎不全に関しては、保存期の内シャント造設と血液透析導入以後の維持透析管理をメインに行っている。尿路結石に関しては、結石破碎装置の関係で、市立鉦路総合病院・鉦路赤十字病院と連携して治療を行っている。

## 2016年度の具体的な重点項目

- ・診療全般に関しては、紹介患者の増加に伴い、外来・入院・手術件数が増加しており現体制での限界に近づいているため人員増加の必要性を働きかけていく。
- ・癌診療に関しては、特に化学療法患者が増加しており、外来化学療法室の拡張に合わせて前立腺癌や尿路上皮癌での外来化学療法を積極的に進めていく予定である。
- ・血液浄化部門に関しては、血液透析機器の更新を12月に控えており、機種設定と電子カルテ対応に関する準備を行い、一層の安全性とスタッフの負担軽減を目指している。
- ・排尿障害に対してはウロダイナミクス測定機器の更新を予定しており、前立腺肥大症や神経因性膀胱患者の検査体制を強化していく予定である。

## 2015年度診療実績

### (1) 入院患者疾患分類集計

(人)

	平成25年度	平成26年度	平成27年度
総 計	419	400	481
前立腺の悪性新生物	103	103	94
膀胱の悪性新生物	40	54	76
前立腺肥大(症)	43	40	52
その他及び部位不明の上皮内癌	38	50	47
腎盂を除く腎の悪性新生物	33	19	21
尿管の悪性新生物	9	7	18
閉塞性尿路疾患及び逆流性尿路疾患	19	16	17
尿路系のその他の障害	8	9	16
腎盂の悪性新生物	8	7	16
慢性腎不全	18	14	14
そ の 他	100	81	110

### (2) 手術実績

(件)

<麻酔別>	平成25年度	平成26年度	平成27年度
総 計	268	286	336
脊 椎	179	206	248
全 身	71	67	68
局 麻	18	13	20

<疾患・術式別>	平成25年度	平成26年度	平成27年度
総 計	217	231	336
前立腺の悪性新生物	71	73	65
前立腺肥大(症)	41	37	52
その他及び部位不明の上皮内癌	38	48	46
膀胱の悪性新生物	21	33	44
閉塞性尿路疾患及び逆流性尿路疾患	14	13	15
腎盂を除く腎の悪性新生物	13	10	13
腎尿路の良性新生物	1	4	10
下部尿路結石	14	7	9
尿管の悪性新生物	1	3	8
腎盂の悪性新生物	3	3	8
そ の 他	0	0	66

## 2015年度の評価

診療スタッフ4名にて診療を行い入院・外来・手術件数とも順調に増加したが、常勤2名の負担が大きく人員増加が急務である。

## ■ 2015年度スタッフ構成

### 院長

野々村 克也

- ・北大腎泌尿器外科名誉教授
- ・日本泌尿器科学会 専門医・指導医

### 泌尿器科部長

佐々木 芳 浩

- ・日本泌尿器科学会 専門医・指導医
- ・日本泌尿器科内視鏡学会 腹腔鏡技術認定医

### 泌尿器科部長

村 橋 範 浩

- ・日本泌尿器科学会 専門医

### 泌尿器科嘱託医師

渡 邊 絢 子

- ・日本泌尿器科学会 専門医

## ■ 主な対象疾患及び特色

### 主な対象疾患

- ・腎細胞癌
- ・腎盂尿管癌
- ・膀胱癌
- ・前立腺癌
- ・精巣癌
- ・副腎腫瘍
- ・後腹膜腫瘍
- ・前立腺肥大症
- ・神経因性膀胱
- ・過活動膀胱
- ・腎不全（腎前性・腎性・腎後性）
- ・尿路感染症
- ・先天性尿路・性器疾患

### 特色（冒頭と同内容）

泌尿器科疾患全般に対応することはもちろんであるが、癌診療連携拠点病院として、腎・尿管・膀胱・前立腺・精巣癌に対する診断、治療、フォローアップに重点を置いている。

腎癌、腎盂尿管癌に対しては腹腔鏡手術を標準術式として早期腎癌に対しては部分切除による腎温存術を行っている。膀胱癌に対しては経尿道的手術、膀胱全摘術と尿路変更（回腸導管、代用膀胱）、前立腺癌に対してはQOLも考慮した前立腺全摘除術を行っている。進行癌や再発・転移癌に対しては、分子標的治療薬や化学療法、放射線治療も患者の状態を十分考慮した上で積極的に施行している。

各種癌に対する治療成績の関しても標準的治療が行えていることを検証・発表することを重要視して

いる。

## ■ 臨床研修医教育内容

日本泌尿器科学会認定教育施設である。研修医は腎・尿路疾患のプライマリー・ケアができるように、疾患の診断・標準的な治療・基本的な処置についての知識を習得するため、入院患者を中心に泌尿器科疾患全般に触れ、代表的な疾患に関しては自分自身の力で、複雑な疾患については指導医と相談しながら的確に対応できる能力を取得することを目標とする。また、手術に参加することはもちろん小手術の執刀を経験することも出来る。可能であれば地方学会等での症例報告も行うことが出来る。

2016年度の目標及び方針

眼科一般に対し幅広く対応できるように機器の整備などを行い診療体制の充実をはかっています。昨年度には新型の3次元眼底像撮影装置も導入し、より正確な診断と治療効果の判定を行える体制を整えています。

内科的な疾患と関連した眼病変も多く、近医の先生方や当院の他科の先生方と連携しよりきめ細かい診察・対応を行っていただけるように日々の診療を進めています。

また当科では白内障や翼状片の手術は入院にて施行しており、術後の頻回な外来通院が困難な方や遠方の方の手術施行に対応できるようにしています。昨年度は平成26年度に比べ手術件数は1.5倍程度となりましたが、今年度も同等を維持できるように計画しております。

2015年度診療実績

(1) 入院患者疾患分類集計 (人)

	平成25年度	平成26年度	平成27年度
総計	109	109	187
老人性白内障	101	105	171
その他の白内障	3	0	7
結膜のその他の障害	4	2	3
網膜血管閉塞症	0	0	2
他に分類される疾患における白内障及び水晶体のその他の障害	0	0	1
角膜炎	0	0	1
硝子体の障害	0	0	1
他に分類される疾患における虹彩及び毛様体の障害	0	0	1
視神経炎	0	1	0
眼窩の障害	0	1	0
頭蓋骨及び顔面骨の骨折	1	0	0

(2) 手術実績 (件)

<麻酔別>	平成25年度	平成26年度	平成27年度
総計	171	189	299
局麻	170	189	298
全身	1	0	1

<疾患・術式別>	平成25年度	平成26年度	平成27年度
総計	171	189	299
老人性白内障	163	187	286
その他の白内障	3	0	7

<疾患・術式別>	平成25年度	平成26年度	平成27年度
結膜のその他の障害	4	2	3
他に分類される疾患における白内障及び水晶体のその他の障害	0	0	1
硝子体の障害	0	0	1
他に分類される疾患における虹彩及び毛様体の障害	0	0	1
頭蓋骨及び顔面骨の骨折	1	0	0

2015年度の評価

外来診療および手術を一人の医師で行っているため、前年度に比べて外来診療数はやや増加程度でしたが、新たな機器の導入により診療の精度については進歩したと考えます。しかし、もともと外来スタッフ数も少ないため最近ではやや待ち時間が長くなってきたとの指摘をいただきました。

一昨年度に比べ1.5倍ほど手術件数の増加がありましたが、対応機器の数が相対的に不足していたり、メンテナンスが必要となる場合があり対応が必要な状況でした。昨年度後半から今年度にかけて手術機械の更新や新規購入を行い、滞りなく手術を進めることができるようになっていきます。

スタッフ構成

眼科医師  
海野茂樹

主な対象疾患

- ・眼科全般
  - ・白内障・翼状片などについては手術対応

・特色

診療担当医師が1人であるため治療できる範囲には限りがあるのが現状ですが、眼科疾患全般について診療を行い当科で対応できるものとそうではないものをしっかりと鑑別し、適切な対応をすることによって治療の遅れなどが出ないように心がけています。

釧路市内には釧路赤十字病院および市立釧路病院があり、それらとの連携を図りながら適切な時期に必要な治療を受けることができるようにしています。

## 2016年度の目標及び方針

札幌・旭川・函館を除く北海道の地方都市の耳鼻咽喉科勤務医は減少する一方である。釧根地区も例外ではない。釧根地区で耳鼻咽喉科勤務医のいる病院は当院のほか市立釧路総合病院・釧路赤十字病院・町立中標津病院・市立根室病院・町立別海病院の6か所であるがそのうち当院と市立釧路総合病院を除く4病院は週に数日間だけ大学からの出張でまかなわれている。市立根室病院に至っては当院から外来診療に出張している現状である。

出張勤務医の場合、入院を必要とする疾患を扱うことができない。そのような患者さんは市立釧路総合病院か当院かのいずれかでしか治療ができない。さらに、釧根地区は札幌・旭川などの大都市圏と遠く離れている。当病院はいわば釧根地区の最後のとりでといってもいいような病院である。とりでを守るべく今後も可能な限り現在の体制を維持していきたい。

また、釧根地区は耳鼻咽喉科医がほかの地域に比べて圧倒的に少ない。近隣の開業の先生と連携して効率の良い医療体制を作っていきたい。

## 2016年度の具体的な重点項目

### 1. 地域医療との連携

地域医療機関からの診療依頼は可能な限り引き受ける。昨年度はベッドが満床でやむなく入院依頼をお断りしたことがあったができる限り期待にこたえられるようにしていきたい。

### 2. 救急疾患に対する診療体制を維持する

当科は気道を扱う科で気道閉塞の危険がある疾患も数多い。それだけ緊急性のある疾患も多いわけである。それにもかかわらず先に述べたように釧根地区で救急疾患に対応できるのは実質当院と市立釧路総合病院だけである。地域住民の期待にこたえられるように今後も救急疾患に対応できる体制を維持していきたい。

### 3. 耳疾患から頭頸部腫瘍に至るまで幅の広い疾患への対応

耳鼻咽喉科疾患は耳疾患・鼻疾患・咽喉頭疾患・頭頸部腫瘍と多岐にわたり、まれな疾患もある。また医療が進歩するにしたがって患者数、施設の医療体制、医療機器などの点からすべてを賄うのは困難になってきている。その中でできる限り幅広く種々の疾患に対応していきたい。

## 2015年度診療実績

### (1) 入院患者疾患分類集計

(人)

		平成25年度	平成26年度	平成27年度
総	計	577	568	560
前庭機能障害		52	54	54
扁桃周囲膿瘍		51	37	46
慢性副鼻腔炎		34	37	36
睡眠障害		31	52	33
その他の難聴		35	33	30
扁桃及びアデノイドの慢性疾患		22	16	26
気道からの出血		22	10	22
声帯及び喉頭の疾患、他に分類されないもの		23	20	18
顔面神経障害		15	17	17
急性扁桃炎		14	29	16
その他		278	263	262

### (2) 手術実績

(件)

<麻酔別>		平成25年度	平成26年度	平成27年度
総	計	230	268	273
全	身	228	258	255
局	麻	2	10	18
<疾患・術式別>		平成25年度	平成26年度	平成27年度
総	計	230	268	273
慢性副鼻腔炎		37	34	36
扁桃及びアデノイドの慢性疾患		16	22	26
声帯及び喉頭の疾患、他に分類されないもの		15	18	17
中耳及び呼吸器系の良性新生物		6	9	12
甲状腺の悪性新生物		14	13	12
びまん性非ホジキン<non-Hodgkin>リンパ腫		4	4	12
大唾液腺の良性新生物		11	10	12
非化膿性中耳炎		7	9	9
中耳真珠腫		8	9	8
その他の非中毒性甲状腺腫		5	4	8
その他		107	136	121

## 2015年度の評価

診療スタッフ3名にて診療を行い、年間入院患者数、手術件数ともこの3年間で特に変化はみられなかった。入院患者の疾患はめまい・扁桃周囲膿瘍など救急疾患が数多く含まれている。

また、手術の内容も耳疾患・鼻疾患・咽喉頭疾患・頭頸部疾患など多岐にわたっている。さらに局所麻酔手術に比べて圧倒的に全身麻酔手術が多い。それだけ侵襲が大きく手術時間の長い手術が多いわけである。

以上のことから当科は現在に至るまで地域の中核として機能し続けているといえる。

## ■ 2015年度スタッフ構成

### 耳鼻咽喉科部長

北 南 和 彦

- ・日本耳鼻咽喉科学会 専門医
- ・日本医師会 認定産業医

### 耳鼻咽喉科部長

石 井 秀 幸

- ・日本耳鼻咽喉科学会 専門医
- ・日本耳鼻咽喉科学会 補聴器相談医

### 耳鼻咽喉科副部長

上 村 明 寛

- ・日本耳鼻咽喉科学会 専門医

## ■ 主な対象疾患

メニエール病、めまい症、突発性難聴、末梢性顔面神経麻痺（ベル麻痺、ハント症候群）、急性中耳炎、慢性中耳炎、滲出性中耳炎、アレルギー性鼻炎、花粉症、肥厚性鼻炎、副鼻腔炎、鼻出血、シェーグレン症候群、睡眠時無呼吸症候群、扁桃周囲膿瘍、扁桃病巣疾患、声帯ポリープ、喉頭麻痺、音声・嚥下障害、甲状腺腫瘍、副甲状腺腫瘍、顎下腺腫瘍、耳下腺腫瘍、上顎癌、舌癌、口腔底癌、咽頭癌、喉頭癌、その他の頭頸部腫瘍など。

## ■ 特色

きわめて多岐にわたる疾患を扱っている。地域医療の状況から扱わざるを得ないのであり、裏を返せば特色のある診療を打ち出せない状況にある。その中で、睡眠時無呼吸外来は釧根地区では当院だけがやっている外来である。

# 放射線科

部長 永尾一彦

## ■ 2016年度の目標と方針

胸腹部放射線診断・核医学・放射線治療を柱として各科のニーズに対応している。

今後の新しい診断機器や診断技術、治療技術にも迅速に対応できるよう心掛けたい。

## ■ 2016年度の具体的な重点項目

### ● 死亡時画像診断(Ai)の体制の確立

院外依頼（主に警察署）のAiは今まで散発的に施行されてきたが、今後は検査依頼から結果報告までの過程をマニュアル化し、効率のかつ効果的に検査を実施出来るように努める。院内からのオーダーについても可能な限り現況に即した検査体制を確立する。医師は研修会などにも積極的に参加し知識の取得に努めたい。

### ● MRI画像読影の質の向上

MRI検査は現在も今後もさらなる技術の向上と撮像方法の改良、進化が見込まれている。MRI装置の更新も間近に迫っており、画像診断に対する知識や所見の解釈を深めるために、学会や研究会にも積極的に参加したい。

### ● I V Rの拡充

現在はマンパワーや技術的な問題があり体幹部の動脈性出血の緊急塞栓術を中心に対応している。検査室の体制を充実させることも必要である。

### ● 核医学機器の更新

本年度は核医学装置が更新される予定になっている。新機種に合わせて撮像法の工夫や新しい検査法などにも対応したい。

### ● 体幹部定位放射線治療の実施

転移性脳腫瘍に対しては年間数例の定位放射線治療を実施しているが、体幹部（転移性肺腫瘍）に関しては実施が0であったので、1例でも実施したい。

### ● 放射線腫瘍学会認定施設の取得

放射線治療では「日本放射線腫瘍学会(JASTRO)」が、全国的に認められた学会である。「JASTRO認定施設」はJASTROホームページに掲載され、患者様や他院の医師も参照する重要な認定である。この数年、新規の認定が中止されていたが、再開した

ため認定を取得したい。

### ● 「放射線ワーキンググループ」の設置

院内の多職種（特に看護師）にとって放射線治療は身近ではなく知識不足の傾向がある。

放射線治療の看護の均てん化を目的に、「放射線診療安全委員会」の下部組織として「放射線治療ワーキンググループ」を設置し、運営したい。

## ■ 2015年度の評価

I V Rについては体制面での制約があり、緊急性が高く致命的なものに限って依頼を受けている。院外からの依頼もあり出張で対応してきた。結果として釧根地区の救急医療に放射線科として貢献出来たと思うが、緊急性が高く夜間や休日の施行もあるため、術者の確保も課題となる。

放射線治療については院外、特に釧路赤十字病院や釧路協立病院からの紹介患者が減少傾向にある。より一層の宣伝、普及に努めたい。

## ■ 2015年度スタッフ構成

### 放射線科部長

永尾一彦

- 日本核医学会 専門医
- P E T核医学認定医

### 放射線科部長

米坂祥朗

- 日本医学放射線学会 専門医

### 放射線科医師

梶山政義

- 日本医学放射線学会 専門医

## ■ 特色

放射線画像診断、核医学、放射線治療いずれにも対応している。

C T・M R Iは脳、頭頸部、脊椎、各関節や胸腹部など全身の検査を行っているが、特に悪性腫瘍の精査やスクリーニング、変性疾患の診断が中心になる。

緊急検査は当日中に、また読影レポートについても大半は当日中に作成し迅速な報告を目指している。

I V Rは体幹部の動脈性出血の塞栓を実施しており、その内訳は気管支動脈塞栓、出血性腎嚢胞、術後仮性動脈瘤、産科出血、外傷性肝損傷等の止血術などである。

放射線治療に関しては、医師、技師、看護師の三職種で放射線治療に関する認定資格を保有し、連携することにより、患者様に対し質の高い放射線治療を提供している。

# 麻酔科

部長 小田 俊 昭

## ■ 2016年度の目標および方針

- 患者の安全を守る手術麻酔の実行
- 入院患者に対する緩和ケアへのかかわり
- 病棟、外来へのかかわり

## ■ 2016年度の具体的な重点項目

- 年間2,000件の全身麻酔  
麻酔科医として安全かつ円滑な手術室運を目指す。  
局所麻酔困難患者へのかかわり
- 入院がん患者の硬膜外麻酔による鎮痛
- 病棟、外来での気管挿管と中心静脈カテ留置

## ■ 2015年度の評価

診療スタッフ4名にて診療を行った。全身麻酔件数は2,071件うち臨時手術は695件であった。

固定医2名応援医2名体制で全身麻酔2,000件を安全に施行することができた。

手術室クレークの導入により診療業務の負担がやや減少した。

麻酔以外の診療は入院、外来での処置が若干名であった。

## ■ 2015年度スタッフ構成

### 麻酔科部長

小田 俊 昭

- 麻酔科学会 認定医

### 麻酔科部長

伊 部 博 行

## 2016年度の目標および方針

歯科口腔外科は口腔外科疾患を中心として、口腔がんや口腔顎顔面骨折などの高次歯科医療までの診療を、頭頸部領域に関わる各診療科と連携しつつ行ってきた。

最近では、内科や外科系診療各科などとの院内連携により、がん治療に対しての周術期口腔機能管理も多く実施され、がんの支持療法を担う診療科という2面性を持ち合わせるようになった。上記の如く、高次歯科医療および支持療法の診療を今後もさらに強化していく。

また、当科は日本口腔外科学会認定施設であり、口腔外科的な研修を希望する歯科医師への教育指導と人材育成を行っており、これを継続する。

## 2016年度の具体的な重点項目

### (1) 地域医療との連携

今まで通り紹介・逆紹介を基本に釧根地区の歯科医院、病院、医院との密な連携を基本に診療を行う。地域医療における医科と歯科の橋渡しの役割を積極的に担う。

### (2) 釧路赤十字病院歯科口腔外科および市立釧路総合病院歯科口腔外科との連携

歯科口腔外科的な疾患において、地域完結型の診療を可能な限り目指す。釧路・根室2次・3次医療圏内の公的3病院の歯科口腔外科が連携して地域医療に貢献できる体制作りをさらに進める。現在すでに行われている症例検討に加え、平成27年度より開始した施設間相互の手術見学や手術応援体制をさらに充実させる。当科は主に悪性腫瘍や顎顔面外傷、釧路赤十字病院は外科的矯正治療、市立釧路総合病院は障がい児(者)治療を主に担当している。

### (3) 周術期口腔機能管理の強化

がんの支持療法を担う診療科としての機能を強化し、現在の方針である院内他科からの要望への迅速対応を継続する。

### (4) 臨床研究活動

道内外の口腔外科施設との共同研究の参加(現在進行中)、学会発表を積極的に行う。

### (5) 若手歯科医師の指導体制の強化

外来、病棟、手術室すべてにおいて、若手歯科医師に広く手厚い教育環境を与え、知識と技術の段階的習得をはかる。

### (6) 院内活動の強化

病院内での色々な部署と連携し(NST、緩和、

感染、口腔ケアなど)、病院内での活動に所属歯科医師全てが積極的に参加する。

## 2015年度診療実績

### (1) 入院患者疾患分類集計 (人)

		平成25年度	平成26年度	平成27年度
総	計	528	512	564
埋伏歯		227	250	276
歯髄及び根尖部歯周組織(のう胞)の疾患		224	171	186
悪性新生物		11	32	33
良性新生物		16	11	9
骨折		13	7	9
先天奇形		4	2	4
唾液腺疾患		7	4	3
その他		26	35	44

### (2) 手術実績 (件)

<麻酔別>		平成25年度	平成26年度	平成27年度
総	計	484	459	481
全	身	317	263	253
静	脈	51	116	134
局麻(入院下)		113	79	93
な	し	3	1	1

<疾患・術式別>		平成25年度	平成26年度	平成27年度
総	計	484	459	481
埋伏歯		223	238	266
歯髄及び根尖部歯周組織(のう胞)の疾患		212	171	149
悪性新生物		10	23	20
良性新生物		11	11	9
骨折		8	5	8
先天奇形		3	1	3
唾液腺疾患		6	3	3
その他		11	7	23

## 2015年度の評価

平成27年度は、大坪、藤盛、矢島の勤務交代は無かったものの、5月には1名増員となって野村が勤務したが、10月からは再度1名減となり3名体制となった。

前年度と同様に、近隣の歯科医院を中心とした医療機関からの紹介が非常に多く、外来初診は2週間程度の予約待ちの状態であった。また全身麻酔下の手術に

については4か月待ち、静脈麻酔下の手術も2ヶ月待ちの状態が続き、今後歯科医師の増員や手術枠の増加が望まれるところであった。

院内他科と連携して、手術やがん治療前後の口腔の管理を行い、がん治療中や治療前後の合併症の抑制が期待できる「周術期口腔機能管理」が定着しつつあった。前年度は手術に関する周術期機能管理の算定が739件（2014年度）から1747件（2015年度）へと1.7倍に増加し、化学療法・放射線療法に関する算定が139件（2014年度）から623件（2015年度）と4.4倍に増加した。しかしその反面、通常の外来新患や外来手術の時間が圧迫されることにもなった。

このような外来診療と手術の待機期間を短縮し、周術期口腔機能管理を円滑にすすめるためには、歯科医師の増員や増員後もその確保が非常に重要である。また、周術期口腔機能管理をさらに強化および拡大するためには、歯科衛生士の増員が望まれる。

腔領域のがん支持療法を担う。

## ■ 臨床研修医教育内容

院内各科をローテートしている臨床研修医に対して、主診療科の指導医とともに、症例を通して歯科口腔外科的疾患に対する教育と研修のサポートを行う。

## ■ 2015年度スタッフ構成

### 歯科口腔外科部長

大坪 誠 治

・日本口腔外科学会 専門医

### 歯科口腔外科部長

藤 盛 真 樹

・日本口腔外科学会 専門医

・日本救急医学会 ICLSコース認定インストラクター

### 歯科口腔外科医師

矢 島 優 己 ・ 野 村 昌 史

## ■ 主な対象疾患および特色

### 口腔顎顔面領域の

- ・腫瘍（悪性ならびに良性）
- ・炎症
- ・外傷
- ・嚢胞性疾患
- ・粘膜疾患
- ・唾液腺疾患
- ・顎関節疾患
- ・埋伏歯など歯の疾患
- ・歯の移植・再植術
- ・がん支持療法としての歯科疾患全般

## ■ 特色

口腔外科疾患全般を対象としているが、顎顔面領域の悪性腫瘍は、形成外科など他の診療科とのチームアプローチによって治療を行う。

がん診療連携拠点病院内の歯科口腔外科として、口

### ■ 2016年度の目標及び方針

健康診断部では、各科の先生方の検査結果を正確かつわかりやすく、受診される方々にお伝えすることを目標としております。毎年の事ではありますが、その結果さらに精査必要、治療必要な方々には、こころよく受け入れていただけるよう説明に注意をはらっていくよう、より一層努めていきます。

### ■ 2016年度の具体的な重点事項

- ① 検査を受けるまでの待ち時間をできるように配慮します。
- ② 医療につなげていただかなければならない方々には、受入れていただきやすいよう、その方の身になって納得のいく説明と詳細をお伝えすること。

### ■ 2015年度実績

内 訳 (件)

	平成25年度	平成26年度	平成27年度
一 般 健 診	984	1,406	1,409
特 定 健 診	436	437	460
特 定 保 健 指 導	36	87	22
人 間 ド ッ ク	540	408	470
特 殊 健 診	1,252	1,214	970

### ■ 2015年度の評価

少人数のスタッフで待ち時間が少なくなるよう皆で協力し合ったことを満足しています。

その他、検討事項：事後処置として最も大切なこと、数年前までおこなわれていた専門職の方々の栄養指導、運動指導に関して検討したい。事後はできるだけ当院の治療につなげることが必要か、可能か？

### ■ 2015年度スタッフ構成

健康診断部長

辻 本 和 代

### ■ 具体的な特色

高額な費用と貴重な時間をさいて受診して下さるので、親切をモットーとしています。

# 中央検査科・病理診断科

部長 高橋達郎・部長 石田雄介

## 2016年度の目標及び方針

病理部門としては従来から病理診断、細胞診、剖検を三本柱として業務に当たってきたが、今年度も引き続きこれらを中心に取り組むこととする。

ただし、今年度は常勤病理医が2名から1名のみになり、量的に増加し、また、内容的にも複雑・詳細になっている病理診断にどのように対処していくかに腐心しそうである。診療各科の要望・期待に応えるために関係大学などからの応援体制強化にも努めたい。

## 2016年度の具体的な重点項目

### 1) 病理医応援体制強化

以前より北大病理学教室とその関連施設（札幌厚生病院病理）から隔週で病理医の派遣を得ていたが、上に記した様な状況から少なくとも毎週の応援を確保していく。

また、剖検についても原則として大学講座等に要請、依頼する。

### 2) 免疫組織化学の充実

昨今は、正確で詳細な病理組織診断に免疫染色の必要性が益々増してきている（各種腫瘍の取扱い規約に従った診断など）。

当病理部門では、現在、60種余りの抗体を保有し、ほぼ毎日のように数十枚の染色を実施しているが、持ち合わせのない抗体も多数あり、その都度やや歯がゆい思いをしている。

今年度は、使用頻度や抗体価格を勘案しつつ新規に十種類程度は増やしていきたい。

### 3) 迅速凍結切片作製装置更新に伴う効果

本年度中に標記機器の更新が予定されている。

術中の迅速病理診断（ゲフリール診断）には良質な標本（切片）の作製が不可欠であるが、新機器導入により標本作製から診断までが今まで以上にスムーズに流れることが期待される。

### 4) 診療科医師の学術活動などへの支援

例年各科から学会発表や医学雑誌投稿等に際し、症例の病理写真撮影や説明を要請、依頼される（毎年20-30例程度）。

今年度も引き続き要望に沿って応えていきたい。

## 2015年度実績

- 1) 病理組織診…………… 4,136件  
うち術中迅速診……………91件
- 2) 細胞診…………… 1,566件
- 3) 病理解剖…………… 9体
- 4) 臨床病理検討会…………… 2症例

- ①インフルエンザ肺炎と重複感染が疑われ集学的治療がなされたが奏功しなかった剖検例
- ②HIV感染に伴うリンパ腫を発症、死亡した剖検例

## 2015年度の評価

上に記した様に病理組織診は件数、その内容ともに益々増加、複雑、詳細化していることを実感している。

標準作製や診断に特に気遣いや時間を要する消化管の粘膜切除術（EMR）や粘膜下層剥離術（ESD）検体、標本情報が制限される超音波内視鏡下での針生検検体（EUS-FNA）、数多くの染色が必要な血液・造血器疾患の検体等が目立ち、それらに対し懸命に取り組んできた。

一方、毎週開催の内科・外科との合同カンファレンスへの参加と術後の病理写真提示に可能な限り協力してきた。しかし、臨床病理検討会（CPC）は2症例にとどまり少々残念であった。

なお、筆者である高橋は年度後半、病気治療により長期欠勤を余儀なくされ関係各位には多大な負担とご心配をおかけした。

大変申し訳なくお詫びする次第である。

## スタッフ構成

### 中央検査科部長

高橋達郎

- ・日本病理学会 認定病理専門医
- ・日本病理学会 研修指導医

### 病理診断科部長

石田雄介

- ・日本病理学会 病理専門医
- ・死体解剖適格者
- ・日本臨床細胞学会 細胞診専門医
- ・日本臨床検査医学会 臨床検査管理医
- ・日本臨床検査医学会 臨床検査専門医

## 中央検査部 主任検査技師

斎藤 隆二

- 日本臨床細胞学会細胞検査士

久末 浩樹\*

- 日本臨床細胞学会細胞検査士

\* 細菌検査室と兼任

中村 明代

- 日本臨床細胞学会細胞検査士

上記の如く常勤医師2名と臨床検査技師3名（実質2.5名）で、病理組織診、細胞診、及び剖検に当たった。

なお、病理組織診、細胞診には一部、大学病理学講座等の応援も加わった。

## ■ 研究論文等業績

病理部門単独、あるいは筆頭者名としては特に無し。  
共同発表については各診療科の業績集などを参照願いたい。

## 栄養管理部

部長(事) 宮城島 拓 人

### ■ 2016年度の目標及び方針

当院栄養管理室では入院時に栄養管理計画書の作成による栄養評価、栄養相談による患者や家族への適切な栄養管理法の情報提供、NST活動、褥瘡対策チーム、緩和ケアチームの参加による適切な栄養管理支援を行う役割がある。

管理栄養士の人員確保、新規採用者の教育体制の強化により、院内での栄養サポート体制の充実を図ることを目標とする。また、退院後も患者へ適切な栄養管理が継続されるよう栄養管理面での地域連携に対する体制作りに取り組む方針としている。

給食管理では従来の安全な食事提供への取り組みとして教育内容の見直しを実施している。

### ■ 2016年度の具体的な重点項目

#### (1) 管理栄養士確保と研修体制の強化

管理栄養士を確保し、栄養指導件数・NST件数の増加へつなげていく、新任採用者の院内外の研修参加をサポートし給食管理、栄養指導、チーム医療への参画と段階を経て入院・外来患者の栄養管理を行っていただけるよう栄養管理に関する知識の習得へ繋げていく。

#### (2) 地域医療との連携

北海道栄養士会釧根支部下部組織「釧根えん下・栄養研究会」の活動に参加し、他施設との食事内容の情報共有、他施設へ転院する患者の栄養管理に関する情報提供を実施できる環境を整えていく。

#### (3) 給食管理における安全性の強化

研修体制を強化する。これまで行っている衛生管理に関する学習会に加え、年6回食物アレルギーに関する学習会を栄養管理室内で開催する。食物アレルギーに関する知識を深め正確な知識を身につけることで、アレルギー対応は単に禁忌とされている食品を除去する作業ではなく、調理や献立作成面でもより正確な対応や業務の無駄を省くことにつながると考える。栄養管理計画書作成時の食物禁忌確認と併せてより正確な対応を行っていく。

### ■ 2015年度の評価

管理栄養士の退職により、栄養指導件数・栄養サポートチーム加算の算定件数も減少している。

給食管理では特別メニュー用献立を委託会社、調理師とともにメニュー開発に取り組み、毎月1回日本全国の「ご当地メニュー」を提供。

また特別メニュー申込み患者の増加もみられたことから、患者サービスに寄与することが出来たと考えられる。

## 2016年度の目標及び方針

リハビリテーション科は、開院当初からの運動器疾患や脳血管疾患に加え、内科や外科の内部障害やがん患者への対応を行い、急性期・周術期から、積極的な治療・介入を行っている。近年、リハビリ対象患者の高齢化や疾患・障害構成の多様化、また複数の疾患や障害を抱える方も多くなるなど、対応するスタッフには、質量ともに一層の充実が求められている。

## 2016年度の重点項目

### ・地域医療との連携

地域連携パスは勿論、その他パスのない疾患・障害に対しても、従来のノウハウを生かしてスムーズに地域へ移行できるように取り組む。

整形外来でのリハや、ICTを用いての広域医療圏における遠隔地対応、地域の青少年の支援など、専門性を持った人材群で取り組む。

### ・がんのリハビリテーションの推進

がん患者に対するリハビリについては廃用予防や心理的効果は勿論、がんそのものによる障害治療に関係する機能障害、合併症予防や回復など予防的～緩和的な段階まで広く対応する。

がん手術前後に「周術期呼吸リハ」を実施し、呼吸器合併症の予防や早期離床などを図る。また、がん患者の上下肢リンパ浮腫・肩関節拘縮予防等リハの提供を行なう。

全スタッフの、がんのリハビリテーション研修会修了を目指す。

### ・治療就労両立支援

就労年齢の方達の職場復帰や、治療と就労の両立支援を行っていく。特に、長期頻回の化学療法による廃用については、早期からの介入により、効果的な結果を期待出来るようになる。

### ・内部疾患に対する対応力強化

がんのリハビリテーションに加え、呼吸器疾患や心疾患、外科術前後の全身管理などのスキルを持つ人材を育成し、各科医師、患者・家族からのニーズに的確に応えられるよう体制を整えていく。

## 2015年度の評価

診療スタッフ15名で診療を行い、入院患者の新患者数は2,341名となった。内訳は整形外科631名、内科607名、脳外科573名、外科338名、神経内科125名、形成外科29名、泌尿器科18名、歯科12名、耳鼻科9名となり、全患者の24.6%にあたる576名ががん患者であり、がんのリハビリテーション研修修了者を中心に対応したが、未だ不十分である。

また、整形外科や脳外科からの脊椎脊髄・末梢神経障害患者も389名、運動器疾患485名は全スタッフで対応にあたった。

呼吸器疾患や外科の周術期呼吸リハについては、呼吸療法認定士資格を有する3名のスタッフを中心に対応した。

十分なりハビリテーション医療を提供するためには、人材確保と質の向上が最重要である。

## 2015年度スタッフ構成

### リハビリテーション科部長

津坂 和文

### 中央リハビリテーション部長

山田 毅 (作業療法士)

### 主任 理学療法士

猪野 勝 ・ 石田 祥雄

小柳 光明

### 理学療法士

田口 暢秀 ・ 推井 基陽

齋藤 輝未 ・ 小松 広樹

八幡 恒平

### 主任 作業療法士

石田 さえ子

### 作業療法士

吉川 陽 ・ 久野 紀子

根本 祥子

### 主任 言語聴覚士

菅野 栄子

## 主な対象疾患

### [整形外科]

・変形性関節症 ・上下肢外傷 ・脊椎骨折

### [内科]

・がん ・肺炎 ・感染症 ・炎症

### [脳外科]

・脳血管疾患 ・末梢神経疾患

## [外 科]

・がん ・肺・肝・腸・胆道系疾患

## [神経内科]

・神経難病 ・脳血管疾患

## [形成外科]

・がん ・褥瘡・潰瘍・熱傷等

## [泌尿器科]

・がん

## [歯 科]

・がん

## [耳鼻科]

・がん

## ■ 特 色

中央リハビリテーション部は、28年7月現在、医師1名(兼任)、理学療法士9名、作業療法士5名、言語聴覚士1名の総勢16名の体制で日々の診療を行なっている。

リハビリ対象疾患は高齢化やがんサバイバーの増加など疾患構成の変化で、より広範囲で複雑化しており、

当院開院当初からの運動器疾患や脳血管疾患に加え、内科や外科の内部障害やがん患者へのリハビリテーションが劇的に増加した。入院、発症早期からのリハビリの提供は、脳血管障害発症3日以内でのリハビリ開始は勿論、整形外科術前からの介入で早期の機能回復はもとより、患者ニーズの把握・不安軽減にも努めている。

また、高齢化に伴い、複数の疾患障害を持つ方も多く(例：パーキンソン病で神経内科通院中の方ががんで内科入院、大腿骨頸部骨折で整形入院の方が肺炎発症等)、複数の診療科にまたがる疾患・障害に対しても患者さんをトータルでみるという総合病院のリハならではの対応をしている。高齢者の死因の上位を占める肺炎については摂食嚥下訓練、呼吸器、運動器リハ等で予防、回復に努めている。がん患者に対するリハビリについては廃用予防や心理的効果だけでなく、がんそのものによる機能障害、合併症の予防回復など予防的～緩和的な段階まで広く対応している。がん手術前後に「周術期呼吸リハ」実施により、呼吸器合併症の予防や早期離床などを図っている。また、がん患者の上下肢リンパ浮腫・肩関節拘縮予防等リハの提供も行なっている。

今後は職場復帰や治療と就労の両立支援についても労災病院としてお役に立ちたいと考えている。

## 整形外来でのリハビリの提供

更にユニークな試みとしては、平成22年より、整形外来に理学療法士が配置し、診察室から直結したリハビリを提供している。内容は、変形性関節症の保存療法や肩・膝痛、腰痛の対応、エクササイズやテーピング指導など様々。

## 2016年度の目標及び方針

中央放射線部は放射線や磁場を用いた医療機器を使用して診断を行うための画像検査や、放射線を利用した治療を行う部門です。常に患者さんと接する部門ですので患者さん中心の医療が実現するように努めています。法令を順守し、患者さんの安全に配慮しています。設置後10年を超える機器も多く、少々時代に残されている感は否めませんが、少しでも病院の利益につながるようにみんな頑張っています。

放射線関連でも近年は様々な認定資格制度があります。放射線治療専門技師や放射線治療品質管理士、医学物理士など診療報酬にも結びつく資格があり、積極的に取得させていきたいと考えています。

## 2016年度の具体的な重点項目

- (1) 積極的な認定資格取得
- (2) 最新の技術を導入できるよう部内の勉強会
- (3) 計画的な機器更新準備
- (4) PACS等に接続するモダリティの院内ネットワーク整備等

## 2015年度の年間活動実績

一般撮影患者数	51,545件
MR I	8,915件
C T	16,037件
R I	834件
透視検査	2,033件
骨塩	99件
放射線治療患者数	286件

## 2015年度の評価

月に1回程度の部内勉強会が実施されました。この中では部内にとどまらず看護師も一緒に被ばく関連、個人被ばく線量計の学習会も行いました。

他部門とくに外来の看護師とのカンファレンスも複数回実施し、より良いチーム医療の構築にも貢献できたと思います。

検査のオーダー画面の更新を行い、足りないオーダーを増やしたり、整理整頓しました。

骨塩測定機器の更新が行われました。

## 2015年度スタッフ構成

スタッフ：19名

### [内訳]

- ・放射線技師 17名
- ・助手 2名

### 取得認定

- ・放射線取扱主任者 I 種 3名
- ・放射線治療専門技師 1名
- ・放射線治療品質管理士 1名

## 主な機器構成

- ・一般撮影 5室
- ・骨塩測定 1室
- ・歯科パノラマ 1台
- ・乳腺撮影装置 (マンモトーム) 1室
- ・デジタル透視 2室
- ・64列C T 1室
- ・MR I (1.5T) 2室
- ・R I 検査用ガンマカメラ 1室
- ・アンギオ室 1室
- ・リニアック10MV 1室
- ・治療計画用C Tシミュレータ 1室
- ・ポータブル撮影装置 3台
- ・ポータブル透視装置 3台

# 中央検査部

部長 藤井 史郎

## 2016年度の目標及び方針

検査部では、一般的な総合病院の検査室同様、血液、輸血・血液製剤管理、一般、生化学・免疫、細菌、病理、生理等の部門ごとに技師を配し業務を行っている。

更に、直接的には検査件数に反映されないが、院内感染対策チーム内での活動、資格を活かしての糖尿病教室への係わり、細胞検査士による診療科の先生と顕微鏡を囲んでの標本検討、移植医療のコーディネーターとしての対外的活動なども挙げておきたい。

今年度も、チーム医療の一員としての自覚を持ち、迅速かつ正確な検査を実施するよう心掛けたい。

## 具体的な重点項目

1. 検体部門（生化学、血液）基準範囲の見直し  
現在の検査部は、独自の基準範囲を用いている。今後JCCLS（日本臨床検査標準協議会）共用基準範囲と検査血液学会基準範囲に従う方向で院内に説明と承諾を得ること。
2. 診療各科からの要望に応え、また費用対効果などを考慮し、検査項目の追加や削除、院内検査から外部委託検査への変更あるいは外部委託検査から院内検査への変更を提案する。
3. これまでと同様、院内での日常的精度管理（内部精度管理）に加え、外部組織が主催する精度管理調査への参加をする。

## 2015年度検査実績

	平成26年度 検査件数	平成27年度 検査件数
尿・糞便等検査	50,910件	53,102件
血液学的検査	239,029件	259,849件
生化学的検査（Ⅰ）	1,169,492件	1,225,655件
生化学的検査（Ⅱ）	44,845件	46,972件
免疫学的検査	108,577件	112,313件
微生物学的検査	21,949件	21,895件
生体検査	22,664件	24,831件
病理学的検査	18,238件	19,881件

## 2015年度の評価

1. 検査部は、ここ数年間での構成員の入れ替わりが続いていましたが、すこし落ち着きを取り戻しました。
2. 検査業務でも、血液、生化学・免疫、細菌、病理、生理等に的確に技師を配して幅広い領域に対応で

きるよう心掛けました。

3. 検査実施総件数は、全体的に増加傾向になりました。（平成27年度は平成26年度に比べ5.2%増）
4. 内部精度管理について、生化学、血液、血液ガスは許容範囲内で良好な結果だった。  
外部精度管理についても、①日臨技精度管理調査は、96.6%（100.0%中）②日本医師会臨床検査精度管理調査は、95.1点（100点満点中）と共に良好な結果だった。
5. 日本臨床衛生検査技師会の「精度保証施設認証」の更新を申請し、平成28年2月16日付けで「認証承認」された。

## 2015年度スタッフ構成

スタッフ：20名

### [内訳]

- ・臨床検査技師 19名
- ・助手 1名

### 取得認定

- ・日本臨床神経生理学会認定技術師（脳波分野） 1名
- ・日本臨床神経生理学会認定技術師（筋電図・神経分野） 1名
- ・日本糖尿病療養指導士 2名
- ・北海道院内臓器移植コーディネーター 1名
- ・超音波検査士（健診） 1名
- ・第2種ME技術検定合格者 1名
- ・細胞検査士（国内） 3名
- ・細胞検査士（国際） 2名
- ・特定化学物質・四亜鉛等作業主任者 2名
- ・有機溶剤作業主任者 1名

## 認定資格

### 中央検査部

- ・精度保証認証施設  
（日本臨床衛生検査技師会、日本臨床検査標準協議会）

## 2016年度の目標及び方針

各担当における業務の標準化が、マニュアルの作成により整備されてきました。担当のローテーションにより全ての業務を賄える体制作りの継続と実践を目標に、個人のスキルアップの継続に努めます。特に血液浄化部門は浄化法が多岐にわたるため、医師のオーダーに即時対応できる体制を確立します。医療機器管理部門は、患者に安全な医療を提供できるよう機器の保守管理をより充実したものとし、機器にかかる時間コストおよび修理コストの軽減を図れるようにします。スタッフ間はもとより部外、院外との情報共有をはかりスムーズな現場への対応を心がけます。

## 2016年度の具体的な重点項目

### 1) 血液浄化室

透析装置の更新・透析管理システム導入と重要なイベントが控えています。更新や導入時などはインシデントやアクシデントが発生しやすい為、医師・看護師・臨床工学技士それぞれが情報を共有し、新しい透析機器の操作、透析管理システム導入にスムーズに対応できるよう努めていきたいと思ひます。

(担当：山本)

### 2) 高気圧酸素治療業務

高気圧酸素治療（以下HBO）は急性期から慢性期まで幅広い治療が可能となっており、特に当院では突発性難聴の治療が多く、他にガス（CO）中毒、減圧症なども適応となっています。適応疾患は24疾患ありますが、現在は難治性潰瘍の治療を継続しています。今年度の学会では「HBOによって、広がる形成外科の可能性」を講演していただく予定になっており、更なるHBO適応拡大と治療向上に繋がるよう、患者様へ安全な治療を提供していきたいと思ひます。各診療科においては、「HBOの治療について」いつでも対応させていただきますので、連絡頂けたらと思ひます。

学会認定技師を取得したスタッフが1名在籍していますが、当院にはHBO専門医が不在です。専門医在籍による、更なる安全で的確な指示、治療が可能となるような体制が必要だと思ひます。

(担当：櫻庭)

### 3) 血液浄化（人工透析を除く）

血液浄化は、内科、神経内科、外科等の各診療科

からの依頼に対応しています。当院の特徴として「腹水ろ過再濃縮静注法」や「顆粒球吸着療法」の依頼が特に多く、圏内では突出しています。

血液浄化は、病棟および外来で対応する為、常に看護師と情報共有できるよう対応しております。疾患により、適応基準、薬剤、浄化材料、治療法を医師の指示のもと準備、操作します。病態により、治療法の選択、使用材料の選択幅が拡大できれば、病態に適応した選択幅が広がります。それらのコスト等も考慮し、より多くの治療選択を拡大するのが今後の課題だと思ひます。

(担当：櫻庭)

### 4) 病棟ラウンド

モニタのトラブルで最も多いのが送信機のトラブルです。これらの電波トラブルの減少を今後の目標にしていきます。ラウンド時の利用状況等のデータを病棟や外来にもフィードバックできる仕組みの構築を検討しています。電池切れの防止や設定状況の確認、送信機電波強度の定期測定をし、故障を早期に発見できるシステムを、構築していきます。

(担当：川合)

### 5) 内視鏡業務

医療機器の開発、進歩に伴い、内視鏡診断・治療手技は高度に発展しています。高精度モニタによるハイビジョン画像、特殊光内視鏡、高拡大ズーム画像などによりミリ単位の癌診断が可能になりました。これらの内視鏡機器を安全、的確に使用するために、内視鏡スタッフ一人ひとりの知識・技術のスキルアップはもちろんのこと、全スタッフによるチーム医療で患者へ安全な検査・治療ができる体制構築を目指します。

(担当：綿貫)

### 6) 手術室業務

今年度はフォーストラリアッドの点検が可能になりました。メーカーが開催する勉強会やメンテナンス講習会に積極的に参加し、院内修理可能な機器の増加を目指します。フォーストラリアッドにおいては点検に必要な器具の作成や、安全使用のための定期点検を確実にを行います。また腹腔鏡下手術に使用する鉗子等のデータベースへの登録がほぼ完了したので、これら機器の点検を実施し安全・安心な手術を行えるよう整備していきます。

(担当：大江)

## 7) MEセンター (医療機器管理)

医療機器管理システムを本格導入し1年が経過しました。登録機器は2,287台となり、管理する機器も年々高度、複雑化してきています。機器の完全なトレーサビリティを目指し、患者様に安全な医療を提供できるようスタッフ全員の知識、技術向上に努めていきたいと思えます (担当：廣瀬)

## 2015年度の評価

全体的に臨床への技術提供および診療の補助においては平年並みの対応ができました。ローテーションを一時停止し、各スタッフの業務の標準化およびマニュアルの作成強化を実施しました。各スタッフのジェネラリスト化へ向けての準備の年になりましたが、スタッフ間のより高い意識向上へ向けて更なる意識改革が必要になると思えます。業務が多岐にわたるが故のスタッフ間情報共有にやや難を示すこともあったため、より一枚岩となる体制づくりが必要だと認識しました。

### 1) 血液浄化室

採血データを見直し、患者の血液流量を平均50ml/min程度上げたことにより透析効率を向上させることができました。これにより冬～春にかけての乾燥時期に痒みを訴える患者様を減少させることができました。後期からは1回/月必ず医師・看護師・臨床工学技士でカンファレンスを行い定期血液検査・胸部レントゲンの評価をすることができました。(担当：山本)

### 2) 高気圧酸素治療業務

HBO年間回数は、例年200~300回ありますが、平成24年度より年間件数はやや減少してきておりますが、疾患別では、急性期・慢性期共に治療依頼があります。疾患別では特に突発性難聴が多く、他に網膜動静脈閉塞症、脊髄損傷、凍傷、難治性潰瘍、切断後治療目的などで依頼がありました。診療科では形成が最も多い依頼でした。安全面では患者に合わせて4サイズの高気圧専用治療医を導入しました。教育においては、新人教育としてHBO独自の患者様への対応や事前準備、情報収集などのアドバイスをし安全管理の強化を図りました。(担当：櫻庭)

### 3) 血液浄化 (人工透析を除く)

血液浄化は約200~300件/年あり、「腹水濾過再静注法」が多く、次に「顆粒球除去療法」が全件数の多数を占めます。他に血漿交換や血漿吸着、持続的緩徐式血液濾過透析が入り現所有の1台では対応できず、

借用器で対応する場合もありました。

また血液内科からの依頼による「末梢血幹細胞採取」(PBSC)も実施しています。血液浄化は当日に依頼されるケースが多く、浄化法によっては年に数回しか実施されない症例もあるため、マニュアルを作成し情報、手技を共有するようにしました。また、実施の際に必要な機材を収納できる専用架台を導入し、よりスムーズな対応が可能となりました。(担当：櫻庭)

### 4) 病棟ラウンド

病棟および外来で使用している医療機器、主に医用テレメータ、ベッドサイドモニタ、AED、除細動器の点検を毎日実施し、常に安全に使用できるよう確認しています。

人工呼吸器の点検は2回/日に使用状況の確認を行います。テレメータ・ベッドサイドモニタの点検時に、実施確認表を別途作成し点検が実施されたのがわかるように変更しました。これによりラウンド点検業務の作業効率があがりより正確にスピーディに実施することは可能になりました。(担当：川合)

### 5) 内視鏡業務

日本消化器内視鏡技師会による洗浄・消毒ガイドラインでは保有する内視鏡に対して1回/年の培養検査を実施する事が推奨されています。当院でも十二指腸内視鏡(TJF-260V他4本)を培養検査プロトコルに沿って実施し、一般細菌、抗酸菌ともに検出されませんでした。現状においては、内視鏡に対する十分な洗浄効果を得ていると考えています。

今後も安全で十分な内視鏡洗浄消毒に努めていきたいと思えます。(担当：綿貫)

### 6) 手術室業務

腹腔鏡手術に使用する鉗子(種類・個数)の状況調査を実施した。腹腔鏡システムの更新に伴う新機器の保守管理を実施しました。

眼科手術機器の追加により、手術が効率的に行えるよう改善できました。また、院外修理が必要な機器に対しては積極的にメーカーによるメンテナンス講習を受講し、院内で修理が可能になることによる修理コストの軽減に貢献できました。

また、電気手術器の対極板をディスポに変更することに協力し、トラブル減少およびコスト削減に貢献することができました。(担当：関)

## 7) MEセンター (医療機器管理)

病院機能評価をきっかけにMEセンターの在庫管

理方法の全面的な見直しを実施しました。保守点検業務の効率を上げ、MEセンターを利用するスタッフへの利用のしやすさを重点に改善しました。

貸出は前年比5%増、返却は11%増、点検は20%増となり、取り扱う機器は増加していますが、修理およびトラブル件数は平年並みとなりました。

新機器の増加とともに、古い機器は劣化によるトラブルがあり平年並みとなる結果となりました。

(担当：廣瀬)

## ■ 2015年度スタッフ構成

### 部長

佐々木 芳 浩

- ・泌尿器科部長
- ・日本泌尿器科学会専門医
- ・指導医
- ・泌尿器腹腔鏡技術認定医

### 主任臨床工学技士

廣 瀬 孝 則

- ・透析技術認定士
- ・呼吸療法認定士
- ・第1種消化器内視鏡技師
- ・MD I C
- ・第2種ME技術認定

### 臨床工学技士

櫻 庭 直 達

- ・高気圧酸素治療専門技師
- ・呼吸療法認定士
- ・特定高圧ガス取扱主任者
- ・第2種ME技術認定
- ・特定化学物質等作業主任者

関 貴 洋

- ・透析技術認定士
- ・呼吸療法認定士

山 本 岳

- ・第2種ME技術認定

川 合 博 貴

- ・第2種ME技術認定

大 江 悠 輔

- ・第2種ME技術認定

綿 貫 顕 太

## ■ 主な対象疾患及び特色

### (血液浄化室)

- ・糖尿病性糸球体腎硬化症
- ・慢性糸球体腎炎
- ・腎硬化症
- ・多発性のう胞腎
- ・2型糖尿病
- ・IgA腎症

### (高気圧酸素治療)

- ・突発性難聴
- ・CO中毒
- ・閉塞性動脈硬化症
- ・皮弁壊死
- ・糖尿病性壊疽
- ・脊髄梗塞
- ・胸髄損傷
- ・頸髄損傷
- ・重症下肢虚血
- ・左中指不全切断
- ・凍傷
- ・網脈中心動脈閉塞症

### 血液浄化 (人工透析を除く)

- ・潰瘍性大腸炎
- ・クローン病
- ・T T P (血栓性血小板減少性紫斑病)
- ・原発性マクログロブリン血症
- ・G B S (ギランバレー症候群)
- ・M S (多発性硬化症)
- ・C I D P (慢性炎症性脱髄性多発神経炎)
- ・急性肝不全

### (手術室)

- ・消化器外科手術 (腹腔鏡手術を伴うもの)
- ・泌尿器科領域 (腹腔鏡手術を伴うもの)
- ・白内障 (白内障超音波手術器使用を伴うもの)
- ・変形性膝関節症 (自己血回収を伴うもの)
- ・変形性股関節症 (自己血回収を伴うもの)
- ・腰椎変形すべり症 (自己血回収を伴うもの)
- ・腰部脊柱管狭窄症 (自己血回収を伴うもの)

## ■ 特色

地域その他施設に比べ7名と少数ではあるが、スタッフ全員がどの業務にも従事できるような体制を確保しつつ、各診療科からのオーダーには即時対応することになっている。当院の特徴として神経内科系からの血液浄化や、癌患者への腹水濃縮濾過再静注入法 (以下CART) の症例が多く、特にCARTの実施件数については道内でもトップクラスである。最近では末梢血幹細胞採取の件数も増えており、道東圏内では当院のみが実施施設になっている。

関わる業務は多岐にわたり、内科、外科、泌尿器科、眼科、整形外科における臨床業務にも関わり、診療の補助を行っている。医療機器管理については、機器をMEセンターで中央管理し、登録機器は2,000台を超えた。これらの対応、情報を一本化し支出の軽減に努めている。

# 薬剤部

部長 松田俊之

## ■ 2016年度年度の目標及び方針

薬剤部では医薬品の適正使用を通じて「安全・安心で効果的な薬物治療」を提供するため、調剤をはじめ、薬品管理、医薬品情報、抗がん剤等の無菌調製など複数の業務に携わっている。また、入院時の持参薬調査や病棟担当薬剤師による薬剤管理指導業務を積極的に実施して、患者サービスの向上、医薬品の安全管理と有効性の確保、収入の安定確保に貢献できるよう鋭意努力している。これらを通じて、薬剤部は以下の3つの貢献を目標とする。

すなわち

- ①診療業務における貢献
- ②経営と連携における貢献
- ③教育・研修と臨床研究における貢献である。

## ■ 2016年度年度の具体的な重点項目

### ・化学療法センターの拡充

平成28年12月を目標に新しい化学療法センターを移転・拡充し使用開始を予定している。これに伴い、年々増加しているがん化学療法において最新・最良の治療が有効かつ安全に実施可能な体制を関係各位と協力して構築・実施していく。

### ・病棟薬剤業務の開始

病院薬剤師の業務が大きく入院患者のケアにシフトしている中で、主に投薬前の患者に対する業務として同業務があり、すでに診療面における有用性が認められている。また、本業務を行うことにより、経営面においても年間約2,000万円の収入が見込めるとともに医師・看護師の業務負担軽減につながる。

### ・薬剤管理指導業務の維持・拡大

上記病棟薬剤業務と対をなす業務として薬剤管理指導業務があり、主に投薬後の患者に対する業務と定義されている。本業務についても、その診療面における有用性と経営面におけるメリットが大きい。しかしながら、病棟薬剤業務と薬剤管理指導業務は同時に実施することができないため、両者をいかに両立させて業務として維持・拡大していくかが一つの課題として挙げられる。

### ・医薬品安全管理体制の強化

薬物療法を安全に実施していくため、特に麻薬、毒薬、向精神薬、ハイリスク薬について医薬品安全

管理責任者を中心に全ての薬剤師が手順を励行して安全対策を推進していく。さらに医療安全管理者をはじめとする他部署の職員とも十分連携して必要な安全対策・確認作業及び研修・教育を定期的に行い薬剤関連アクシデントの防止に努める。

### ・後発医薬品の導入促進

平成27年度の後発医薬品の数量割合は、上限の70%をクリアしている。しかしながら今後早い時期に上限が80%に引き上げられることが予想されているため、引き続き後発医薬品の切替を順次行っていく。

### ・自動錠剤分包機の更新

老朽化した自動錠剤分包機の更新が、平成28年度予算の機器等整備において予定されている。これにより、調剤業務のさらなる効率化と安全の確保を実現していく。

### ・治験体制の整備と実施

現在、当院にはCRC（認定治験コーディネーター）が不在であるため、SMO（治験施設支援機関）の協力のもと治験体制の整備を行うとともに、部内CRCの養成も並行して行いながら治験の実施に向けて取り組んでいく。

### ・専門・認定薬剤師の育成

薬剤師が薬の専門職として十分な力を発揮して成果をあげられるよう、平日頃から自己研鑽に励むとともに、各種専門・認定薬剤師の取得・更新をサポートできる部内の教育体制を整備し実践していく。

### ・働きがいのある職場作り

一人一人の薬剤師が働きがいのある職場であることを実感できるよう、薬剤部の環境整備に努めるとともに活気に溢れお互いに協力し合えるような人間関係の構築に努める。

## ■ 2015年度の評価

平成27年度年度は、薬剤師16名（常勤1名欠員）と事務職員1名で業務を行った。

診療面においては、薬剤管理指導業務の算定数（算定率）は、前年度4,992件（49.8%）から6,668件（59.2%）と件数にして34%増加した。また、抗がん剤の調製等の無菌製剤処理料は前年度8,315件から9,233件と

なり11%増加した。年々増加する新規がん化学療法に対してレジメン登録、無菌調製、薬剤管理指導などに積極的に従事した。

経営面においては、後発品の切替えを積極的に行い、数量ベースで前年度の54.2%から79.0%に増加した。これにより、平成28年度診療報酬改定により変更となったDPC機能評価係数Ⅱの上限値70%をクリアすることができた。

教育・研修、研究面においては、各分野を担当する薬剤師が自己研鑽に励むとともに院内・外の研修会の講師や学会発表を行い、他の医療スタッフや地域の薬剤師に対しても教育的な立場で積極的に取り組むことができた。

## ■ 2015年度スタッフ構成

スタッフ：17名

[内訳]

- ・薬剤師 16名
- ・助手 1名

### 取得認定

- ・日本病院薬剤師会生涯研修履修認定薬剤師 1名
- ・日本薬剤師研修センター認定薬剤師 2名
- ・日本病院薬剤師会認定指導薬剤師 2名
- ・H I V感染症薬物療法認定薬剤師 1名
- ・日本糖尿病療養指導士 1名
- ・認定医療情報技師 1名
- ・認定栄養サポートチーム専門療法士 1名

# 看護部

部長 杉山好美

## 2016年度の目標及び方針

看護部理念「人としての尊厳を守り、安全・安心・優しさのある看護を実践します」

法室の拡充に伴い、従来以上に外来化学療法を安全に安心して受けられるよう行き届いた看護を目指します。

### 基本方針

1. 患者さんの尊厳を守り、その人らしさを大切にされた看護を実践します。
2. 専門知識・技術を高め、科学的根拠に基づいた質の高い看護を実践します。
3. 全ての医療従事者と連携し、チーム医療に貢献します。
4. 働く人々の持てる力を支援し、健康づくりに貢献できる看護を実践します。

### 年度目標

1. 患者の視点に立った退院支援・連携
2. 認知症の理解を深めて、状態に合わせたケアの提供
3. 病院機能を考慮し、がん患者に対する質の高い看護

## 2016年度の具体的な重点項目

- (1) 2016年度は、退院調整、退院支援が適切かつ効率的に実践できるよう新たに退院支援リンクナース会を立ち上げ活動を強化しています。各部署からリンクナースを選出し、委員会では退院支援の実績報告や困難事例、成功事例の紹介を行い、知識・経験の共有化を図ります。各部署の特徴を捉えた患者中心の退院支援ができることを目標とし、地域との連携を強化し看護と介護をつなげます。
- (2) 認知症高齢者は増加する一方で、繰り返される訴えに疲弊することも多く、高齢者の思いを汲み取れなかった自分に対する負の感情をいだくこともあります。認知症高齢者に対する理解を深め、的確な看護計画を持って予測した看護を行い、高齢者の負担を軽減すると共に看護職の負担も軽減したいと思います。
- (3) がんと診断された患者に対して医師または専門・認定看護師が心理的不安を軽減する目的で面接を行った場合、がん患者指導管理料が算定できます。安心で納得した治療が受けられるために、より多く面接の機会を提供できるよう体制を見直し、質の高い看護を提供します。外来化学療

## 2015年度評価

地域医療支援病院として、地域包括ケアシステムの中での病院としての機能を果たすため、入院時から退院をイメージした看護を展開すること、地域との連携すること、地域がん診療拠点病院の機能・役割を果たすために専門看護師・認定看護師の人材育成と人材活用、また褥瘡管理者を再度配置し看護の質向上に取り組むこと、を目標に活動しました。

4月より退院調整看護師を1名増員し2名の配置、病床管理部門は看護副部長が担当しました。退院調整看護師の介入件数は1年間で422件に増加し、ケアマネージャー・訪問看護と連携し、切れ目なく地域へつなげる活動ができるようにしています。病床管理では、即日入院の受け入れや定期入院のフローを整理、調整することで、スムーズな入院の受け入れが可能となりました。

褥瘡予防では、褥瘡管理者が予防の計画、ケア実施を指導し、褥瘡発生率は0.89%、院内発生でもD3以上の褥瘡発生は9件に留まりました。褥瘡ハイリスク加算の算定は1034件であり、専従者を配置していた25年度を上回りました。専従者を配置した成果が出ています。

皮膚・排泄ケア認定看護師1名が合格し、専門看護師1名、認定看護師9分野14名となりました。院内の看護師対象の院内講座を5回、地域の看護職対象の院外講座を1回継続的に開催し、専門的知識・技術の習得に貢献しています。認定看護師1名が中途退職しましたが、新たにがん化学療法看護2名が受講し、次年度の試験合格、資格取得を目指しています。

10月病院機能評価を受審では、一致団結し準備・受審に臨み認定を受けることができました。今後も指摘を受けた課題や継続した改善活動に取り組む計画です。

## 2015年度活動実績

### 1. 就業状況

表1 看護部職員状況 (2015年4月)

	看護師	准看護師	看護補助者	合計
正 規	304	8	1	313
嘱 託	10 (再雇1)	4	28	32
合 計	314	12	29	355

表2 2015年度退職者数及び離職率

	退職者数 (内定年・転任)	離職率
正 規	26 (4)	7.3% (6.2%)
(内新卒)	1	4.5%

平成26年の調査によると、全国の病院勤務看護職の離職率は、日本看護協会の常勤看護職員で10.8%、新卒看護職員は7.5%です。当院の看護職員の離職率は、全国及び北海道のデータと比べて低値です。退職者26名中、定年退職者1名、派遣交流3名を含みます。

## 2. 看護実習生の受け入れ

表3 看護実習生受け入れ実績

受 入 先	回 数	延べ人数
釧路労災看護専門学校	29回	2,770名
釧路市医師会看護専門学校	6回	468名

## 3. 小中高校生の職場体験受け入れ

表4 小中高校生 職場体験受け入れ実績

学 校 名	学 年	人 数	実 施 日
北海道教育大学附属 釧路中学校	2年生	3	7月7日～9日
光陽小学校	6年生	3	10月30日
釧路市青陵中学校	2年生	3	11月19日
釧路江南高校	2年生	3	2月23日
高校生一日看護体験		10	11月18日

平成27年度は、病院機能評価受審の準備のため、職場体験の受け入れが前年の半分に留まりました。

## 4. 研修受講状況

研修参加は、表5～7に示す

表5 労働者健康福祉機構・ブロック開催研修 参加実績

研 修 名	人 数	研 修 名	人 数
管理職2年目研修	3	看護倫理研修	2
安全対策研修	1	認定看護師研修	2
管理者研修Ⅰ	1	医療メデイエーション	1
管理者研修Ⅱ	1	ブロック中堅研修	14
継続教育担当者研修	2	ブロック管理者研修	10
新人看護職員教育研修	2		

表6 北海道看護協会等主催研修 参加実績

研 修 名	人 数	研 修 名	人 数
看護研究 基礎編	4	認知症高齢者の看護	5
看護研究 実践編	9	コンフリクトマネジメント	2
看護研究 指導者編	1	エンド・オブ・ライフケア	1
口腔ケアの基本	2	医療安全フォローアップ	1

研 修 名	人 数	研 修 名	人 数
その人らしい最期	2	災害看護	2
リスクマネジメント	2	災害医療	1
看護倫理	6	災害対策	2
家族看護	4	継続教育担当者	2
排泄ケア	1	臨地実習指導	1
がん化学療法	3	院内教育企画	1
リンパ浮腫	1	新人教育	6
糖尿病看護	1	高齢者の終末期ケア	2
心不全の病態とケア	1	認知症ケア	4
認知症ケア	10	フィジカルアセスメント	1
成人の発達障害	2	看護過程と看護記録	2
脳卒中 地域連携	2	クリニカルラダー説明会	4
看護管理者研修ファーストレベル			1

表7 長期研修受講者実績

氏 名	研 修 名	期 間
松 浦 理 沙	がん化学療法看護	H27.6～H28.3
佐々木 朋 子	がん化学療法看護	H27.6～H28.3
小 野 梨 恵	臨地実習指導	H28.1～H28.3

## 5. 専門看護師・認定看護師公開講座

2015年10月17日(土) 13:00～17:00

参加人数：44名

講義内容

大 倉 泉

：経口抗がん剤治療を受けている患者の支援について

柏 木 勇 生

：がん性疼痛緩和に向けた実践的アプローチ

神 田 みゆき

：家族ケア

門 脇 郁 美

：看護師自身のストレスマネジメント

～がん患者の視点から～

## 6. 院外講師派遣実績

表8 2015年度院外講師等派遣実績

実施日	氏名	研修会名	依頼元・対象など
H27. 4.17	佐藤 愛美	釧路市医師会看護専門学校看護の心を伝える	釧路市医師会看護専門学校生
H27. 4.21 ～H28. 3.31	馬場 かおり	釧路保健所感染性胃腸炎発生予防および感染拡大防止事業	管内福祉施設職員
H27. 5.14	信藤 涼子	第14回医療情報ケアプロセス研究会座長	医療情報ケアプロセス研究会
H27. 5.23	本間 美紗	医療講演会（相談業務手伝い他8名）	中標津町民
H27. 6 ～H27. 10	石橋 みよの	標茶町パパママ教室	標茶町民
H27. 6.13	中田 沙織	日本手術看護学会北海道教育セミナー	
H27. 6.13	門脇 郁美	胃がん予防市民フォーラム	市民
H27. 6.30	森 美代子	北海道養護教員釧路支部管内小中ブロック	管内養護教諭
H27. 7.11	玉澤 麻美	北海道看護協会釧路支部看護管理者懇談会(新人看護職員研修体制)	釧路支部看護管理者
H27. 7.18	本間 美紗	標津脳外医療相談（相談業務手伝い他8名）	標津町民
H27. 7.20	森 美代子	第4回北海道リンパ浮腫診療ネットワーク	
H27. 8. 29 ～8. 30	雪田 悦子	北海道移植医療推進協議会	移植コーディネーター
H27. 9. 5	森 美代子	リンパ浮腫医療従事者研修講師	
H27. 10. 2	森 美代子	釧路市医師会看護専門学校 戴帽の儀 特別講演	釧路市医師会看護専門学校生
H27. 10. 3	本間 美紗	釧路管内健康フォーラム	釧路市民
H27. 10. 3	信藤 涼子	釧路管内健康フォーラム	釧路市民
H27. 10. 9 ～10. 10	中田 沙織	教育セミナー実行委員	日本手術看護学会年次大会
H27. 10. 30	神田 みゆき	在宅緩和推進事業	中標津保健所
H27. 11. 7	神田 みゆき	緩和ケア多職種研修会in中標津	町立中標津病院
H27. 11. 13 ～11. 14	信藤 涼子	第16回日本クリニカルパス学会 学術集会 実行委員・座長	日本クリニカルパス学会
H27. 12. 4	中村 公子	褥瘡予防と対策	川湯の森病院
H28. 1. 9	信藤 涼子	医療情報ケアプロセス研究会 座長	医療情報ケアプロセス研究会
H28. 2. 20	森 美代子	生涯学習啓発釧路町女性のつどい	釧路町教育委員会
H28. 2. 27	伊藤 織恵	くしろ糖尿病看護研究会講師	アボットジャパン
H28. 3. 7	森 美代子	国際ソロプチミスト釧路事業 協力	国際ソロプチミスト
H28. 3. 12	中田 沙織	北海道手術室安全セミナー講師	
H28. 3. 18	馬場 かおり	北海道保健所感染性胃腸炎発生予防、拡大防止支援事業協力	

## 7. 看護研究発表

## ①院内発表

- ・4西：江橋真莉奈、千葉 明子、太田 涼子、岩谷夏芽里、納夢ひとみ、新潟亜紀子、中村 公子  
：頭頸部の放射線療法による皮膚炎の悪化防止  
－放射線療法初回からスキンケアの有効性－
- ・5東：藤原 愛美、二瓶 安弥、板垣なつみ、伊東 彩未  
：血液疾患化学療法患者の口腔ケアに対する意識調査  
－患者参加型口腔内観察シートの導入を試みて－

- ・8東：早坂麻奈美、河野 詠子、野口 美樹、山本 千春  
：終末期患者とその家族に対する退院調整・支援の  
リフレクション  
－退院翌日永眠したS氏の事例より－

## ②院外発表

- ・7西：山中 綾香、甲谷智恵子、小林あゆみ、玉澤 麻美  
：胃ろう造設における家族の代理決定支援  
～意思決定プロセスノートを用いて～  
：北海道看護研究学会（H27.6.21）

：釧路支部看護研究合同発表会（H28.1.23）

・乳がん認定看護師：小野 紫穂、森 美代子

：乳がん患者の乳房補整ケアの効果

～入院前・入院中・退院後初回受診時までのケア  
を振り返って～

：北海道看護研究学会（H27 6.21）

：釧路支部看護研究合同発表会（H28.1.23）

・手術室：宮脇 良輔、佐賀 利奈、窪木さおり、  
武田 香苗

：アクションカードを用いた手術室の災害対策

：釧路支部看護研究合同発表会（H28.1.23）

・8西：佐藤 舞笑、種田 友美、中田 恵、  
鈴木梨佳子

：開腹手術における腹帯のあり方

～患者が求めている腹帯の役割～

：釧路支部看護研究合同発表会（H28.1.23）

## III. 委員会報告

(1) 委員会一覧	59
(2) 委員会活動報告	
・倫理委員会	60
・地域医療支援運営委員会	61
・院内研修委員会	64
・院内感染対策委員会	65
・化学療法委員会	66
・臨床研修管理委員会	67
・医師研修プログラム委員会	67
・薬事／臨床研究審査委員会	69
・D P C／クリニカルパス委員会	70
・地域医療連携総合センター運営委員会	72
・H I V運営委員会	73
・診療医事業務／査定減対策委員会	74
・診療情報／個人情報管理委員会	76
・医療安全推進委員会	77
・医療情報システム委員会	79
・機器等整備委員会	81
・救急診療運営委員会	82
・緩和医療委員会	83
・禁煙実行委員会	86
・がん診療連携拠点病院運営委員会	87
・診療材料等検討委員会	89
・血液浄化室安全管理委員会	90
・在宅医療運営委員会	91
・公舎管理委員会	92
・栄養管理／N S T委員会	93
・図書委員会	95
・省エネルギー推進委員会	97
・防災委員会	98
・手術部運営委員会	99
・輸血療法委員会	100
・医療ガス安全管理委員会	101
・褥瘡対策委員会	102
・放射線部安全運営委員会	104
・中央検査部管理運営委員会	106
・健診業務体制整備委員会	108
・保育委員会	109
・広報編集委員会	110
・病院誌「やちぼうず」編集委員会	111
・衛生委員会	112
・患者サービス向上委員会	114
・ドクターズクларク運営委員会	116



## 委員会一覧

- 倫理委員会
- 地域医療支援運営委員会
- 院内研修委員会
- 院内感染対策委員会
- 化学療法委員会
- 臨床研修管理委員会
- 医師研修プログラム委員会
- 薬事／臨床研究審査委員会
- DPC／クリニカルパス委員会
- 地域医療連携総合センター運営委員会
- HIV運営委員会
- 診療医事業務／査定減対策委員会
- 診療情報／個人情報管理委員会
- 医療安全推進委員会
- 医療情報システム委員会
- 機器等整備委員会
- 救急診療運営委員会
- 緩和医療委員会
- 禁煙実行委員会
- がん診療連携拠点病院運営委員会
- 診療材料等検討委員会
- 血液浄化室安全管理委員会
- 在宅医療運営委員会
- 公舎管理委員会
- 栄養管理／NST委員会
- 図書委員会
- 省エネルギー推進委員会
- 防災委員会
- 手術部運営委員会
- 輸血療法委員会
- 医療ガス安全管理委員会
- 褥瘡対策委員会
- 放射線部安全運営委員会
- 中央検査部管理運営委員会
- 健診業務体制整備委員会
- 保育委員会
- 広報編集委員会
- 病院誌「やちぼうず」編集委員会
- 衛生委員会
- 患者サービス向上委員会
- ドクターズクランク運営委員会

## ■ 基本方針

当委員会は、院内で行われる医学系研究について、「釧路労災病院倫理委員会規程」に基づいて倫理的、科学的及び社会的観点から審査を行うことを目的としている。

## ■ 主な審議事項

2015年度は、延11件について審査を行った。

### 審議課題

- ① 難治性形質転換後びまん性大細胞性B細胞性リンパ腫に対するレナリドマイド治療  
(申請者：血液内科 岡田 耕平)
- ② ヒト消化管がん検体を用いた、受容体型チロシンキナーゼおよびシグナル伝達分子の網羅的な発現検討  
(申請者：腫瘍内科 曾我部 進)
- ③ 多系統萎縮症の発症素因に関する遺伝子解析及び分子バイオマーカーに関する研究  
(申請者：神経内科 津坂 和文)
- ④ 進行胃癌（Stage II, III）に対する腹腔鏡下胃切除手術の有効性、安全性に関する検証的臨床研究（多施設共同研究）  
(申請者：外科 小林 清二)
- ⑤ 広域医療圏におけるICTを利用した手外科患者退院後支援の有用性の検討  
(申請者：整形外科 渡辺 直也)
- ⑥ 治療就労両立支援モデル事業（がん分野）  
(申請者：腫瘍内科 曾我部 進)
- ⑦ 職場における新しい禁煙指導ツールの開発に関する研究  
(申請者：治療就労両立支援部 辻本 和代)
- ⑧ 平成27年度石綿関連疾患にかかる医学的所見の解析調査業務（石綿肺等の鑑別診断の在り方に関する調査編）  
(申請者：腫瘍内科 岡田 耕平)

- ⑨ センチネルリンパ節転移陽性乳癌における腋窩治療の観察研究  
(申請者：外科 小笠原 和宏)
- ⑩ 進行再発大腸癌におけるKRAS minor BRAF、NRAS、PIK3CAなどのがん関連遺伝子異常のプロファイリングの多施設共同研究  
(申請者：腫瘍内科 曾我部 進)
- ⑪ 腰下肢痛診療における上殿皮神経障害などの腰椎周辺疾患の臨床的意義の検討  
(申請者：脳神経外科 岩本 直高)

## ■ 委員会の構成

委員：10名  
(2016年3月現在、委員長、書記を含む)

### [内 訳]

- ・院内委員：8名
- ・院外委員：2名

## ■ 年間活動内容と実績

2015年度開催日

倫理委員会（5回開催）

回数	開催日	出席人数	出席率
第1回	2015年8月4日	10名	100.0%
第2回	2015年8月18日	10名	100.0%
第3回	2015年11月11日	10名	100.0%
第4回	2015年12月1日	9名	90.0%
第5回	2016年2月29日	10名	100.0%

# 地域医療支援病院運営委員会

委員長 野々村 克也

## ■ 目的と方針

本委員会は、病院が地域のかかりつけ医等からの要請に適切に対応し、地域における医療の確保のために必要な支援を行うように定めた地域医療支援病院に関する事項の業務遂行状況について審議し、病院の管理者に意見を述べるものとする。

## ■ 2016年度の目標

- (1) 地域医療機関からの紹介患者に対する医療提供を行い、地域医療支援病院の承認要件の達成。
- (2) 地域医療機関との医療機器及び入院設備などの共同利用の推進。
- (3) 救急医療の提供。
- (4) 地域の医療従事者及び市民への研修会や講演会の実施。

## ■ 委員会の構成

委員：18名

(2016年3月現在、委員長・書記を含む)

### [内 訳]

- ・院内委員：8名
- ・院外委員：10名

## ■ 年間活動内容と実績

2015年度開催日と審議内容

地域医療支援病院運営委員会（4回開催）

回数	開催日	出席人数	出席率
第1回	2015年5月27日(水)	17名	94.4%
第2回	2015年8月31日(月)	18名	100.0%
第3回	2015年12月22日(火)	18名	100.0%
第4回	2016年3月15日(火)	16名	88.9%

## ■ 審議内容

### (1) 2015年5月27日(水)「大会議室」

- ・業務実績報告について
- ・平成26年度病病・病診連携サービス実態調査結果報告
- ・釧路労災病院に対する要望等事項について
- ・歯科合同カンファレンスの報告について

### (2) 2015年8月31日(火)

- ・業務実績報告について
- ・釧路労災病院に対する要望等事項について

### (3) 2015年12月22日(火)

- ・業務実績報告について
- ・釧路労災病院に対する要望等事項について

### (4) 2016年3月15日(火)「大会議室」

- ・業務実績報告について
- ・平成27年度病病・病診連携サービス実態調査結果報告
- ・釧路労災病院に対する要望等事項について

## 年間活動実績

業務実績	27年度実績
紹介率	66.9%
逆紹介率	55.1%
開放病床	
医科	3件
歯科	1件
高額医療機器共同利用	
リニアック	210件
CT	38件
MRI	8件
内視鏡 内視鏡	8件
図書室利用図書室利用	1件
カンファレンス参加状況	
医科	4件
歯科	9件
講演会・研修回実施状況	
医療従事者向け講演会	10回
市民向け講演会等	3回
研修会等	3回

## 平成27年度 地域医療連携公開講座開催実績

	開催日	会場	時間	内 容	院内	院外	計	主 催
1	2015/4/16	講堂	18:00～ 19:30	医療講演会 「患者目線で考える病院職員の接遇」 [講師] (株)青山プロダクション 代表取締役 青山 夕香	72	64	136	釧路労災病院
2	2015/5/22	講堂	18:00～ 19:30	医療講演会 「職場のストレスマネジメント」 [講師] 東京労災病院勤 労者メンタルヘルス研究センター長 治療就労両立支援センター 部長 小山 文彦	73	18	91	釧路労災病院
3	2015/5/24	講堂	12:30～ 17:30	医療講演会・研修会 「道東ストーマケアセミナー 2015」 [講師] 釧路労災病院 皮膚・排泄ケア 認定看護師 中村 公子 コンバテックジャパン(株) 皮膚・排泄ケア 認定看護師 増川美加子	3	42	45	コンバテック ジャパン(株) (後援) 釧路労災病院
4	2015/6/20	講堂	16:30～ 18:00	医療講演会 「H I V陽性者の心理・社会的問題とわたした ちにできること」 [講師] 国立病院機構 大阪医療センター MSW 岡本 学	27	35	62	釧路労災病院
5	2015/6/28	講堂	18:00～ 19:30	医療講演会 「誰の責任かではなく、誰が防止できたか」 [講師] ANAビジネスソリューション(株) ヒューマンエラー対策専属講師 池上 義博	221	19	240	釧路労災病院
6	2015/7/26	講堂	13:00～ 15:00	市民公開講座 「話そう大切な人と」 ～移植医療を通して考える命と絆～ [講師] 市立釧路総合病院 泌尿器科部長 進藤 純理	16	31	47	北海道移植医 療推進協議会 (後援) 釧路労災病院
7	2015/8/1	講堂	17:00～ 15:00	高校生のための 医療福祉体験セミナー in くしろ・ねむろ地域	27	95	122	釧路労災病院
8	2015/8/22 2015/8/23	講堂	9:00～ 17:00 9:00～ 16:00	釧路労災病院緩和ケア研修会	49	25	74	釧路労災病院
9	2015/8/25	講堂	18:00～ 19:00	医療講演会 「血液培養とブラッドトランスファーデバイス」 [講師] 日本バクトン・ディッキンソン(株) 吉永 孝司 神田 拓哉	259	3	262	釧路労災病院

	開催日	会場	時間	内 容	院内	院外	計	主 催
10	2015/10/17	講堂	13:00～ 17:30	専門・認定看護師公開講座 「看護の力で褥瘡予防・早期発見を目指すために」 皮膚・排泄ケア認定看護師 中村 公子  「経口抗がん剤治療を受けている患者の支援について」 がん化学療法看護認定看護師 大倉 泉  「がん性疼痛緩和に向けた実践的アプローチ」 がん性疼痛看護認定看護師 柏木 勇生  「家族ケア」 緩和ケア認定看護師 神田みゆき 「看護師自身のストレスマネジメント ～がん看護の視点から～」 がん看護専門看護師 門脇 郁美	10	38	48	釧路労災病院
11	2015/10/27	講堂	18:30～ 20:00	多職種連携研修会 「サロン多職種連携をみんなで進めましょう」	20	28	48	CCL(ククル) (後援) 釧路労災病院
12	2015/11/15	講堂	14:0～ 15:40	緩和ケア市民公開講座 「緩和ケアとは」 [講師] 釧路労災病院 副院長 小笠原和宏  「在宅緩和ケアの実際-自分の生き方を考える-」 [講師] 釧路地域訪問看護ステーション 所長 車谷 香織	20	36	56	釧路労災病院
13	2015/11/21	釧路 キャ ッセン スル チュ リ ー ル	15:00～ 16:40	医療講演会 「多発性骨髄腫の診断と治療」 [講師] 市立根室病院 内科部長 伊藤 仁也  「H I V/A I D S の最新の話(世界、日本 そして釧路)」 [講師] 釧路労災病院 副院長 宮城島拓人	17	24	41	釧路医師会 セルジーン(株) (後援) 釧路労災病院
14	2015/11/26	講堂	18:30～ 19:30	医療講演会 「消化管癌の予防戦略：米国を超えた大腸がん 死に対する対策は？」 [講師] 北海道大学大学院がん予防内科 特任講師 間部 克裕	27	4	31	(共催) 釧路市医師会 味の素製薬(株) 釧路労災病院
15	2015/11/28	講堂	17:00～ 19:00	市民講演会 再びケニア 「ケニアでの日本赤十字としての活動・成果・夢」 [講師] 日本赤十字社(兼任)国際赤十字連盟 五十嵐真希  「ケニアでの15年にわたる医療活動とH I V/ A I D S の現状について」 [講師] N P O 法人イルファー代表理事・理事長 稲田頼太郎	35	106	141	イルファー釧路 (共催) 釧路労災病院 (後援) 釧路市医師会
16	2016/2/25	講堂	18:30～ 19:30	H I V/A I D S ケアセミナー 「H I V/A I D S の話(世界、日本そして釧路)」 [講師] 釧路労災病院 副院長 宮城島 拓人	11	41	52	釧路労災病院

## 目的

職員の資質向上を目的とし、職員研修会の企画及び実施を円滑に遂行する。

## 2016年度の目標

研修会の開催時期、開始時間等を検討し参加人数の増を目指す。

## 委員会の構成

委員：13名

(2016年3月現在、委員長・書記を含む)

### 【内 訳】

- ・医師：2名
- ・理学療法士：1名
- ・看護師：1名
- ・臨床工学技士：1名
- ・放射線技士：1名
- ・臨床検査技師：1名
- ・薬剤師：1名
- ・事務局：5名

## 審議内容

- 12月 2015年度研修実績・予定について
- 2016年度研修計画（案）について
- 3月 委員会規程について

## 2016年度研修会計画（案）

開催月	テーマ（内容）
4月	接遇について（外部講師）
5月	メンタルヘルスについて（機構内講師）
6月	医療安全対策
8月	感染対策
9月	DPCに関する講習（外部講師）
10月	認知症対応等について（外部講師）
11月	医療安全対策（外部講師）
1月	感染対策

## 年間活動実績

### 2015年度研修会開催実績

開催日	開催時間	テーマ（内容）	講師	参加人数
4月16日(木)	18:00～19:30	患者接遇について	(株)青山プロダクション 青山氏	136人
5月22日(金)	18:00～19:30	職場のストレスマネジメント	東京労災病院勤労者メンタルヘルス研究センター 小山氏	93人
6月26日(金)	18:00～19:40	ヒューマンエラー対策	ANAビジネスソリューション(株) 池上氏	240人
8月25日(火)	18:00～19:00	血液培養とブラッドトランスファージェイブイス	日本ベクトン・ディッキンソン(株) 吉永氏、神田氏	262人
9月24日(木)	17:30～18:00 18:10～19:40	保険診療に関する講習	医事課医事係 山田氏	74人
11月16日(月)	18:00～19:00	医療事故の初期対応	東京海上日動火災保険(株) 池上氏	244人
1月14日(木)	18:00～19:00	新型インフルエンザについて	感染管理認定看護師 馬場氏	241人
1月28日(木)	17:30～18:30	医療ガスの取扱いについて 麻薬の取り扱いについて	エア・ウォーター(株) 須田氏 薬剤部長 小川氏	60人
2月5日(金)	18:00～19:00	新型インフルエンザについて	感染管理認定看護師 馬場氏	84人
3月17日(木)	18:00～19:00	ICT部会による報告	ICTメンバー	67人

※開催時間や曜日を工夫することにより前年度より多くの参加者を得ることができた。



# 院内感染対策委員会

委員長 宮城島 拓 人

## ■ 目的と方針

院内感染対策委員会は、MRSA・HBV・HCV等の感染の防止に資することを目的とする。

## ■ 2016年度の目標

- (1) 院内感染の調査研究
- (2) 院内感染の防止対策
- (3) 院内感染症に対する職員の啓発

## ■ 委員会の構成

委員：18名

(2016年3月現在、委員長・書記を含む)

### [内 訳]

- ・医師：6名
- ・看護師：4名
- ・医療職：5名
- ・事務局：3名

## ■ 年間活動内容と実績

2015年度開催日と審議内容

院内感染対策委員会（12回開催）

	開催日	出席人数	出席率
第1回	2015年04月21日（火）	18名	100.0%
第2回	2015年05月19日（火）	18名	100.0%
第3回	2015年06月16日（火）	18名	100.0%
第4回	2015年07月21日（火）	18名	100.0%
第5回	2015年08月18日（火）	17名	94.4%
第6回	2015年09月15日（火）	18名	100.0%
第7回	2015年10月20日（火）	18名	100.0%
第8回	2015年11月17日（火）	17名	94.4%
第9回	2015年12月15日（火）	16名	88.8%
第10回	2016年01月19日（火）	16名	88.8%
第11回	2016年02月16日（火）	16名	88.8%
第12回	2016年03月15日（火）	18名	100.0%

## ■ 審議内容

### (1) 2015年5月19日（火）「小会議室」

- ・使用後の内視鏡運搬方法の変更について
- ・内視鏡の培養検査実施について

### (2) 2015年6月16日（火）「小会議室」

- ・間歇的導尿実施に係るカテーテルの運用方法について
- ・ブラッドトランスファーデバイスの導入検討について

- ・結核の接触者健診結果について

### (3) 2015年7月21日（火）「小会議室」

- ・発生報告書入力方法について
- ・病院機能評価に向けた取組について

### (4) 2015年8月18日（火）「小会議室」

- ・院内感染対策マニュアル改正について
- ・相互評価ラウンドについて

### (5) 2015年9月15日（火）「小会議室」

- ・院内感染対策マニュアル改正について

### (6) 2016年1月19日（火）「小会議室」

- ・院内感染対策マニュアル改正について
- ・インフルエンザ発生状況について
- ・アデノウイルス感染接触者状況について

### (7) 2016年2月16日（火）「小会議室」

- ・院内感染対策マニュアル改正について

### (8) 2016年3月15日（火）「小会議室」

- ・インフルエンザ発生状況について
- ・手指衛生ラウンド実施について
- ・平成28年度ICTラウンド計画表（案）について

## ■ 年間活動実績

- (1) MRSA・MDRP発生報告
- (2) 主な細菌検出と針刺し状況報告
- (3) 院内ラウンド報告
- (4) 抗MRSA薬使用状況報告
- (5) 耐性菌ラウンド報告
- (6) 材料・診療科・病棟別検出菌数報告
- (7) 4類・5類感染症発生件数報告
- (8) 保育所・栄養管理室、大腸菌検出報告
- (9) 抗生剤・抗MRSA薬使用状況報告
- (10) 他施設とのカンファレンス報告

## 目的と方針

本委員会は、当院における外来化学療法を安全に実施することを目的とする。

## 2016年度の目標

- (1) 化学療法室の円滑な運営を図るため、また、外来化学療法センター開設に向けて、化学療法の運営に関する事項、その他必要と認められる事項を審議する。
- (2) 院内化学療法レジメンの妥当性を審議し、整備する。
- (3) 化学療法に関する実績分析と安全対策に関することを審議する。

## 委員会の構成

委員：12名

(2016年3月現在、委員長、書記を含む)

### [内 訳]

- ・医師：5名
- ・看護師：2名
- ・医療職：2名
- ・事務局：3名

## 年間活動内容と実績

2015年度開催日と審議内容

化学療法委員会（4回開催）

	開催日	出席人数	出席率
第1回	2015年6月16日（火）	10名	83.3%
第2回	2015年9月30日（水）	11名	91.7%
第3回	2015年12月24日（木）	8名	66.7%
第4回	2016年3月29日（火）	11名	91.7%

## 審議内容

### (1) 2015年6月16日（火）「大会議室」

- ・平成27年度委員会規程について
- ・平成26年度・27年度入院・外来化学療法室科別患者数調べ
- ・新規プロトコールの申請（2件）
- ・外来化学療法室件数増加による混雑状況の解決策について
- ・新化学療法センターについて

### (2) 2015年9月30日（水）「大会議室」

- ・平成27年度入院・外来化学療法室科別患者数調べ
- ・新規プロトコールの申請（3件）
- ・外来化学療法室件数増加について
- ・「外来化学療法運用」の変更について
- ・5%糖液1000mL製造中止による代用薬剤について
- ・B型肝炎ウイルスの再活性化について

### (3) 2015年12月24日（木）「大会議室」

- ・平成27年度入院・外来化学療法室科別患者数調べ
- ・新規プロトコールの申請（2件）
- ・閉鎖式混合調製システムについて
- ・DRIP-EYEについて

### (4) 2016年3月29日（火）「大会議室」

- ・平成27年度入院・外来化学療法室科別患者数調べ
- ・新規プロトコールの申請（5件）
- ・化学療法室の近況について

## 年間活動実績

### ●外来化学療法件数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
374	317	346	340	330	322	339	329	348	363	387	398	4,193

※対前年度比：656件の増

### ●入院化学療法件数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
276	298	275	282	250	272	310	286	270	271	258	343	3,391

※対前年度比：313件の増

## 臨床研修管理委員会

委員長 宮城島 拓 人

### ■ 目的と方針

臨床研修管理委員会は、臨床研修医（初期・後期）の受け入れ等について円滑な実施を図ることを目的とする。

### ■ 2016年度の目標

臨床研修プログラムの策定、見直し、臨床研修医の受入体制の整備、臨床研修実施計画を立案し、臨床研修医の評価及び修了認定を行う。

### ■ 委員会の構成

委員：22名

（2016年3月現在、委員長・書記を含む）

#### 〔内 訳〕

- ・医師：12名
- ・薬剤師：1名
- ・看護師：1名
- ・事務局：2名
- ・外部委員：6名

### ■ 年間活動内容と実績

2015年度の開催日と審議内容

臨床研修管理委員会（1回開催）

	開催日	出席人数	出席率
第1回	2016年3月23日（水）	7名	31.8%

### ■ 審議内容

（1）2016年3月23日（水）「大会議室」

- ・臨床研修医の研修状況について
- ・更科研修医、押野研修医、山村研修医の臨床研修評価について

### ■ 年間活動実績

修了式を実施。院長より3名の研修医へ修了証が手渡された。

## 医師研修プログラム委員会

委員長 宮城島 拓 人

### ■ 目的と方針

医師研修プログラム委員会は、臨床研修医及び専攻医の研修に対し、円滑な実施及び評価を図ることを目的とする。

### ■ 2016年度の目標

臨床研修プログラムの策定、見直し、臨床研修医の受入体制の整備、臨床研修実施計画を立案し、臨床研修医の評価及び修了認定を行う。また、各基幹施設に設置される管理委員会と連携を図り、プログラム委員会として専攻医の研修を管理、評価する。

### ■ 委員会の構成

委員：16名

（2016年3月現在、委員長・書記を含む）

#### 〔内 訳〕

- ・医師：12名
- ・薬剤師：1名
- ・看護師：1名
- ・事務員：2名

### ■ 年間活動内容と実績

2015年度の開催日と審議内容

臨床研修管理委員会（11回開催）

	開催日	出席人数	出席率
第1回	2015年4月21日（火）	14名	87.5%
第2回	2015年5月19日（火）	14名	87.5%
第3回	2015年6月16日（火）	14名	87.5%
第4回	2015年7月21日（火）	14名	87.5%
第5回	2015年8月18日（火）	14名	87.5%
第6回	2015年9月15日（火）	14名	87.5%
第7回	2015年10月29日（木）	14名	87.5%
第8回	2015年11月17日（火）	14名	87.5%
第9回	2015年12月15日（火）	14名	87.5%
第10回	2016年1月19日（火）	14名	87.5%
第11回	2016年2月16日（火）	14名	87.5%

### ■ 審議内容

（1）2015年4月21日（火）「小会議室」

- ・27年度委員会規程について
- ・臨床研修医の研修状況について
- ・北海道臨床研修病院プレゼンテーション2015札幌のスケジュールについて

- プログラム変更について
- (2) 2015年5月19日(火)「小会議室」
- 臨床研修医の研修状況について
  - レジナビフェアin東京2015参加者について
  - マッチングスケジュールについて
- (3) 2015年6月16日(火)「小会議室」
- 臨床研修医の研修状況について
  - レジナビフェアin東京2015について
  - 病院見学者状況
  - 指導医講習会について
- (4) 2015年7月21日(火)「小会議室」
- 臨床研修医の研修状況について
  - レジナビフェアin東京2015報告
  - マッチング面接者現状報告
- (5) 2015年8月18日(火)「小会議室」
- 臨床研修医の研修状況について
  - マッチング面接結果報告(中間)
- (6) 2015年9月15日(火)「小会議室」
- 臨床研修医の研修状況について
  - マッチング登録
  - 旭川医科大学主催指導医講習会
- (7) 2015年10月29日(木)「小会議室」
- 臨床研修医の研修状況について
  - マッチング結果発表
  - 平成28年度北海道大学病院からのたすきがけ受入人数
- (8) 2015年11月17日(火)「小会議室」
- 臨床研修医の研修状況について
  - 研修医1年の28年度研修予定表
  - 後期臨床研修について
- (9) 2015年12月15日(火)「小会議室」
- 臨床研修医の研修状況について
  - 研修医1年の28年度研修予定表
- (10) 2016年1月19日(火)「小会議室」
- 臨床研修医の研修状況について
  - 他職種による評価表について

(11) 2016年2月16日(火)「小会議室」

- 臨床研修医の研修状況について
- 他職種による評価表について

■ 2015年度採用活動

- 北海道臨床研修病院合同プレゼンテーション2015  
札幌

1) 場所・日時：札幌コンベンションセンター  
平成27年4月26日(日)

- レジナビフェア2015【東京】

1) 場所・日時：東京ビックサイト(東京都)  
平成27年7月19日(日)

■ 2015年度採用状況

試験申込数：4名であった。この4名について、マッチング協議会が行うマッチング制度にかけた結果、当院、臨床研修医受入枠3名のところ、0名のマッチングという結果になった。

2016年度研修医数は1年次0名、2年次2名の合計2名となった。

## ■ 目的と基本方針

薬事委員会は、医薬品の適正使用を推進するため、医薬品の管理運営・新規医薬品の採用・既採用医薬品の整理並びに薬事全般に関わる事項を検討し、診療業務の向上と病院経営に寄与することを目的とする。

## ■ 2016年度の目標

診療に必要な患者さんのニーズに最適な医薬品を選定する。また、各科医師の協力を得て採用医薬品の見直しを行い、採用医薬品数の削減に努めるとともに、後発医薬品への切替を推進し、病院経営に貢献する。

## ■ 委員会の構成

委員：12名

(2016年3月現在、委員長・書記を含む)

### [内 訳]

- ・医師：6名
- ・薬剤師：1名
- ・看護師：1名
- ・事務局：3名
- ・書記：1名（薬剤師）

## ■ 年間活動内容と実績

2015年度開催日と審議内容

薬事委員会（11回開催）

	開催日	出席人数	出席率
第1回	2015年05月18日（月）	9名	75.0%
第2回	2015年05月18日（月）	6名	50.0%
第3回	2015年06月15日（月）	9名	75.0%
第4回	2015年07月13日（月）	10名	83.3%
第5回	2015年09月14日（月）	6名	50.0%
第6回	2015年10月13日（月）	7名	58.3%
第7回	2015年11月16日（月）	7名	58.3%
第8回	2015年12月14日（月）	9名	75.0%
第9回	2016年01月18日（月）	10名	83.3%
第10回	2016年02月15日（月）	10名	83.3%
第11回	2016年03月14日（月）	8名	66.7%

## ■ 審議内容

### (1) 2015年4月13日（金）「小会議室」

- 1)平成27年度第1期後発品選定を行う。
  - ・注射薬0品目 内服薬15品目 外用薬2品目

### (2) 2015年6月15日（金）「小会議室」

- 1)平成27年度第1期後発品選定を行う（追加分）。
  - ・注射薬0品目 内服薬2品目 外用薬0品目

### (3) 2015年7月13日（金）「小会議室」

- 1)平成27年度注射抗癌剤後発品選定を行う。
  - ・注射薬2品目 内服薬0品目 外用薬0品目

### (4) 2015年9月14日（金）「小会議室」

- 1)新規採用申請書・緊急購入申請書の書式変更する。
- 2)アブストラル舌下錠とイーフェンバツカル錠の評価アンケートの実施する。

### (5) 2015年11月16日（金）「小会議室」

- 1)平成27年度第2期後発品選定を行う。
  - ・注射薬0品目 内服薬2品目 外用薬0品目

### (6) 2015年12月14日（金）「小会議室」

- 1)平成27年度第3期後発品選定を行う。
  - ・注射薬0品目 内服薬7品目 外用薬2品目

### (7) 2016年1月18日（金）「小会議室」

- 1)インスリン製剤のバイオシミュラーへの変更を行う。
- 2)抗生剤（フルマリキット静注用）の採用見直しを行う。
- 3)平成27年度第4期後発品選定を行う。
  - ・注射薬1品目 内服薬8品目 外用薬6品目

### (8) 2016年2月15日（金）「小会議室」

- 1)入院持参薬の再利用の見直しを行う。
- 2)抗血栓薬の休業期間一覧表の改定を行う。

## ■ 年間活動実績

### (2015年度採用・削除薬総計)

申請77品目  
 院内採用 55品目 院外採用22品目  
 院内削除 51品目 院外削除 0品目

### (後発品への切替)

2015年4月より47薬剤を順次後発品に切替えた（DPC係数83%目標）。  
 注射薬3品目 内服薬34品目 外用薬10品目

## 目的と方針

DPC／クリニカルパス委員会は、DPC対象病院の要件である適切なコーディングを行う体制を確保するための委員会として設置され、医療の標準化と透明化を計り、医療サービスの質の向上およびクリニカルパスの効果的な運用と経営の改善を目的とする。

## 2016年度の目標

- (1) 院内電子クリニカルパスの見直し
- (2) クリニカルパス勉強会の開催
- (3) DPC請求における適切なコーディングの検証

## 委員会の構成

委員：27名

(2016年3月現在、委員長・書記を含む)

### [内 訳]

- ・医師：7名
- ・看護師：4名
- ・薬剤部：2名
- ・リハビリ部：2名
- ・放射線部：1名
- ・検査部：1名
- ・事務局：10名

## 年間活動内容と実績

2015年度開催日と審議内容

DPC／クリニカルパス委員会（9回開催）

	開催日	出席人数	出席率
第1回	2015年5月28日（木）	21人	77.8%
第2回	2015年6月24日（水）	20人	74.1%
第3回	2015年8月24日（月）	23人	85.2%
第4回	2015年10月30日（金）	25人	92.6%
第5回	2015年11月19日（木）	22人	81.5%
第6回	2015年12月17日（木）	25人	92.6%
第7回	2016年1月21日（木）	23人	85.2%
第8回	2016年2月18日（木）	21人	77.8%
第9回	2016年3月22日（火）	23人	85.2%

## 審議内容

- (1) 2015年5月28日（木）「大会議室」
  - ・DPC／クリニカルパス委員会規程（案）について
  - ・今年度活動について（クリニカルパス）
- (2) 2015年7月28日（水）「大会議室」
  - ・クリニカルパスグループメンバー構成について

- ・クリニカルパスに係る今後の計画について
  - ・クリニカルパスの見直しについて事例報告
- (3) 2015年8月24日（金）「講堂」
    - ・クリニカルパス教育セミナー受講報告について
    - ・クリニカルパスに係る活動の進捗状況について
    - ・その他
      - 収支改善を考慮したDPCパスの見直しについて
  - (4) 2015年10月30日（金）「講堂」
    - ・クリニカルパスに係る活動報告について
    - ・内科ポリペクパス検証について
    - ・DPCパスの見直しについて
  - (5) 2015年11月19日（木）「大会議室」
    - ・パス学会報告について
    - ・クリニカルパスに係る活動報告について
  - (6) 2015年12月17日（木）「大会議室」
    - ・適切なコーディングについて
    - ・クリニカルパスに係る活動報告について
    - ・その他
      - DPCコード別の出来高比プラス・マイナス症例一覧を提示
      - DPC請求に対するマイナス症例の割合について
      - DPCパスの見直しについて
  - (7) 2016年1月21日（木）「大会議室」
    - ・クリニカルパスに係る活動報告について
    - ・DPCパス見直し後の検証について
  - (8) 2016年2月18日（木）「大会議室」
    - ・DPCパス見直しの取り組みについて
    - ・クリニカルパスに係る活動報告について
    - ・退院時におけるクリニカルパスの終了について
  - (9) 2016年3月22日（火）「大会議室」
    - ・DPCについて
      - DPC制度の改訂について
      - DPC分析における症例検討
    - ・適切なコーディングについて
    - ・クリニカルパス作成に係る活動について

## 年間活動実績

### 【クリニカルパス作成に係る活動について】

事務局、ワーキンググループの設置  
適用中のままであったクリニカルパスの終了  
現在使用しているパスの集計・新規公開クリニカルパスの把握

## 【適切なコーディングについて】

事例	検証
12月 化学療法入院 (血液疾患)	「原発性マクログロブリン血症」 に対して血漿交換療法及びリツ キサンによるDRC療法を行っ た症例。 「多発性骨髄腫」に対してレブ ラミド投与・エンドキサン大量 投与による化学療法を行った症 例について検証を行った。
3月 肺炎に対する 加療	当院出来高比マイナスのトップ である肺炎をテーマに同じDPC コード・在院日数10日間の症 例について検証を行った。

## 【DPCパスの見直しについて】

8月	マイナス症例の改善・在院日数の設定を見直 し収入増を確保した症例
10月	周術期に抗生剤を使用した症例
12月	DPC入院期間を考慮したパスの作成による収 支改善について
1月	DPCパス作成後の検証について (胆嚢炎)
2月	前立腺の悪性腫瘍のDPCパス見直しについて
3月	ウイルス性腸炎疾患のDPCパスについて

## ■ 目的と方針

本委員会は、地域医療連携総合センターの円滑な運営を行なうために、各部門より報告を行い、情報を共有し連携を図ることで、地域医療の質の向上に貢献寄与することを目的とする。また、機能分担、専門性を明確にした他医療施設との連携強化を推進する。

## ■ 2016年度の目標

- (1) 広報誌の定期的発行（地域医療連携総合センターだよりの毎月発行）
- (2) 地域医療機関との連携強化
- (3) 退院調整部門とMSWが連携を図り、スムーズな退院・転院をサポートする。

## ■ 委員会の構成

委員：22名

(2016年3月現在、委員長含・書記を含む)

### [内 訳]

- ・医師： 9名
- ・看護師： 5名
- ・医療職： 3名
- ・事務局： 5名

## ■ 年間活動内容と実績

2015年度開催日と審議内容

地域医療連携総合センター運営委員会（6回開催）

	開催日	出席人数	出席率
第1回	2015年4月16日（木）	18名	90.0%
第2回	2015年6月18日（木）	17名	81.0%
第3回	2015年8月13日（木）	17名	81.0%
第4回	2015年10月15日（木）	19名	90.5%
第5回	2015年12月17日（木）	17名	81.0%
第6回	2016年3月25日（金）	19名	90.5%

## ■ 審議内容

- (1) 2015年4月16日（木）「大会議室」
  - ・委員会規程について
  - ・紹介率 逆紹介率報告
  - ・地域医療支援病院関係報告
  - ・転院状況 退院調整運用報告
  - ・今後の委員会報告について
  - ・地域医療連携室のセンター化となった影響等について

- (2) 2015年6月18日（木）「大会議室」

- ・紹介率 逆紹介率報告 地域医療支援病院関係報告
- ・転院状況 相談件数報告
- ・病床管理について報告
- ・退院調整実績についての報告
- ・入院案内 お薬相談からの現状報告

- (3) 2015年8月13日（木）「講堂」

- ・紹介率 逆紹介率報告 地域医療支援病院関係報告
- ・転院状況 相談件数報告
- ・地域医療連携総合センターの取り組みについて現状報告

- (4) 2015年10月15日（木）「大会議室」

- ・紹介率 逆紹介率報告 地域医療支援病院関係報告
- ・退院調整実績についての報告
- ・転院状況 施設入所等の動向 相談件数報告
- ・即入時の対応について

- (5) 2015年12月17日（木）「大会議室」

- ・紹介率 逆紹介率報告 地域医療支援病院関係報告
- ・退院調整実績についての報告
- ・転院状況 相談件数報告
- ・後方病院への転院について

- (6) 2016年3月25日（金）「大会議室」

- ・紹介率 逆紹介率報告 地域医療支援病院関係報告
- ・退院調整実績についての報告
- ・転院状況 相談件数報告
- ・病床管理より現状報告
- ・転院先のチェックシート見直しのお願について

## ■ 年間活動実績

- ・2015年6月より、毎週金曜日に地域連携総合センター内での打ち合わせを実施。
- ・平成28年2月25日（木）訪問看護ステーション及び介護施設の職員を対象HIV/AIDSケアセミナーがエイズ予防啓発活動の一環で実施した。

## ■ 目的と方針

H I V 運営委員会は、エイズ患者の診断的治療のケア実践及び近隣地域住民を対象にエイズ・性感染症に関する正しい知識の普及・啓発の推進を図ることを目的とする。

## ■ 2016年度の目標

エイズ・性感染症の予防・啓発に関する支援、情報収集・発信及び職員の教育を行う。また、エイズ患者における診療体制を整備し、必要な事案を実施する。

## ■ 委員会の構成

委員：15名

(2016年3月現在、委員長・書記を含む)

### 【内 訳】

- ・医師：4名
- ・薬剤師：1名
- ・看護師：2名
- ・臨床検査技師：1名
- ・理学療法士：1名
- ・心理判定員：1名
- ・M S W：1名
- ・事務局：4名

## ■ 年間活動内容と実績

2015年度開催日と審議内容

H I V 運営委員会（4回開催）

	開催日	出席人数	出席率
第1回	2015年5月14日(木)	14名	87.5%
第2回	2015年9月7日(月)	14名	87.5%
第3回	2015年10月7日(水)	12名	75.0%
第4回	2015年11月20日(金)	13名	81.3%

## ■ 審議内容

### (1) 2015年5月14日(木)「中会議室」

- ・27年度委員会規程について
- ・エイズ治療中核拠点対策推進事業26年度決算報告・27年度計画
- ・第9回道東地区エイズ拠点病院等連絡協議会・研修会について

### (2) 2015年9月7日(月)「講堂」

- ・「くしろ健康まつり2015」について

### (3) 2015年10月7日(水)「小会議室」

- ・「くしろ健康まつり2015」について（釧路市・釧路保健所合同会議）

### (4) 2015年11月20日(金)「小会議室」

- ・「第12回師走講演会」について

## ■ 年間活動実績

### 6月 第9回道東地区エイズ拠点病院等連絡協議会

日時：平成27年6月20日(土)

①協議会：15：00～16：00

②研修会：16：00～17：00

講師：国立病院機構 大阪医療センター MSW 岡本 学氏

演題：H I V陽性者の心理・社会的問題とわたしたちにできること

### 10月 くしろ健康まつり 2015

日時：平成27年10月18日(日)

①集合：8：30

②開始：9：00～15：00

### 11月 第12回 師走講演会

日時：平成27年11月28日(土)

①集合準備：13：00（開場：16：30）

②開始：17：00～19：00

講師：(1)日本赤十字社中東・北アフリカ地域代表 (兼任)国際赤十字連盟中東・北アフリカ地域緊急&クライシス担当

(2)イルファー代表理事・理事長

演題：(1)ケニアでの日本赤十字としての活動・成果・夢

(2)ケニアでの15年にわたる医療活動とH I V / A I D S の現状について

## 目的と方針

本委員会は、医事業務の運用にあたって、医療、看護、事務等各部門の調整と問題点の改善を図ることを目的とする。

- 大型連休（GW）の患者確保対策について
- 周術期口腔ケアの院内周知について
- その他

## 2016年度の目標

- (1) 医事関連業務の実施、現状分析と不完全事項の確認
- (2) 解決策と実施計画の決定
- (3) 実施効果の測定
- (4) 運営上の調整
- (5) 査定減対策
- (6) その他医事業務に関して

- (2) 2015年5月22日（金）「大会議室」
  - 査定減報告について
  - その他

- (3) 2015年6月26日（金）
  - 査定減報告について
  - A S O 価について
  - その他

- (4) 2015年7月24日（金）「大会議室」
  - 査定減報告について
  - その他

- (5) 2015年8月28日（金）「大会議室」
  - 査定減報告について
  - その他

- (6) 2015年9月25日（金）「大会議室」
  - 査定減報告について
  - その他

- (7) 2015年10月23日（金）「中会議室」
  - 査定減報告について
  - その他

- (8) 2015年11月27日（金）「大会議室」
  - 査定減報告について
  - その他

- (9) 2015年12月25日（金）「大会議室」
  - 査定減報告について
  - 年末年始の患者確保について
  - その他

- (10) 2016年1月29日（金）「大会議室」
  - 査定減報告について
  - その他

- (11) 2016年2月26日（金）「大会議室」
  - 査定減報告について
  - その他

## 委員会の構成

委員：30名

(2016年3月現在、委員長・書記を含む)

### [内 訳]

- 医師：15名
- 看護師：3名
- 医療職：5名
- 事務局：7名

## 年間活動内容と実績

2015年度開催日と審議内容

診療医事業務／査定減対策委員会（12回開催）

	開催日	出席人数	出席率
第1回	2015年4月24日(金)	17名	56.7%
第2回	2015年5月22日(金)	15名	50.0%
第3回	2015年6月26日(金)	23名	76.7%
第4回	2015年7月24日(金)	22名	73.3%
第5回	2015年8月28日(金)	23名	76.7%
第6回	2015年9月25日(金)	22名	73.3%
第7回	2015年10月23日(金)	24名	80.0%
第8回	2015年11月27日(金)	22名	73.3%
第9回	2015年12月25日(金)	20名	66.7%
第10回	2016年1月29日(金)	22名	73.3%
第11回	2016年2月26日(金)	23名	76.7%
第12回	2016年3月25日(金)	23名	76.7%

## 審議内容

- (1) 2015年4月24日（金）「大会議室」
  - 診療医事業務/査定減対策委員会規程（案）について
  - 査定減報告について

(12) 2016年3月25日(金)「講堂」

- 査定減報告について
- その他

## ■ 目的と方針

院内の情報セキュリティを維持するために必要な手続きや組織内でのマネジメントを構築して、個人情報を適切に保護する。

## ■ 2016年度の目標

(1) 個人情報の適切な保護及び管理体制の構築。

## ■ 委員会の構成

委員：20名

(2016年3月現在、委員長・書記を含む)

### [内 訳]

- ・医師：7名
- ・看護師：3名
- ・薬剤部：1名
- ・リハビリ部：1名
- ・放射線部：1名
- ・検査部：1名
- ・事務局：5名

## ■ 年間活動内容と実績

2015年度開催日と審議内容

個人情報管理委員会（3回開催）

	開催日	出席人数	出席率
第1回	2015年4月10日(金)	16名	80.0%
第2回	2015年6月12日(金)	16名	80.0%
第3回	2016年3月11日(金)	18名	90.0%

## ■ 審議内容

- (1) 2015年4月10日(金)「大会議室」
  - ・平成27年度個人情報保護管理体制について
  - ・個人情報管理者の業務について
- (2) 2015年6月12日(金)「大会議室」
  - ・平成27年度個人情報保護管理体制について
- (3) 2016年3月11日(金)「大会議室」
  - ・マイナンバーの取得について

# 医療安全推進委員会

委員長 小笠原 和 宏

## ■ 目的と方針

当院における医療事故を防止し、安全かつ適切な医療の提供体制を確立するために必要な事項を定めることを目的とする。

## ■ 2016年度の目標

医療事故を防止し、安全かつ適切な医療の提供体制を確立する。特に、浸襲的処置・検査における安全対策の実施定着化、緊急時の対応ができる職員育成を目指す。また、0レポート報告書提出の徹底を目指す。

## ■ 委員会の構成

委員：15名

(2016年3月現在、委員長・書記を含む)

### 【内 訳】

- 医師：3名
- 看護職：3名
- 医療職：6名
- 事務局：3名

## ■ 年間活動内容と実績

2015年度開催日と審議内容

医療安全推進委員会 (12回開催)

	開催日	出席人数	出席率
第1回	2015年04月15日(水)	12人	80.0%
第2回	2015年05月20日(水)	13人	87.0%
第3回	2015年06月17日(水)	13人	87.0%
第4回	2015年07月15日(水)	12人	80.0%
第5回	2015年08月19日(水)	13人	87.0%
第6回	2015年09月16日(水)	14人	94.0%
第7回	2015年10月20日(水)	11人	74.0%
第8回	2015年11月18日(水)	14人	94.0%
第9回	2015年12月16日(水)	14人	94.0%
第10回	2016年01月20日(水)	12人	80.0%
第11回	2016年02月17日(水)	12人	80.0%
第12回	2016年03月16日(水)	15人	100.0%

## ■ 審議内容

### (1) 2015年4月15日(水)「大会議室」

- 委員会規程見直し
- 委員会・部会等の年間計画について
- インシデント・アクシデント報告

### (2) 2015年5月20日(水)「大会議室」

- インシデント・アクシデント報告

### (3) 2015年6月17日(水)「大会議室」

- インシデント・アクシデント報告
- 医療安全チェックシート未達成項目の改善計画
- 医療安全対策マニュアル改定(向精神薬)

### (4) 2015年7月15日(水)「大会議室」

- インシデント・アクシデント報告
- MR I実施の体内金属における患者用リーフレット作成
- 医療安全対策マニュアル改定(実習生のアクシデント対応)

### (5) 2015年8月14日(水)「大会議室」

- インシデント・アクシデント報告
- 医療に係る安全管理のための指針(改訂)
- 携帯型(ポケットサイズ)医療安全対策マニュアルを作成

### (6) 2015年9月16日(水)「大会議室」

- インシデント・アクシデント報告

### (7) 2015年10月20日(水)「大会議室」

- インシデント・アクシデント報告
- 労災病院間医療安全相互チェックについて
- 平成27年医療安全週間企画について
- ハラスメントマニュアル(改訂)
- 医療事故調査制度について

### (8) 2015年11月18日(水)「大会議室」

- インシデント・アクシデント報告
- CT用造影剤使用に関する説明・同意書(一部改定)
- CT用造影剤使用に関する問診票(一部修正)

### (9) 2015年12月16日(水)「大会議室」

- インシデント・アクシデント報告
- 労災病院間医療安全相互チェックについて(実施報告)
- 平成27年医療安全週間企画について(実施報告)
- アレルギー対応マニュアル・問診票・告知書(一部改定・修正)

### (10) 2016年1月20日(水)「大会議室」

- インシデント・アクシデント報告

- ・平成28年度委員会規程見直しについて

(11) 2016年2月17日(水)「大会議室」

- ・インシデント・アクシデント報告
- ・釧路保健所立入検査について(実施報告)

(12) 2016年3月16日(水)「大会議室」

- ・インシデント・アクシデント報告
- ・平成27年度医療安全確保のための改善計画(評価)

■ 年間活動実績

【インシデント・アクシデント報告件数】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計
0	61	59	56	76	56	55	45	56	66	48	47	54	679
1	65	103	90	84	102	66	93	81	83	76	83	62	988
2	36	35	27	34	43	29	35	30	30	26	31	34	390
3a	9	4	11	18	17	9	7	5	8	8	4	9	109
3b	2	0	4	1	2	1	2	2	4	1	1	2	22
4	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
5	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	2
合計	173	201	188	213	220	161	182	174	193	159	166	161	2,191

【医療安全対策研修会開催状況】

	開催日	テーマ	出席人数
第1回	2015年6月26日(金)	誰の責任かではなく誰が防止できるか	240人
第2回	2015年11月16日(月)	医療事故の初期対応	262人
第3回	2016年01月28日(木)	医療ガス・医療用麻薬の取扱いについて	84人

# 医療情報システム委員会

委員長 小笠原 和 宏

## ■ 目的と方針

本委員会は、電子カルテシステムを中核として各部門との連携を図り、情報の相互利用・共有化を実施するため、その取扱い及び管理に関し必要な事項を審議し、当院において診療情報を適正に管理・利用することを目的とする。

## ■ 2016年度の目標

- (1) 業務の効率化を図るため、ダイナミックテンプレートを推奨していく。
- (2) 病院運営の重要なツールとして適切かつ高度な活用に努めていく。

## ■ 委員会の構成

委員：31名

(2016年3月現在、委員長・書記を含む)

### [内 訳]

- ・医師：9名
- ・薬剤師：2名
- ・看護師：6名
- ・医療職：6名
- ・事務局：8名

## ■ 年間活動内容と実績

2015年度開催日と審議内容

診療情報システム委員会（12回開催）

	開催日	出席人数	出席率
第1回	2015年4月28日(火)	23名	74.2%
第2回	2015年5月26日(火)	26名	83.9%
第3回	2015年6月30日(火)	26名	83.9%
第4回	2015年7月28日(火)	25名	80.6%
第5回	2015年8月25日(火)	22名	71.0%
第6回	2015年9月29日(火)	27名	87.1%
第7回	2015年10月27日(火)	23名	74.2%
第8回	2015年11月24日(火)	20名	64.5%
第9回	2015年12月22日(火)	21名	67.7%
第10回	2016年1月26日(火)	21名	67.7%
第11回	2016年2月23日(火)	24名	77.4%
第12回	2016年3月22日(火)	25名	80.6%

## ■ 審議内容

### (1) 2015年4月28日(火)「大会議室」

- ・病理関係文書のスキャン取扱いについて
- ・ナビゲーションシステムのデータの持ち運びについて

- ・電子カルテ端末の増設及び移設について
- ・IDの発行と管理について
- ・医師のコメントツールについて

### (2) 2015年5月15日(火)「大会議室」

- ・医療情報システム利用申請書について
- ・未使用の非表示タブの利用について
- ・疑義問合せの文字数の表示について
- ・シェーマに関する要望について
- ・依頼済みスキャンの削除について
- ・システム上での、ケースワーカーへの依頼方法について

### (3) 2015年6月30日(火)「大会議室」

- ・電子カルテシステム余剰端末調査の報告について
- ・内科外来への電子カルテ端末増設について
- ・デスクトップへのマニュアル表示について
- ・他科でオーダーした修正・削除について

### (4) 2015年7月28日(火)「大会議室」

- ・クリニカルパス適応患者の入院診療計画書の取り扱いについて
- ・CT、MRIの造影剤同意書の取り忘れ防止について
- ・入院サマリについて

### (5) 2015年8月25日(火)「大会議室」

- ・転科時「転科もとの診療科の必要指示」の削除について
- ・電子カルテ動作不具合時の対応について

### (6) 2015年9月29日(火)「大会議室」

- ・生理検査システムの仕様変更依頼について
- ・システム関連周知文書の管理について

### (7) 2015年10月27日(火)「大会議室」

- ・アレルギーの表示について

### (8) 2015年11月24日(火)「大会議室」

- ・インターネット回線調査について
- ・服薬指導実施時における電子カルテシステムへの日付けと時刻表示について

(9) 2015年12月22日 (火) 「大会議室」

- 病理診断の診療支援体制に伴うシステム導入について
- 患者基本アイコンの表示について

(10) 2016年1月26日 (火) 「大会議室」

- 病理診断診療体制の変更に伴うシステムの取り扱いについて
- 体内金属のアイコン表示について
- T O D O ボタンの点滅について
- パス適応患者の退院について
- 治験業者への I D 付与について

(11) 2016年2月23日 (火) 「大会議室」

- 来年度の委員会体制について
- I T 要員について
- パワーポイントのマスター追加について

(12) 2016年3月22日 (火) 「大会議室」

- 「重症度、医療・看護必要度」の帳票について
- 看護診断定義参照機能の設定について

## ■ 年間活動実績

医療情報システム委員会は、より効率的かつ安全に業務を遂行するため毎月1回開催した。また平成28年度の診療改定に向けた準備及び改修を実施した。

- C T ・ M R I 造影オーダー時に、同意書の画面が自動的に展開できるようにする改修を実施
- 余剰端末調査を行い、端末等の有効利用を図る
- 医療情報システム利用申請書を作成
- 疑義登録画面上で最大文字入力数が把握できるように改修実施
- 転科時に転科もとの必要時指示を自動的に削除させる改修実施
- セキュリティーの観点からインターネット回線を2回線から1回線に改修実施
- アレルギーの表示について改修実施
- 服薬指導実施時における電子カルテ上に明記させる改修実施
- オーダの中止指示が、次回入院に反映されないように改修実施

2015年度 承認事項 27項目

# 機器等整備委員会

委員長 小笠原 和 宏

## ■ 目的と方針

機器等整備計画の作成及び購入する機種の適正な選定に資することを目的とした病院長の諮問機関とする。

## ■ 2016年度の目標

1. 人工透析装置、ガンマカメラの高額機器をリースで購入予定。
2. 純音聴力検査装置、輸液ポンプ等31点、総額約130,000千円の機器を、今年度の収支状況により購入予定

## ■ 委員会の構成

委員：22名

(2016年3月現在、委員長・書記含む)

### [内 訳]

- 医師：10名
- 医療職：5名
- 看護師：2名
- 事務局：5名

## ■ 年間活動内容と実績

2015年度開催日と協議内容

機器等整備委員会（3回開催）

	開催日	出席人数	出席率
第1回	2015年6月24日(水)	18名	81.8%
第2回	2015年11月12日(木)	18名	81.8%
第3回	2016年3月8日(火)	17名	77.3%

## ■ 2015年度導入機器一覧表

No.	品名・規格	数量	メーカー名	導入月
1	カセット式卓上型高圧蒸気滅菌装置	1台	フィード(株)	7月
2	膀胱尿道鏡	1本	エム・シーメディカル社	7月
3	清拭車	1台	(株)タカゾノ	7月
4	光干渉断層計	1式	(株)ニデック	7月
5	超音波手術器ハンドピース	2式	日本ストライカー(株)	7月
6	高周波電気手術装置	1式	(株)アムコ	8月
7	汎用超音波画像診断装置	1式	GEヘルスジャパン	9月
8	医用テレメータ	1式	日本光電(株)	10月
9	手すり付体重計	4台	(株)エーアンド・デイ	10月
10	手術顕微鏡システム	1式	ライカ・マイクロシステム(株)	10月
11	超音波診断装置	1式	東芝メディカルシステムズ(株)	11月
12	リクライニングシャワーキャリア	1台	(株)陸三	12月
13	ベットパンウオッシャー	2式	(株)モレーンコーポレーション	12月
14	ユニバーサル冷却遠心機	1式	久保田商事(株)	1月
15	採尿蓄量測定装置	2式	フクダ電子(株)	3月
16	T C I ポンプ	2台	テルモ(株)	3月
17	統合脅威管理機器 (UTM)	1式	フォーティネットジャパン(株)	3月

## ■ 協議内容

### (1) 2015年6月24日(水)「大会議室」

- 平成28年度機器等整備計画説明書の提出要領について
- 平成27年度機器等整備計画、計画外機械備品の整備について

### (2) 2015年11月12日(木)「大会議室」

- 平成28年度機器等整備計画予算枠等について
- 平成28年度機器等整備計画の選定方針について
- 平成27年度機器等整備計画、計画外機械備品の整備について

### (3) 2016年3月8日(火)「大会議室」

- 平成28年度機器等整備予算報告
- 平成28年度機種選定委員会の設置について
- 平成27年度機器等整備計画、計画外機械備品の整備について

## ■ 年間活動実績

- 平成27年度機器等整備
- 平成27年度機器等整備計画リース
- 平成27年度機器等整備計画
- 平成27年度機器等整備計画外機器
- 平成27年度機器等整備計画取りやめリース

## ■ 目的と方針

本委員会は、救急診療の運営にあたって、医療、看護、事務等各部門の調整と問題点の改善を図ることを目的としている。

## ■ 2016年度の目標

- (1) 救急診療関連業務の実施、現状分析と問題点の改善
- (2) 救急診療ガイドライン、要綱等の策定
- (3) 宿日直業務の実施
- (4) 運営上の調整
- (5) その他救急診療業務

## (3) 2015年10月13日 (火) 「大会議室」

- 救急診療ガイドライン改訂 (案) について
- 宿日直業務打合せ報告について
- 平成27年度救急診療実績報告 (第2四半期)
- 救急患者の受入れが出来なかった実績報告

## (4) 2016年1月28日 (木) 「大会議室」

- 宿日直業務打合せ報告について
- 平成27年度救急診療実績報告 (第3四半期)
- 救急患者の受入れが出来なかった実績報告

## ■ 委員会の構成

委員：19名

(2016年3月現在、委員長・書記を含む)

### [内 訳]

- 医師：8名
- 看護師：3名
- 医療職：4名
- 事務局：4名

## ■ 年間活動内容と実績

2015年度開催日と審議内容

救急運営委員会開催日 (4回開催)

	開催日	出席人数	出席率
第1回	2015年4月10日(金)	15名	78.9%
第2回	2015年7月10日(金)	13名	68.4%
第3回	2015年10月13日(火)	15名	78.9%
第4回	2016年1月28日(木)	16名	84.2%

## ■ 審議内容

### (1) 2015年4月10日 (金) 「講堂」

- 救急診療運営委員会規程 (案) について
- 診療科別ガイドライン対応基準について
- 宿日直業務打合せ報告について
- 平成26年度救急診療実績報告 (第4四半期)

### (2) 2015年7月8日 (金) 「大会議室」

- 救急診療ガイドライン改訂 (案) について
- 宿日直業務打合せ報告について
- 平成27年度救急診療実績報告 (第1四半期)

# 緩和医療委員会

委員長 小笠原 和 宏

## ■ 目的と方針

本委員会は、がん診療および緩和医療の実施にあたり、予防・診断・手術療法・化学療法・放射線療法・免疫療法を効果的に組み合わせた集学的治療および終末期医療の様々な段階に対して、専門的立場から適切な医療を提供する体制を整備し、医療の質の向上を図ることを目的とする。

## ■ 2016年度の目標

- (1) 院内向けの講演会やおしかけ勉強会を通して、職員への緩和ケアの質的向上のための教育を行う。
- (2) 患者がんサロンの運営、患者会への協力、ホスピス緩和ケア週間の企画・開催を通して、地域の人々と連携しながら質の高いケアの提供及び緩和ケアについて周知を目指す。
- (3) 緩和ケアマニュアルの修正、スクリーニングシート・地域連携パスの作成などツールを整備する。
- (4) 平成28年度緩和ケア研修会を企画・開催する。

## ■ 委員会の構成

委員：23名

(2016年3月現在、委員長・書記を含む)

### [内 訳]

- ・医師：8名
- ・看護師：6名
- ・医療職：3名
- ・事務局：6名

## ■ 年間活動内容と実績

2015年度開催日と審議内容

緩和研修委員会（12回開催）

	開催日	出席人数	出席率
第1回	2015年4月9日(木)	19名	82.6%
第2回	2015年5月14日(木)	18名	78.3%
第3回	2015年6月11日(木)	20名	87.0%
第4回	2015年7月9日(木)	20名	87.0%
第5回	2015年8月13日(木)	19名	82.6%
第6回	2015年9月10日(木)	20名	87.0%
第7回	2015年10月15日(木)	19名	82.6%
第8回	2015年11月12日(木)	19名	82.6%
第9回	2015年12月10日(木)	17名	73.9%
第10回	2016年1月21日(木)	18名	78.3%
第11回	2016年2月18日(木)	19名	82.6%
第12回	2016年3月10日(木)	18名	78.3%

## ■ 審議内容

### (1) 2015年4月9日(木)「大会議室」

- ・H27年度委員会規程について
- ・緩和ケアチーム・緩和ケア病床の活動報告について(3月)
- ・緩和ケアリンクナース部会の活動報告について
- ・平成26年度緩和WG活動報告について(教育研修・地域連携・ツール整備)
- ・平成27年度WG活動等について
- ・緩和ケア研修会(H27)開催に係る準備等について

### (2) 2015年5月14日(木)「大会議室」

- ・緩和ケアチーム・緩和ケア病床の活動報告について(4月)
- ・緩和ケアリンクナース部会の活動報告について
- ・平成27年度緩和WG活動報告について(教育研修・地域連携・ツール整備)
- ・緩和ケア研修会(H27)開催に係る準備等について

### (3) 2015年6月11日(木)「大会議室」

- ・緩和ケアチーム・緩和ケア病床の活動報告について(5月)
- ・緩和ケアリンクナース部会の活動報告について
- ・平成27年度緩和WG活動報告について(教育研修・地域連携・ツール整備)
- ・病院機能評価の「ターミナルケアへの対応」の項目についての検討事項
- ・緩和ケア研修会(H27)開催に係る準備等について

### (4) 2015年7月9日(木)「大会議室」

- ・緩和ケアチーム・緩和ケア病床の活動報告について(6月)
- ・緩和ケアリンクナース部会の活動報告について
- ・平成27年度緩和WG活動報告について(教育研修・地域連携・ツール整備)
- ・緩和ケア研修会(H27)開催に係る準備等について
- ・NSTセミナーへの講師依頼について

### (5) 2015年8月13日(木)「大会議室」

- ・緩和ケアチーム・緩和ケア病床の活動報告につ

- いて（7月）
- ・緩和ケアリンクナース部会の活動報告について
- ・平成27年度緩和WG活動報告について(教育研修・地域連携・ツール整備)
- ・緩和ケア研修会（H27）開催に係る準備等について
- ・平成27年度ホスピス緩和ケア週間と乳がん啓発活動について
- ・皮下輸液マニュアルについて

**(6) 2015年9月10日（木）「大会議室」**

- ・緩和ケアチーム・緩和ケア病床の活動報告について（8月）
- ・緩和ケアリンクナース部会の活動報告について
- ・平成27年度緩和WG活動報告について(教育研修・地域連携・ツール整備)
- ・平成27年度乳がん啓発活動について
- ・病院機能評価に関する必須要件についての検討事項

**(7) 2015年10月15日（木）「大会議室」**

- ・緩和ケアチーム・緩和ケア病床の活動報告について（9月）
- ・緩和ケアリンクナース部会の活動報告について
- ・平成27年度緩和WG活動報告について(教育研修・地域連携・ツール整備)
- ・平成27年度乳がん啓発活動について
- ・疼痛治療剤の新規採用薬剤について

**(8) 2015年11月12日（木）「大会議室」**

- ・緩和ケアチーム・緩和ケア病床の活動報告について（10月）
- ・緩和ケアリンクナース部会の活動報告について
- ・平成27年度緩和WG活動報告について(教育研

- 修・地域連携・ツール整備)
- ・平成27年度ホスピス緩和ケア週間と乳がん啓発活動について

**(9) 2015年12月10日（木）「大会議室」**

- ・緩和ケアチーム・緩和ケア病床の活動報告について（11月）
- ・緩和ケアリンクナース部会の活動報告について
- ・平成27年度緩和WG活動報告について(教育研修・地域連携・ツール整備)
- ・平成27年度ホスピス緩和ケア週間について

**(10) 2016年1月21日（木）「小会議室」**

- ・緩和ケアチーム・緩和ケア病床の活動報告について（12月）
- ・緩和ケアリンクナース部会の活動報告について
- ・平成27年度緩和WG活動報告について(教育研修・地域連携・ツール整備)
- ・皮下輸液マニュアルについて

**(11) 2016年2月18日（木）「大会議室」**

- ・緩和ケアチーム・緩和ケア病床の活動報告について（1月）
- ・緩和ケアリンクナース部会の活動報告について
- ・平成27年度緩和WG活動報告について(教育研修・地域連携・ツール整備)

**(12) 2016年3月10日（木）「大会議室」**

- ・緩和ケアチーム・緩和ケア病床の活動報告について（2月）
- ・緩和ケアリンクナース部会の活動報告について
- ・平成27年度緩和WG活動報告について(教育研修・地域連携・ツール整備)

**年間活動実績**

●緩和ケアチームの活動実績

①緩和ケア外来患者数 (人)

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
4	4	5	4	4	4	4	4	4	3	2	4	46

②入院患者に対するチームでの介入件数 (件)

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
4	5	6	3	3	3	3	2	1	4	3	4	41

## ③緩和ケア病床患者数

(人)

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
2	2	1	2	3	3	2	3	4	3	1	2	28

## ●がんサロンの活動実績

開催日	学習会内容	参加人数
2015年4月15日(水)	地域で安心して生活するための退院支援	7名
2015年5月18日(月)	がん治療を助ける口腔ケア	6名
2015年6月16日(火)	緩和ケアについて	9名
2015年7月15日(水)	つらい症状への薬剤対処	7名
2015年8月5日(水)	痛みとの上手な付き合い方	9名
2015年9月15日(火)	気持ちのつらさとセルフケア	8名
2015年10月19日(月)	体調に応じた食事の方法	7名
2015年11月18日(水)	がん化学療法の副作用とセルフケア	8名
2015年12月22日(火)	家でもできるリハビリテーション	9名
2016年1月20日(水)	社会制度とがん相談	6名
2016年2月22日(月)	放射線療法におけるセルフケア	8名
2016年3月22日(火)	医療者とのコミュニケーション	13名

## ・講演会の活動実績

## ①平成27年度緩和ケア研修会

開催日：平成27年8月22日（土）～23日（日）

研修内容：がん診療に携わる医師に対する「緩和ケア研修会」

## ②緩和ケア市民公開講座

開催日：平成27年11月15日（日）

テーマ：「緩和ケアとは」

「在宅緩和ケアの実際—自分の生き方を考える」

## ■ 目的と方針

病院内の受動喫煙防止を目的とする。

## ■ 2016年度の目標

- (1) 禁煙啓発活動（禁煙講演会の実施、禁煙標語の掲示）
- (2) 院内の喫煙問題の把握（喫煙問題報告書）

## ■ 委員会の構成

委員：8名

（2016年3月現在、委員長・書記を含む）

### [内 訳]

- ・医師：2名
- ・看護師：1名
- ・医療職：2名
- ・事務局：3名

## ■ 年間活動内容と実績

2015年度開催日と審議内容  
禁煙実行委員会（3回開催）

	開催日	出席人数	出席率
第1回	2015年5月22日(金)	8名	100.0%
第2回	2015年8月21日(金)	7名	87.5%
第3回	2015年12月18日(金)	8名	100.0%

## ■ 審議内容

### (1) 2015年5月22日(金)「小会議室」

- ・委員会規程検討
- ・喫煙者対応マニュアル検討
- ・駐車上車内での喫煙対策の検討
- ・禁煙ポスターについて
- ・禁煙標語について

### (2) 2015年8月21日(金)「小会議室」

- ・喫煙問題報告書報告（4～7月実績）
- ・喫煙実態調査について
- ・禁煙標語について
- ・駐車上車内での喫煙対策の検討

### (3) 2015年12月18日(金)「大会議室」

- ・喫煙問題報告書報告（8月～11月実績）
- ・喫煙実態調査結果報告
- ・禁煙ビラ配布結果報告

## ■ 年間活動実績

- ・禁煙ポスターの作成及びエレベーター、玄関、駐輪場への掲示（5月）
- ・喫煙者対応マニュアルの作成（5月）
- ・禁煙標語の掲示（6月より毎月更新）
- ・喫煙実態調査の実施（9月）
- ・車内で喫煙している患者への禁煙ビラの配布（9月）
- ・院内での喫煙問題件数は以下の通り

月	喫煙問題報告書	禁煙誓約書	(強制)退院
4～7月	1件	1件	0件
8～11月	3件	1件	2件
12～3月	0件	0件	0件

# がん診療連携拠点病院運営委員会

委員長 小笠原 和 宏

## ■ 目的と方針

がん診療連携拠点病院として、がん診療の質の向上及びがん診療の連携協力体制を構築すること。

- ・指定要件の確認
- ・ホームページの掲載について
- ・相談支援センターについて
- ・北海道がん診療連携協議会の報告について

## ■ 2016年度の目標

がん診療連携拠点病院の指定要件を満たすように、定期的に現状を確認し、がん診療体制の充実にむけて、全職員で指定要件を意識し、満たすことができるように促していく。また、連携協力体制を強化できるように指定要件の内容について見直しを図っていく。

- (3) 2015年9月9日(金)「小会議室」
- ・指定要件の確認
  - ・がん登録2014年症例データ提出完了の報告
  - ・乳がんの啓発活動について
  - ・がん患者指導管理料について

## ■ 委員会の構成

委員：21名

(2016年3月現在、委員長・書記を含む)

### [内 訳]

- ・医師：4名
- ・看護師：5名
- ・薬剤部：1名
- ・リハビリ部：1名
- ・事務局：10名

### (4) 2015年11月24日(火)「小会議室」

- ・指定要件の進捗状況確認
- ・スクリーニングシート
- ・地域連携パス
- ・がん患者指導管理料について

## ■ 年間活動内容と実績

2015年度開催日と審議内容

がん診療連携拠点病院運営委員会(6回開催)

	開催日	出席人数	出席率
第1回	2015年5月21日(木)	16名	76.1%
第2回	2015年7月28日(火)	16名	76.1%
第3回	2015年9月30日(水)	17名	80.9%
第4回	2015年11月24日(火)	17名	80.9%
第5回	2016年2月2日(火)	19名	90.4%
第6回	2016年3月24日(木)	20名	95.2%

### (5) 2016年2月2日(火)「小会議室」

- ・指定要件の進捗状況確認
- ・スクリーニングシート
- ・地域連携パス
- ・がん患者指導管理料について

### (6) 2016年3月24日(木)「小会議室」

- ・指定要件の進捗状況確認
- ・スクリーニングシート
- ・地域連携パス
- ・2次医療圏医師・医療者向け研修会
- ・合同カンファレンス(兼がん登録委員会)

## ■ 審議内容

### (1) 2015年5月21日(木)「小会議室」

- ・がん診療連携拠点病院運営委員会規程(案)について
- ・指定要件の確認
- ・年間スケジュールの作成について
- ・メンバーの構成について
- ・地域がん診療連携拠点病院の指定

### (2) 2015年7月28日(火)「小会議室」

- ・年間スケジュールの報告について
- ・地域連携パス
- ・スクリーニングシート

## ■ 年間活動実績

- ・指定病院の認定後も指定要件を確認
- ・指定要件の一環として、がんに関する研修会や活動に参加
- ・がん登録委員会の開催

● キャンサーボード（8回開催）

	開催日	症例検討内容	出席人数	場所
第1回	2015年6月3日(水)	外陰部有棘細胞癌の一例	50	3階大会議室
第2回	2015年7月1日(水)	S状結腸がん脳転移の一例	39	3階大会議室
第3回	2015年9月2日(水)	外陰部有棘細胞癌の病理所見とキャンサーボード後の経過 今までの各検討症例の概要とキャンサーボード後の経過	35	3階大会議室
第4回	2015年10月7日(水)	糞瘻の一例	34	3階大会議室
第5回	2015年11月4日(水)	全身多発転移をきたした若年肺がん一例	27	3階大会議室
第6回	2016年1月6日(水)	直腸癌膀胱浸潤の一例	42	3階大会議室
第7回	2016年2月3日(水)	多発肝転移を伴う直腸がんの一例	35	3階大会議室
第8回	2016年3月2日(水)	インフルエンザ肺炎と重複感染は疑われ集学的治療が なされたが奏効しなかった剖検例（CPCと合同）	51	3階大会議室

# 診療材料等検討委員会

委員長 小林 清二

## 目的と方針

診療材料等の適正な管理と効率的な購入を図ることを目的とした病院長の諮問機関とする。

## 2016年度の目標

各診療科の協力を得て採用診療材料の見直しを行い、診療の質を下げることなく診療材料費用等の削減に努め、病院経営に貢献する。

## 委員会の構成

委員：22名

(2016年3月現在、委員長・書記を含む)

### 【内 訳】

- ・医師：11名
- ・看護師：4名
- ・臨床検査技師：1名
- ・臨床放射線技師：1名
- ・臨床工学技士：1名
- ・事務局：4名

## 年間活動内容と実績

2015年度開催日と審議内容

診療材料等検討委員会（8回開催）

	開催日	出席人数	出席率
第1回	2015年4月2日(木)	18	81.8%
第2回	2015年5月7日(木)	15	68.2%
第3回	2015年7月2日(木)	20	90.9%
第4回	2015年8月6日(木)	19	86.4%
第5回	2015年10月1日(木)	20	90.9%
第6回	2015年11月5日(木)	17	77.3%
第7回	2016年1月7日(木)	16	72.7%
第8回	2016年2月4日(木)	18	81.8%

## 審議内容

- ・コスト削減についての提案について
- ・サンプルの調査結果の報告について
- ・値下げ品の報告について
- ・「アンブ蘇生バック」の販売中止と後継品の採用について
- ・紙おむつの導入について

## 年間活動実績

・医療材料費年間削減額2,734,716円

No.	切替品名	年間見込み効果	備考
1	TEDサージカルハイソックス L	▲ 2,100	切替
2	延長チューブ 各サイズ	▲ 273,072	切替
3	延長チューブ付三方活栓 ロック	▲ 152,376	切替
4	三方活栓 R型 360°ロックコネクター	▲ 239,976	切替
5	マイスコPVCグローブ パウダー付 L	▲ 230	切替
6	エコプロローブカバーII	▲ 35,046	値下げ
7	シブコ プロローブカバー	▲ 6,020	値下げ
8	テルフュージョン通気針	▲ 8,758	切替
9	ライドプラス 1ml 25本入	▲ 26,244	値下げ
10	バックチェックバルブ 逆流防止弁	▲ 41,499	切替
11	スーパーラテックスグローブ 各サイズ	▲ 57,540	切替
12	エアウオール ふわり No.5020	▲ 481,876	切替
13	J-VAC レザーバー・ドレイン	▲ 174,960	値下げ
14	ディスプレイブルマウスピース	▲ 174,960	切替
15	ロールシートKR グリーン	▲ 145,410	切替
16	エラストン 角サイズ	▲ 153,858	切替
17	エキステンションチューブ 各サイズ	▲ 741,798	切替
18	撥水オイフ R-33	▲ 37,436	切替
	合計	▲ 2,734,716	切替

## ■ 目的と方針

透析機器の安全管理と安全な透析医療の提供に資することを目的とする。

## ■ 2016年度の目標

- (1) 透析機器の入れ替えと電子カルテへの移行作業に向けて血液浄化室の意見をまとめる。
- (2) 透析機器に関する安全管理を検討し、関連するすべての医療関係者への啓発・意識向上に努める。

## ■ 委員会の構成

委員：7名

(2016年3月現在、委員長・書記を含む)

### [内 訳]

- ・医師：1名
- ・看護師：2名
- ・臨床工学技士：2名
- ・事務局：2名

## ■ 年間活動内容

2015年度開催日と審議内容

血液浄化室安全管理委員会（1回開催）

	開催日	出席人数	出席率
第1回	2016年2月19日(金)	7名	100.0%

## ■ 審議内容

(1) 2016年2月19日(金)「小会議室」

- ・水質管理報告について
- ・電子カルテ移行に向けて

## ■ 年間活動実績

- ・2016年3月7日(月)に新しい透析機器の説明会を実施した。

# 在宅医療運営委員会

委員長 津 坂 和 文

## ■ 目的と方針

本委員会は、在宅療養を行う患者及びその家族に対して、専門的立場から医療を提供し、地域と連携しながら在宅療養を支援する

## ■ 2016年度の目標

訪問看護、訪問診療など、在宅医療を円滑に行うため、組織及び運営について必要な事項を定め、適切な管理を図る。

## ■ 委員会の構成

委員：10名

(2016年3月現在、委員長・書記を含む)

### 【内 訳】

- 医師：4名
- 看護師：3名
- リハ：1名
- 事務局：2名

## ■ 年間活動内容と実績

2015年度開催日と協議内容

在宅医療運営委員会（5回開催）

	開催日	出席人数	出席率
第1回	2015年7月13日(月)	10名	100.0%
第2回	2015年9月14日(月)	10名	100.0%
第3回	2015年11月9日(月)	9名	90.0%
第4回	2016年1月18日(月)	10名	100.0%
第5回	2016年3月14日(月)	9名	90.0%

## ■ 協議内容と実績

### (1) 2015年7月13日(月)「栄養指導室」

- 訪問看護実施状況報告

### (2) 2015年9月14日(月)「栄養指導室」

- 訪問看護実施状況報告
- 機能評価に向けて在宅医療基準等整備の必要性を検討

### (3) 2015年11月9日(月)「栄養指導室」

- 訪問看護実施状況報告
- 在宅医療基準等再整備。サイボウズのファイル管理より全職員閲覧可能とした。

### (4) 2016年1月18日(月)「栄養指導室」

- 訪問看護実施状況報告
- 委員会規定の見直しの必要性について

### (5) 2016年3月14日(月)「栄養指導室」

- 訪問看護実施状況報告

## ■ 目的と方針

公舎管理委員会は、職員宿舎の効率的利用と貸与の公平を確保することを目的とする。

## ■ 2016年度の目標

職員宿舎の効率的な運用を検証し検討する。また、宿舎の施設管理に必要な事項を行う。

## ■ 委員会の構成

委員：9名

(2016年3月現在、委員長・書記を含む)

### [内 訳]

- ・医師：2名
- ・看護師：2名
- ・職員代表：1名
- ・事務局：4名

## ■ 年間活動内容と実績

2015年度開催実績なし

# 栄養管理／NST委員会

委員長 小田 寿

## 目的と方針

職種や診療科の壁を超えたチームにより栄養管理を実践することにより、患者中心の医療を提供して患者QOL向上を達成することを目的とする。

## 2016年度の目標

- 職種を越えたチームにより栄養治療を実施し院内での栄養治療に関する事項を協議・検討しその効果的な推進を図る。
- 摂食機能療法算定件数増に向けて取り組む。
- NSTセミナーを年11回、定期的・継続的に実施する。

## 委員会の構成

委員：27名

(2016年3月現在、委員長含む)

### [内 訳]

- 医師：9名
- 看護師：5名
- 医療職：7名
- 事務局：6名

## 年間活動内容と実績

2015年度開催日と審議内容

栄養管理／NST委員会 (23回開催)

	開催日	出席人数	出席率
第1回	2015年4月14日(火)	24名	88.9%
第2回	2015年4月28日(火)	20名	74.1%
第3回	2015年5月12日(火)	23名	85.2%
第4回	2015年5月26日(火)	23名	85.2%
第5回	2015年6月9日(火)	24名	88.9%
第6回	2015年6月23日(火)	23名	85.2%
第7回	2015年7月14日(火)	24名	88.9%
第8回	2015年7月28日(火)	18名	66.7%
第9回	2015年8月11日(火)	25名	92.6%
第10回	2015年8月25日(火)	23名	85.2%
第11回	2015年9月8日(火)	22名	81.5%
第12回	2016年9月29日(火)	22名	81.5%
第13回	2015年10月13日(火)	18名	66.7%
第14回	2015年11月10日(火)	25名	92.6%
第15回	2015年11月24日(火)	22名	81.5%
第16回	2015年12月8日(火)	22名	81.5%
第17回	2015年12月22日(火)	19名	70.4%
第18回	2016年1月12日(火)	21名	77.8%
第19回	2016年1月26日(火)	22名	81.5%
第20回	2016年2月9日(火)	23名	85.2%

	開催日	出席人数	出席率
第21回	2016年2月23日(火)	20名	74.1%
第22回	2016年3月8日(火)	24名	88.9%
第23回	2016年3月22日(火)	21名	77.8%

## 審議内容

- (1) 2015年4月14日(火)「講堂」
  - 回診・介入結果報告
  - WG活動報告
  - 栄養管理室業務報告
  - 委員会規程について
- (2) 2015年4月28日(火)「講堂」
  - 回診・介入結果報告
  - WG活動報告
- (3) 2015年5月12日(火)「講堂」
  - 回診・介入結果報告
  - WG活動報告
  - 栄養管理室業務報告
  - NSTセミナー予定について
- (4) 2015年5月26日(火)「講堂」
  - 回診・介入結果報告
  - WG活動報告
- (5) 2015年6月9日(火)「中会議室」
  - 回診・介入結果報告
  - WG活動報告
  - 栄養管理室業務報告
- (6) 2015年6月23日(火)「中会議室」
  - 回診・介入結果報告
- (7) 2015年7月14日(火)「中会議室」
  - 回診・介入結果報告
  - WG活動報告
  - 栄養管理室業務報告
- (8) 2015年7月28日(火)「中会議室」
  - 回診・介入結果報告
  - WG活動報告
- (9) 2015年8月11日(火)「中会議室」
  - 回診・介入結果報告
  - WG活動報告
  - 栄養管理室業務報告
- (10) 2015年8月25日(火)「中会議室」
  - 回診・介入結果報告
  - WG活動報告
- (11) 2015年9月8日(火)「中会議室」
  - 回診・介入結果報告

- ・栄養管理室業務報告
- ・口腔ケアに関する研修会について
- (12) 2016年9月29日(火)「中会議室」
  - ・回診・介入結果報告
  - ・栄養管理室業務報告
  - ・道東NSTネットワーク学術集会について
- (13) 2015年10月13日(火)「中会議室」
  - ・回診・介入結果報告
  - ・栄養管理室業務報告
  - ・経腸栄養剤プロシユアの仕様変更について
- (14) 2015年11月10日(火)「中会議室」
  - ・回診・介入結果報告
  - ・栄養管理室業務報告
- (15) 2015年11月24日(火)「中会議室」
  - ・回診・介入結果報告
  - ・第13回北海道胃瘻研究会における発表について
  - ・日本静脈経腸栄養学会(JSPEN)の学術集会について
- (16) 2015年12月8日(火)「中会議室」
  - ・回診・介入結果報告
  - ・栄養管理室業務報告
  - ・入院患者の嗜好調査結果報告について
- (17) 2015年12月22日(火)「中会議室」
  - ・回診・介入結果報告

- ・栄養管理室業務報告
- (18) 2016年1月12日(火)「中会議室」
  - ・回診・介入結果報告
  - ・栄養管理室業務報告
- (19) 2016年1月26日(火)「中会議室」
  - ・回診・介入結果報告
  - ・委員会規程について
  - ・「最新の褥瘡治療と適切な栄養の考え方」セミナーについて
- (20) 2016年2月9日(火)「中会議室」
  - ・回診・介入結果報告
  - ・栄養管理室業務報告
- (21) 2016年2月23日(火)「中会議室」
  - ・回診・介入結果報告
  - ・栄養管理室業務報告
- (22) 2016年3月8日(火)「中会議室」
  - ・回診・介入結果報告
  - ・栄養管理室業務報告
  - ・2016年診療報酬改定に伴う点数変更等について
- (23) 2016年3月22日(火)「中会議室」
  - ・回診・介入結果報告
  - ・補助食品「ごっくんゼリー」の使用状況調査について

## 年間活動実績

### ● NST介入人数 (人)

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
16	13	16	18	16	13	14	14	13	8	8	9	158

### ● 栄養サポートチーム加算算定件数 (件)

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
22	18	23	6	23	18	20	17	14	14	14	11	200

- 4月 胃瘻外来開始に係るNST介入について  
委員会規程の改定について
- 5月 WGの編成・活動内容について検討
- 7月 栄養管理計画書作成の協力依頼について
- 8月 栄養管理室内発生のアシデント防止策について
- 10月 経口補助食品「プロシユア」の仕様変更について
- 1月 褥瘡管理に関するライブセミナー開催について検討

# 図書委員会

委員長 河合朋昭

## 目的

図書の購入・管理保管を目的とする。

## 2016年度の目標

図書等の適正な購入計画の策定。

図書等の整理・保管に係る図書室の書架スペースの確保。

図書室の適正な管理運営。

## 委員会の構成

委員：11名

(2016年3月現在、委員長・書記を含む)

### 【内 訳】

- ・医師：5名
- ・看護師：1名
- ・医療職：1名
- ・事務局：4名

## 年間活動2015年度

- 4月 委員会規程の改定
- 5月 図書展示販売会を開催  
(5/25(月)～26(火) 講堂にて開催)
- 7月 書架スペース確保のため重複書籍の廃棄を実施
- 11月 定期購読雑誌についてアンケート調査を実施
- 12月 定期購読和雑誌・洋雑誌について部門要求書籍審査実施
- 1月 定期購読雑誌のうち洋雑誌35誌について電子ジャーナル化して運用開始

## 実績2015年度

	開催日	出席人数	出席率
第1回	2015年12月1日(火)	9名	81.8%

## 審議内容

2015年12月1日(火)大会議室

- ・平成28年度洋雑誌和雑誌の購読について
- ・平成28年度洋雑誌の電子ジャーナル化について
- ・メディカルオンラインの継続について
- ・医中誌webの継続について
- ・Up To Dateの継続について

## 2015年度購入図書一覧

### 和雑誌 紙媒体

No	【誌 名】	【出版社名】
1	BRAIN and NERVE	医学書院
2	胃 と 腸	医学書院
3	臨床整形外科	医学書院
4	整形外科(臨床雑誌・整形外科)	南江堂
5	整形・災害外科	金原出版
6	血液内科	科学評論社
7	呼吸と循環	医学書院
8	最新医学	最新医学社
9	CLINICAL NEUROSCIENCE	中外医学社
10	神経内科	科学評論社
11	臨床外科	医学書院
12	消化器外科	へるす出版
13	手 術	金原出版
14	外科(臨床雑誌)	南江堂
15	形成外科	克誠堂出版
16	ペーパーズ	全日本病院出版社
17	脳神経外科	医学書院
18	臨床泌尿器科	医学書院
19	眼 科	金原出版
20	臨床眼科	医学書院
21	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	医学書院
22	ザ・クインテッセンス	クインテッセンス出版
23	臨床麻酔	真興交易医書出版部
24	臨床放射線	金原出版
25	理学療法ジャーナル	医学書院
26	作業療法ジャーナル	三輪書店
27	総合リハビリテーション	医学書院
28	Medical Rehabilitation	全日本病院出版社
29	臨床検査	医学書院
30	精神医学	医学書院
31	クリニカルエンジニアリング	学研メディカル秀潤社
32	メディカル朝日	朝日新聞出版
33	エキスパートナーズ	照林社
34	看護技術	メヂカルフレンド社
35	看護展望	メヂカルフレンド社
36	看護実践の科学	看護の科学社
37	がん看護	南江堂
38	日本整形外科学会雑誌	日本整形外科学会
39	日本看護協会機関誌「看護」	日本看護協会出版会

洋雑誌 電子媒体

No.	【誌名】	【出版社名】
1	Annals of Otolaryngology & Laryngology	Sage
2	AURIS NASUS LARYNX	Elsevier
3	Laryngoscope	Wiley
4	Brain	Oxford University Press
5	Neurology	Ovid(LWW)
6	Journal of Spinal Disorders & Techniques	Ovid(LWW)
7	Cancer (Cancer Cytopathology)	Wiley
8	Nature.com Complete	Nature
9	New England Journal of Medicine	Massachusetts Medical Society
10	Spine	Ovid(LWW)
11	Gastroenterology	Elsevier
12	Hepatology(Liver Transplantation)	John Wiley & Sons Ltd.
13	Journal of Clinical Oncology	ASCO
14	Blood	ASH
15	Lancet	Elsevier
16	Annals of Neurology	John Wiley & Sons Ltd
17	American Journal of Cardiology	Elsevier
18	Circulation	Ovid(LWW)
19	Annals of Surgery	Ovid(LWW)
20	Surgery	Elsevier
21	Clinical Orthopaedics and Related Research	Springer-Verlag GmbH & CO
22	Journal of Bone and Joint Surgery (American Volume)	Ovid(LWW)
23	Bone & Joint Journal	British Editorial Society of Bone & Joint Surgery
24	Journal of Hand Surgery (American Volume)	Elsevier
25	Journal of Hand Surgery (British and European Volume)	Sage
26	Journal of Plastic, Reconstructive and Aesthetic Surgery	Elsevier
27	Plastic and Reconstructive Surgery	Ovid(LWW)
28	Journal of Neurosurgery : Spine : Pediatrics	American Association of Neurological Surgeons
29	Neurosurgery	Ovid(LWW)
30	WORLD NEUROSURGERY	Elsevier
31	Ophthalmology	Elsevier
32	American Journal of Neuroradiology	American Journal of Neuroradiology
33	American Journal of Roentgenology	American Journal of Roentgenology
34	American Journal of Surgical Pathology	Ovid(LWW)
35	Oral Surgery Oral Medicine Oral Pathology	Elsevier

洋雑誌 紙媒体

No.	【誌名】	【出版社名】
36	Journal of Orthopaedic Science	ELSEVIER

# 省エネルギー推進委員会

委員長 小笠原 和 宏

## ■ 目的と方針

「エネルギーの使用の合理化に関する法律」に基づき、病院におけるエネルギーの使用の合理化の適切かつ有効な実施について定め、エネルギー使用の節減とエネルギーの有効な利用を推進することを目的とする。

## ■ 2016年度の目標

- (1) ダウンライトの電球をLEDに変更する。
- (2) 中央ホール水銀灯をLEDランプに変更する。
- (3) 節電対策を職員に協力要請を行う。

## ■ 委員会の構成

委員：13名

(2016年3月現在、委員長・書記を含む)

### [内 訳]

- ・医師：2名
- ・医療職：6名
- ・看護師：1名
- ・事務局：4名

## ■ 年間活動内容と実績

2015年度委員会無し。

## ■ 目的と方針

防災委員会は、災害の防止及び火災時における初期消火並びに適切な避難誘導を訓練することによって、被害の防止に資することを目的とする。

## ■ 2016年度の目標

防災体制の基本方針、院内消防組織の編成を検討し、防災・消防訓練を実施する。もって、職員の防災意識の啓発に努める。

## ■ 委員会の構成

委員：10名

(2016年3月現在、委員長・書記を含む)

### [内 訳]

- ・医 師：1名
- ・薬 剤 師：1名
- ・看 護 師：1名
- ・作 業 療 法 士：1名
- ・臨 床 検 査 技 師：1名
- ・診 療 放 射 線 技 師：1名
- ・医 療 安 全 管 理 者：1名
- ・事 務 局：3名

## ■ 年間活動実績

- 4月 新規採用職員消火訓練実施
- 8月 ノーザンレスキュー災害対処実働訓練参加
- 2月 防災訓練実施
- 3月 消防訓練実施

## ■ 年間活動内容と実績

2015年度開催日と審議内容

防災委員会（2回開催）

	開 催 日	出席人数	出席率
第1回	2015年8月11日(月)	10名	100.0%
第2回	2016年2月8日(月)	9名	90.0%

## ■ 審議内容

### (1) 2015年8月11日(月)「講堂」

- ・大規模災害マニュアルの改訂について
- ・陸上自衛隊北部方面隊の実施する災害対処実働訓練への協力について

### (2) 2016年2月12日(金)「中会議室」

- ・28年度委員会規程について
- ・27年度防災、消防訓練について
- ・大規模災害マニュアルへの追記事項について

# 手術部運営委員会

委員長 小田 俊 昭

## 目的と方針

手術部の円滑な運営および適切な管理を図る。

## 2016年度の目標

- 手術室の効率的な運用
- 手術枠の弾力的な見直し

## 委員会の構成

委員：16名

(2016年3月現在、委員長・書記を含む)

### [内 訳]

- 医師：9名
- 臨床工学技師：1名
- 看護師：3名
- 事務局：3名

## 年間活動内容と実績

2015年度開催日と審議内容

手術部運営委員会 (12回開催)

	開催日	出席人数	出席率
第1回	2015年4月8日(水)	16名	100.0%
第2回	2015年5月13日(水)	11名	68.8%
第3回	2015年6月10日(水)	15名	93.8%
第4回	2015年7月8日(水)	16名	100.0%
第5回	2015年8月12日(水)	16名	100.0%
第6回	2015年9月9日(水)	16名	100.0%
第7回	2015年10月14日(水)	11名	68.8%
第8回	2015年11月11日(水)	16名	100.0%
第9回	2015年12月9日(水)	14名	87.5%
第10回	2016年1月13日(水)	13名	81.3%
第11回	2016年2月10日(水)	13名	81.3%
第12回	2016年3月9日(水)	13名	81.3%

## 審議内容

- (1) 2015年4月8日(水)「大会議室」
  - 新規手術枠の運用開始について
  - 麻酔応援医について
  - 電子カルテ導入に伴う手術記録について
- (2) 2015年5月13日(水)「大会議室」
  - 手術枠の見直しについて
- (3) 2015年6月10日(水)「大会議室」
  - 手術枠の変更について
  - 手術中の褥瘡対策について

- (4) 2015年7月8日(水)「大会議室」
  - 午後手術枠の入室時間について

- (5) 2015年8月12日(水)「大会議室」
  - 病院機能評価時の全身麻酔手術について

- (6) 2015年9月9日(水)「大会議室」
  - 病院機能評価時の全身麻酔手術について
  - 外来全麻手術の待機患者について

- (7) 2015年10月14日(水)「大会議室」
  - 手術申し込み時の入力について

- (8) 2015年11月11日(水)「大会議室」
  - 手術件数の比較について

- (9) 2015年12月9日(水)「大会議室」
  - 手術室入室の繰上げについて
  - 手術室看護師定員について

- (10) 2016年1月13日(水)「大会議室」
  - 手術前感染症検査の有効検査期間について
  - 手術室看護師配置について

- (11) 2016年2月10日(水)「大会議室」
  - 手術枠の厳守について

- (12) 2016年3月9日(水)「大会議室」
  - 平成28年度の麻酔科体制について
  - インシデントについて

## ■ 目的と方針

輸血療法委員会は、厚生労働省の「輸血療法の実施に関する指針」及び「血液製剤の使用指針」（平成17年9月6日付）に沿い、病院内の血液製剤の適正使用及び輸血療法の適正化に努めるよう審議することを目的とする。

## ■ 2016年度の目標

- (1) 血液製剤の適正使用のための必要事項を審議する。
- (2) 月毎の血液製剤使用状況を報告する。

## ■ 委員会の構成

委員：12名

(2016年3月現在、委員長・書記を含む)

### [内 訳]

- ・医師：6名
- ・看護師：2名
- ・薬剤師：1名
- ・臨床検査技師：2名
- ・事務局：1名

## ■ 年間活動内容と実績

2015年度開催日と審議内容

輸血療法委員会（6回開催）

	開催日	出席人数	出席率
第1回	2015年5月11日(月)	11名	91.70%
第2回	2015年7月6日(月)	10名	83.30%
第3回	2015年9月7日(月)	10名	83.30%
第4回	2015年11月9日(月)	9名	75.00%
第5回	2016年1月18日(月)	10名	83.30%
第6回	2016年3月7日(月)	10名	83.30%

## ■ 審議内容

- (1) 2015年5月11日(月)「中会議室」
  - ・平成27年度輸血療法委員会規程について
  - ・2015年2～4月の血液製剤使用状況について
- (2) 2015年7月6日(月)「栄養指導室」
  - ・2015年5～6月の血液製剤使用状況について
  - ・輸血加温装置について
  - ・輸血療法マニュアルの改訂について
  - ・病院機能評価の項目について

## (3) 2015年9月7日(月)「栄養指導室」

- ・2015年7～8月の血液製剤使用状況について
- ・輸血加温装置について
- ・輸血療法マニュアルの改訂について

## (4) 2015年11月9日(月)「栄養指導室」

- ・2015年9～10月の血液製剤使用状況について
- ・輸血療法説明書の輸血後感染症のデータ変更について

## (5) 2016年1月18日(月)「栄養指導室」

- ・2015年11～12月の血液製剤使用状況について
- ・PBSCC、PBSCTのオーダーについて

## (6) 2016年3月7日(月)「中会議室」

- ・2016年1～2月の血液製剤使用状況について
- ・PBSCC、PBSCTのオーダー手順について

# 医療ガス安全管理委員会

委員長 小田 俊 昭

## ■ 目的と方針

病院における医療ガス（診療用に供する酸素、各種麻酔ガス、吸引、医療用圧縮空気、窒素等をいう。）設備の安全管理を図り、患者の安全を確保することを目的とする。

## ■ 2016年度の目標

- (1) 医療ガス保守点検（年3回）の確認、作業環境測定（中材、E O G ガス）（年2回）の確認を実施する。
- (2) 外来化学療法センター開設に伴い現行アウトレットの改修。
- (3) 保守点検の見直し。

## ■ 委員会の構成

委員：9名

（2016年3月現在、委員長・書記を含む）

### [内 訳]

- ・医師：2名
- ・医療職：3名
- ・看護師：1名
- ・事務局：3名

## ■ 年間活動内容と実績

2015年度開催日と協議内容

医療ガス安全管理委員会（2回開催）

	開催日	出席人数	出席率
第1回	2016年2月8日(月)	7名	77.8%
第2回	2016年3月24日(木)	7名	77.8%

## ■ 審議内容

### (1) 2016年2月8日(月)「小会議室」

- ・医療ガス設備保守点検報告
- ・作業環境測定結果報告
- ・職員研修会「医療ガス取扱講習会」

### (2) 2016年3月24日(木)「小会議室」

- ・医療ガス設備保守点検報告
- ・保守点検内容の見直し

## ■ 年間活動実績

- ・手術室シーリングペンダントAir漏れ修理
- ・職員研修会「医療ガス取扱講習会」61名参加

## 目的と方針

病院内の褥瘡対策を討議。検討しその効果的な推進をはかる。

## 2016年度の目標

- (1) 定期的な委員会の開催による情報の把握と管理を行う。
- (2) 月毎の褥瘡発生件数データを収集し、動向を把握する。
- (3) 体圧分散寝具・褥瘡予防用具を定期的に見直し、更新時の選定を行う。

## 委員会の構成

委員：10名

(2016年3月現在、委員長・書記を含む)

### [内 訳]

- ・医師：1名
- ・看護師：5名
- ・医療職：3名
- ・事務局：1名

## 年間活動内容と実績

2015年度開催日と審議内容

褥瘡対策委員会 (12回開催)

	開催日	出席人数	出席率
第1回	2015年4月9日(木)	10名	100.0%
第2回	2015年5月14日(木)	10名	100.0%
第3回	2015年6月11日(木)	10名	100.0%
第4回	2015年7月9日(木)	10名	100.0%
第5回	2015年8月13日(木)	10名	100.0%
第6回	2015年9月10日(木)	10名	100.0%
第7回	2015年10月8日(木)	10名	100.0%
第8回	2015年11月12日(木)	10名	100.0%
第9回	2015年12月10日(木)	8名	80.0%
第10回	2016年1月14日(木)	8名	80.0%
第11回	2016年2月18日(木)	10名	100.0%
第12回	2016年3月10日(木)	8名	80.0%

## 審議内容

### (1) 2015年4月9日(木)「小会議室」

- ・委員会規程について
- ・褥瘡患者について
- ・褥瘡対策実施状況について

- ・褥瘡入院患者報告書の様式について

### (2) 2015年5月14日(木)「小会議室」

- ・褥瘡患者について
- ・褥瘡対策実施状況について
- ・NSTセミナーでの講義内容について
- ・労働者健康福祉機構臨床評価指標報告書について

### (3) 2015年6月11日(木)「小会議室」

- ・褥瘡患者について
- ・褥瘡対策実施状況について
- ・手術中の褥瘡評価について

### (4) 2015年7月9日(木)「小会議室」

- ・褥瘡患者について
- ・褥瘡対策実施状況について

### (5) 2015年8月13日(木)「小会議室」

- ・褥瘡患者について
- ・褥瘡対策実施状況について

### (6) 2015年9月10日(木)「小会議室」

- ・褥瘡患者について
- ・褥瘡対策実施状況について
- ・褥瘡対策マニュアルについて

### (7) 2015年10月8日(木)「小会議室」

- ・褥瘡患者について
- ・褥瘡対策実施状況について
- ・体圧分散式マットレスについて

### (8) 2015年11月12日(木)「小会議室」

- ・褥瘡患者について
- ・褥瘡対策実施状況について
- ・体位変換枕について

### (9) 2015年12月10日(木)「小会議室」

- ・褥瘡患者について
- ・褥瘡対策実施状況について
- ・川湯の森病院での褥瘡回診参加について

### (10) 2016年1月14日(木)「小会議室」

- ・褥瘡患者について

- 褥瘡対策実施状況について
- 新規創傷被覆材について
- 褥瘡関連学会について

(11) 2016年2月18日(木)「小会議室」

- 褥瘡患者について
- 褥瘡対策実施状況について
- 平成28年度委員会規程について

(12) 2016年3月10日(木)「小会議室」

- 褥瘡患者について
- 褥瘡対策実施状況について
- 寝具について

■ 年間活動実績

- 褥瘡入院患者報告書の様式変更を行った。
- 特定保険医療材料を摩擦抵抗の少ないものへ変更した。
- 褥瘡対策マニュアルの作成を行った。
- NSTと連携した褥瘡回診を行った。
- 川湯の森病院の褥瘡回診に参加し、地域と連携した活動を行った。
- 褥瘡の術中発生事例に対し、ハーティークロップの活用の方法や、介入するタイミングの評価を行った。
- 院内褥瘡発生要因から自部署の特徴をとらえ、来年度の褥瘡予防活動計画へ反映させた。

● 褥瘡対策に関する診療計画書の作成件数 (件)

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
38	31	94	99	82	72	99	85	96	97	91	92	976

● 褥瘡ハイリスク加算算定件数 (件)

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
90	57	78	82	96	79	82	88	90	101	98	93	1034

## 目的と方針

放射線関連の業務は医療法、放射線技師法、労働安全衛生法、電波法など、さまざまな法律に準じて行われています。なかでも当院は放射線発生装置（リニアック）を有するため「放射線障害防止法」という法律で規制されています。このため、病院長は放射線障害予防規程を作成し、本部を通じて原子力規制委員会に届け出る義務を負います。院長の代わりにこの作業を行う役割が「放射線取扱主任者」で、当院では永尾先生が院長より選任されています。

この委員会は当院の放射線障害予防規程、放射線障害予防規程運用細則の適正で効率的な運用を図るため、予防規程第11条に定める放射線障害防止について必要な事項を企画、審議するため、及び、放射線関連業務を円滑に運営するための協議機関として放射線安全委員会と放射線部運用委員会が融合した委員会となっております。

## 2016年度の目標

- (1) 放射線関連業務の円滑な運営
- (2) 法令に準じた放射線障害予防規程及び運用細則の適正かつ効率的な運用

## 委員会の構成

委員：15名

(2016年3月現在、委員長・書記を含む)

### 【内 訳】

- ・医 師：6名
- ・看 護 師：2名
- ・放 射 線 技 師：5名
- ・事 務 局：1名
- ・臨床工学技士：1名

## 年間活動内容と実績

2015年度開催日と審議内容

放射線部安全運営委員会（1回開催）

本委員会は「必要に応じて随時」開催されることになっております。

## 審議内容

- ・放射線障害予防規程の変更について
- ・MRI対応デバイスの当院での対応について
- ・中央放射線部における検査の「タイムアウト」について
- ・骨塩定量装置の更新時期について

平成27年度第1回 放射線部安全運営委員会

10月22日17時 小会議室

出席者 永尾、米坂、磯部、伊在井、高嶋、廣瀬、野呂、小林、石田、木内、立山

委員15名中11名参加、4名委任。

出席率 73パーセント

## 議事内容

### 放射線障害予防規程の変更について

5月に原子力規制庁の立ち入りがあり、業務従事者の被ばく歴の記載のある問診票が撤廃されていることを指摘され、当院予防規程の不備な点を合わせて改善するよう指導された。変更点は国の業務移管に対応。文部科学省から原子力規制委員会へ運用細則制定 規程は国に届け出が必要なので、変更可能な細則を併用放射化物対応 法改正で当院設置のリニアックも規制対象になった。

当院では放射化物が発生した場合には速やかな委託廃棄を行う業務従事者健康診断時の問診票及び過去の被ばく歴記載項目等である。

この件は承認され、11月1日付けで本部経由にて国に届け出る予定

### MRI対応デバイスの当院での対応について

MRI 施行時に禁忌とされている「心臓ペースメーカー」「人工内耳」「神経刺激装置」などがあるが、心臓ペースメーカーや脊髄刺激装置については「条件付きMRI対応システム」が登場しはじめた。当院でも2名の患者にこのシステムが導入されており、院内ルールを策定する必要がある。現在すぐには、「条件付」の条件がクリアされていないため、「原則、禁忌」のままであるが、今後このような「条件付き対応システム」によるMRI検査は当該診療科と放射線科、中央放射線部にて詳細な打ち合わせを行い前向きに準備を進めていくこととなった。

### 中央放射線部における検査の「タイムアウト」について

医療安全管理者より、放射線科検査時の「タイムアウト」に関して説明があり、11月以降での実施を目指していくことになった。

### 骨塩定量装置の更新時期について

現在故障している骨塩定量の更新が計画され、年内に機器納入、医療法申請は年明けになる予定、運用再開は1月末になる見込み

## 目的と方針

中央検査部の円滑な運営及び適切な管理を図ることを目的とする。

## 2016年度の目標

- (1) 中央検査部内の統計状況（件数・収支など）の報告をする
- (2) 臨床検査の精度管理状況を報告する  
院内の日常的精度管理に加え、日本臨床検査技師会や日本医師会など外部組織が主催する精度管理サーベイへの参加
- (3) 他部門への連絡事項の発信と提案事項の審議を行う。  
検査項目の追加や削除、院内検査から外部委託検査への変更あるいはその逆、検査基準範囲の見直しなど

## 委員会の構成

委員：12名

（2016年6月現在、委員長・書記を含む）

### [内 訳]

- ・医師：6名
- ・看護師：2名
- ・事務局：1名
- ・臨床検査技師：3名

## 年間活動内容と実績

2015年度開催日と協議内容

中央検査部管理運営委員会開催日（3回開催）

	開催日	出席人数	出席率
第1回	2015年6月18日(木)	11名	91.7%
第2回	2015年10月22日(木)	10名	83.3%
第3回	2016年2月18日(木)	11名	91.7%

## 審議内容

### (1) 2015年6月18日(木)「栄養指導室」

- ・委員会規程について
- ・構成委員の表記を氏名から職名に変更。
- ・中央検査部内部精度管理報告
- ・中央検査部統計報告
- ・検査件数、検体管理加算件数・管理加算料等について
- ・ASO値を委託検査に変更、髄液細胞計測を目視法から分析器計測に変更

### (2) 2015年10月22日(木)「中会議室」

- ・中央検査部内部精度管理報告
- ・中央検査部統計報告  
検査件数、検体管理加算件数・管理加算料等について
- ・「中央検査部利用案内」の改定を報告  
平成27年10月19日付け改定
- ・体腔液（胸・腹水等）検査のヘモグロビン、ヘマトクリット値を省略する事を報告
- ・血小板凝集能検査の機器故障・修理不能の為、検査項目から削除する事を報告
- ・「採血管準備装置」が頻繁に故障の為、現状報告と今後の運用対策を提案

### (3) 2016年2月18日(木)「中会議室」

- ・委員会規程について  
次年度の委員会規程に変更がないことを確認。
- ・中央検査部内部及び外部組織主催（平成27年度日臨技精度管理調査）精度管理報告
- ・中央検査部統計報告  
検査件数、検体管理加算件数・管理加算料等について
- ・「中央検査部医療安全ガイドライン」改定の報告  
平成28年2月改定する
- ・血液培養ボトル（ガラス製）から（プラスチック製）に変更する事を報告
- ・日本臨床衛生検査技師会より「精度保証施設認証」の二年間更新が確定  
有効期限：2016年4月1日から2018年3月31日
- ・「Fib-4 index」を院内検査項目に追加する事を承認した

## 年間活動実績

- ・平成27年度日臨技精度管理調査報告…96.6点（満点：100点）で良好であった
- ・平成27年度統計結果報告：数値はいずれも表示期間内の月平均である

( ) 内は同期間の対前年比である

		第50回 (2015.6.18) H27年4月～5月		第51回 (2015.10.22) H27年4月～9月		第52回 (2016.2.18) H27年4月～H28年1月	
検査件数	(件)	139,728	(0.9%↑)	145,996	(3.8%↑)	145,380	(3.5%↑)
検査実施料	(千円)	40,447	(1.2%↓)	42,365	(2.3%↑)	42,470	(3.4%↑)
検体管理加算件数	(件)	4,741	(2.7%↑)	4,865	(0.3%↑)	4,825	(0.1%↑)
検体管理加算料	(千円)	4,656	(0.4%↑)	4,813	(0.5%↓)	4,740	(1.5%↓)
委託検査件数	(件)	2,375	(4.1%↓)	2,373	(4.5%↓)	2,412	(2.7%↓)
委託検査支払額	(千円)	4,301	(8.5%↑)	4,444	(7.3%↑)	4,702	(9.0%↑)

前年同期に比べ検査件数及び実施料は僅かに増加し、管理加算件数は前年並み、加算料は前年より多少減少傾向である。委託検査件数は減少したが高額検査の増加に伴い支払い額が増加した。

- 機器故障による検査項目（血小板凝集能検査）の削除があったが、内科外来より要望の「Fib-4 index」を院内検査項目に追加する事となった

## 目的と方針

本委員会は、健康診断業務体制整備を目的とした委員会であり、健康診断業務に関する事項の業務遂行を円滑に運営するために審議し検討するものとする。

## 2016年度の目標

- ・対前年比健診件数の増加。

## 委員会の構成

委員：8名

(2016年4月現在、委員長・書記を含む)

### [内 訳]

- ・医師：1名
- ・看護師：2名
- ・医療職：2名
- ・事務局：3名

## 年間活動内容と実績

2015年度開催日と審議内容

健診業務体制整備委員会

	開催日	出席人数	出席率
第1回	2015年4月27日(月)	6名	66.7%
第2回	2015年7月23日(木)	7名	77.8%
第3回	2015年10月29日(木)	8名	100.0%
第4回	2016年2月29日(月)	7名	77.8%

## 審議内容

(1) 2015年4月27日(月) 大会議室

- ・委員会規程について
- ・健診実施状況報告
- ・今年度の特定健診について

(2) 2015年7月23日(木) 大会議室

- ・健診実施状況報告
- ・脳ドック健診について

(3) 2015年10月29日(木)

- ・健診実施状況報告

(4) 2016年2月29日(月) 大会議室

- ・健診実施状況報告
- ・外来基本票実施欄の見直しについて

## 年間活動実績

(件)

健診項目	平成26年度	平成27年度
日帰り人間ドック	422	476
生活習慣病健診	442	444
特定健診	444	428
企業・個人健診	78	57
石綿・塵肺	220	330
有機溶剤	29	19
その他特殊健診	172	75
脳ドック	375	408
乳がん検診	249	258
子宮がん検診	153	129
合計	2,584	2,624

# 保育委員会

委員長 西川幸子

## ■ 目的と方針

保育委員会は、院内保育所の適正な運営に資することを目的とする。

## ■ 2016年度の目標

保育所の運営に関する重要事項、保育所管理者の諮問事項を審議し、適正な運営を行う。

## ■ 委員会の構成

委員：9名

(2016年3月現在、委員長・書記を含む)

### 【内 訳】

- ・医師：1名
- ・看護師：2名
- ・保育士：2名
- ・母親代表：1名
- ・職員代表：1名
- ・事務局：2名

## ■ 年間活動内容と実績

2015年度開催日と審議内容

保育委員会（2回開催）

	開催日	出席人数	出席率
第1回	2015年6月15日(月)	8名	88.9%
第2回	2016年2月8日(月)	6名	66.7%

## ■ 審議内容

### (1) 2015年6月15日(月)「中会議室」

- ・27年度委員会規程について
- ・保育所入所状況について
- ・平成27年度カリキュラム及び行事予定について
- ・父母会について
- ・夜間保育について

### (2) 2016年2月8日(月)「中会議室」

- ・28年度委員会規程について
- ・保育所入所状況について
- ・保育所からの要望

## ■ 年間活動実績

### 【院内保育所年間行事】

- 4月 進級式
- 5月 こいのぼり制作  
交通安全教室
- 6月 夏の制作
- 7月 七夕会、夏祭り
- 8月 運動会
- 9月 小遠足
- 10月 秋の制作、作品展
- 11月 冬の制作
- 12月 クリスマスお遊戯会
- 1月 参観日（2日間）
- 2月 豆まき会
- 3月 ひな祭り会  
お別れ会

毎月 お誕生会、身体測定、避難訓練  
年2回 健康診断

## 目的と方針

広報の円滑な発行に資すること及び患者、医療関係者、マスコミ、その他外部機関に対して病院職員が組織横断的に広報活動を行い病院の広報戦略を企画立案し実行する。

## 2016年度の目標

- (1) 広報物の定期発行（定着させる）「ろうさいかわら版、地域連携室だより」
- (2) 広報誌の企画内容充実（読まれる工夫）
- (3) ホームページの階層変更（見やすい工夫）及びアクセス件数の増加を図る

## 委員会の構成

委員：13名

（2016年3月現在、委員長・書記を含む）

### 〔内 訳〕

- ・医師：1名
- ・看護師：1名
- ・医療職：5名
- ・事務局：6名

## 年間活動内容と実績

2015年度開催日と審議内容

広報編集委員会開催日（5回開催）

	開催日	出席人数	出席率
第1回	2015年8月27日(木)	12名	92.3%
第2回	2015年9月17日(木)	11名	84.6%
第3回	2015年11月25日(水)	11名	84.6%
第4回	2016年01月7日(木)	10名	76.9%
第5回	2016年02月19日(木)	10名	76.9%

## 審議内容

- (1) 2015年8月27日(木)「大会議室」
  - ・広報編集委員会規程（案）について
  - ・ホームページの管理（役割分担）について
  - ・広報誌について
  - ・今後のスケジュール
- (2) 2015年9月17日(木)「大会議室」
  - ・前回委員会での検討事項の確認について
  - ・ホームページ記事掲載依頼書の変更について
  - ・ホームページの見直しについて
  - ・広報誌発行に向けて

## (3) 2015年11月25日(水)「大会議室」

- ・ホームページの管理報告について
- ・ホームページアクセス件数について
- ・広報誌発行時期について
- ・広報誌の特集記事について
- ・広報誌の特集記事について活動、役割について
- ・イメージキャラクターについて

## (4) 2016年1月7日(木)「大会議室」

- ・広報誌の校正確認について
- ・今後のスケジュールについて

## (5) 2016年2月19日(木)「大会議室」

- ・広報誌（ろうさいかわら版）の職員等からの評価について
- ・次回広報誌の発行について
- ・ホームページの変更箇所について
- ・ホームページ掲載予定について
- ・ホームページアクセス件数について

## 年間活動実績

- ・広報誌発行「ろうさいかわら版のリニューアル」（1月）
- ・ホームページへ診療実績（クリニカルインディケータ）の公開（9月）

# 病院誌「やちぼうず」編集委員会

委員長 大坪 誠 治

## ■ 目的と方針

病院誌「やちぼうず」編集委員会は、釧路労災病院年報の円滑な発行に資することを目的とする。

## ■ 2016年度の目標

やちぼうず発行の基本方針、委員会体制等を刷新し、年間通して行われた当院の診療活動を内外に強くアピールできるよう編集を行う。

## ■ 委員会の構成

委員：15名

(2016年3月現在、委員長・書記を含む)

### [内 訳]

- ・医師：2名
- ・薬剤師：2名
- ・看護師：2名
- ・診療放射線技師：2名
- ・臨床検査技師：2名
- ・作業療法士：2名
- ・臨床工学技士：1名
- ・事務局：2名

## ■ 年間活動内容と実績

2015年度開催日と審議内容

病院誌「やちぼうず」編集委員会（2回開催）

	開催日	出席人数	出席率
第1回	2015年6月2日(火)	14名	93.3%
第2回	2015年9月2日(水)	13名	86.7%

## ■ 審議内容

### (1) 2015年6月2日(火)「小会議室」

- ・27年度委員会規程について
- ・26年度「やちぼうず」の編集について

### (2) 2015年9月2日(水)「中会議室」

- ・26年度「やちぼうず」の編集について

## ■ 年間活動実績

掲載内容、体裁を大幅に変更（各科の動向・活動記録、26年度の状況と今後の展望を追加）し、10月校了、11月に25年の業績集を併せ、発行した。

## 目的と方針

本委員会は、職員の安全及び衛生管理に関して調査・研究審査し、安全衛生活動の推進徹底を図ることを目的とする。

## 2016年度の目標

- (1) 職員の健康障害を防止するための基本となる対策の樹立
- (2) 職員の健康障害の原因の調査及び再発の防止に係る対策の樹立
- (3) 職員の衛生に係る教育の実施計画の作成
- (4) 健康診断の実施及びその結果に対する対策
- (5) 前各号に掲げるもののほか健康管理に必要な措置

## 委員会の構成

委員：11名

(2016年3月現在、委員長・書記を含む)

### [内 訳]

- ・医師：2名
- ・看護師：2名
- ・医療職：2名
- ・事務局：5名

## 年間活動内容と実績

2015年度開催日と審議内容

衛生委員会 (12回開催)

	開催日	出席人数	出席率
第1回	2015年4月21日(火)	10名	90.9%
第2回	2015年5月19日(火)	11名	100.0%
第3回	2015年6月16日(火)	11名	100.0%
第4回	2015年7月21日(火)	11名	100.0%
第5回	2015年8月18日(火)	11名	100.0%
第6回	2015年9月15日(火)	11名	100.0%
第7回	2015年10月20日(火)	11名	100.0%
第8回	2015年11月17日(火)	10名	90.9%
第9回	2015年12月15日(火)	9名	81.8%
第10回	2016年1月19日(火)	8名	72.7%
第11回	2016年2月16日(火)	6名	54.5%
第12回	2016年3月15日(火)	11名	100.0%

## 審議事項

### (1) 2015年4月21日(火)「小会議室」

- ・定期健康診断の日程について
- ・職場巡視について

### (2) 2015年5月19日(火)「小会議室」

- ・流行性ウイルス疾患ワクチン接種プログラムについて

### (3) 2015年6月16日(火)「小会議室」

- ・平成27年度健康診断受診状況について

### (4) 2015年7月21日(火)「小会議室」

- ・平成27年度健康診断受診状況について
- ・職場巡視について

### (5) 2015年8月18日(火)「小会議室」

- ・HBワクチン及び4種のウイルス疾患ワクチン接種者の追加について

### (6) 2015年9月15日(火)「小会議室」

- ・平成27年度職員・業務委託者インフルエンザワクチン接種の日程について
- ・職場巡視について

### (7) 2015年10月20日(火)「小会議室」

- ・平成27年度特殊業務従事者健康診断の日程について
- ・職場巡視について

### (8) 2015年11月17日(火)「小会議室」

- ・平成27年度特殊業務従事者健康診断の日程について

### (9) 2015年12月15日(火)「小会議室」

- ・平成27年度インフルエンザ予防接種実施者数について
- ・ストレスチェックの実施について

### (10) 2016年1月19日(火)「小会議室」

- ・平成27年度特定業務従事者健康診断・受診状況について
- ・ストレスチェックの実施時期について

### (11) 2016年2月16日(火)「小会議室」

- ・平成28年度委員会構成員について

### (12) 2016年3月15日(火)「小会議室」

- ・ストレスチェック制度実施規程(案)について

## ■ 年間活動実績

- (1) 業務上災害報告・病気療養者報告
- (2) 産業医による長時間労働者への面談
- (3) ワクチン予防接種の実施（B型肝炎ワクチン、4種の流行性ワクチン、インフルエンザワクチン）
- (4) 職員定期健康診断実施
- (5) 特殊業務従事者健康診断実施
- (6) 職場巡視

## ■ 目的と方針

患者サービスに関する問題点を明確にした上で、その改善点を検討し、患者に選ばれる病院を目指す。

## ■ 2016年度の目標

- (1) 接遇改善（各部署にて接遇チェックリストを元に接遇チェックを行う。年2回実施）
- (2) 患者の利便性改善（院内清掃の改善、掲示板の整備・ラウンドの実施等）
- (3) 療養環境の向上（敷地内清掃、フロアの飾り付け等）
- (4) 患者投書の回答掲示・職員への周知

## ■ 委員会の構成

委員：20名

（2016年3月現在、委員長・書記を含む）

### [内 訳]

- ・医師：3名
- ・看護師：5名
- ・医療職：5名
- ・事務局：7名

## ■ 年間活動内容と実績

2015年度開催日と審議内容

患者サービス向上委員会（12回開催）

	開催日	出席人数	出席率
第1回	2015年4月08日(水)	17名	85.0%
第2回	2015年5月13日(水)	18名	90.0%
第3回	2015年6月10日(水)	17名	85.0%
第4回	2015年7月08日(水)	16名	80.0%
第5回	2015年8月12日(水)	17名	85.0%
第6回	2015年9月9日(水)	18名	90.0%
第7回	2015年10月14日(水)	17名	85.0%
第8回	2015年11月17日(火)	18名	90.0%
第9回	2015年12月09日(水)	17名	85.0%
第10回	2016年1月12日(火)	17名	85.0%
第11回	2016年2月10日(水)	18名	90.0%
第12回	2016年3月09日(水)	17名	85.0%

## ■ 審議内容

(1) 2015年4月8日(水)「大会議室」

- ・委員会規程について
- ・今年度の活動計画について
- ・患者図書館について

- ・投書について

(2) 2015年5月13日(水)「講堂」

- ・グループ活動計画について

(3) 2015年6月10日(水)「大会議室」

- ・グループ活動計画について
- ・投書について

(4) 2015年7月8日(水)「大会議室」

- ・グループ活動計画について
- ・投書について
- ・掲示物のチェックについて

(5) 2015年8月12日(水)「大会議室」

- ・グループ活動計画について
- ・投書について
- ・患者満足度調査について

(6) 2015年9月9日(水)「大会議室」

- ・グループ活動計画について
- ・投書について

(7) 2015年10月14日(水)「大会議室」

- ・グループ活動計画について
- ・投書について
- ・院内掲示板について
- ・病院正面駐車場について
- ・消灯時の音楽・アナウンスについて

(8) 2015年11月17日(火)「講堂」

- ・グループ活動計画について
- ・投書について
- ・病院正面駐車場について

(9) 2015年12月9日(水)「講堂」

- ・グループ活動計画について
- ・投書について
- ・消灯時の音楽・アナウンスの必要性について
- ・病院正面駐車場について
- ・患者図書室の図書について

## (10) 2016年1月12日(火)「講堂」

- グループ活動計画について
- 投書について
- 入院患者の駐車について
- 患者満足度調査の結果について
- 委員会規程の改訂について

## (11) 2016年2月10日(水)「大会議室」

- グループ活動計画について
- 投書について
- チャイムについて

## (12) 2016年3月9日(水)「大会議室」

- グループ活動計画について
- 投書について
- チャイムについて

## ■ 年間活動実績

- 接遇マニュアル配布(5月)
- 接遇ラウンド実施(27年8月、28年2月)
- 携帯電話の使用エリアに関する案内の作成と掲示(10月)
- 市民向け研修会等の専用掲示板を設置(9月)
- 患者図書室の整備の実施(5月)
- 消灯時の音楽及びアナウンスを廃止(1月から順次実施)
- 駐車場管理フローチャート、入院時駐車許可申請書の作成(12月)
- ロビーコンサート、クリスマスコンサートの実施(5月、12月)
- 1階フロアの展示(通年実施)

## ■ 目的と方針

本委員会は、医師の業務負担軽減及び処遇改善に資する計画・評価を行うため、ドクターズクラークの体制及び業務内容の整備を目的とする。

## ■ 2016年度の目標

- (1) ドクターズクラークが行う業務教育
- (2) ドクターズクラークの適正配置
- (3) 医師が依頼する業務のルール作成
- (4) 年間計画の達成

## ■ 委員会の構成

委員：19名

(2016年3月現在、委員長・書記を含む)

[内訳]

- ・医師：12名
- ・看護師：3名
- ・事務局：4名

## ■ 年間活動内容と実績

2015年度開催日と審議内容

ドクターズクラーク運営委員会（1回開催）

	開催日	出席人数	出席率
第1回	2016年2月25日(木)	13名	68.4%

## ■ 審議内容

- (1) 2016年2月25日(木)「大会議室」
  - ・ドクターズクラーク運営委員会規程(案)について
  - ・ドクターズクラーク配置体制等の見直しについて

## IV. 医療統計

患者数の推移（入院・外来）	119
診療科別入院患者数の推移	120
診療科別外来患者数（平成27年度）	121
診療科別入院単価の推移	122
診療科別外来単価の推移	122
紹介率・逆紹介率の推移	123
病床利用率の推移	123
平均在院日数の推移	124
時間外取扱患者数 総数と1日平均の推移	125
救急車受入件数（総数と1日平均）	126
手術件数の推移（手術室内）	126
全身麻酔件数の推移	127
化学療法件数の推移（入院・外来）	127
透析件数の推移（入院・外来）	128
内視鏡件数の推移（上部・下部）	128
放射線治療件数の推移	129
解剖件数の推移	129
2015年度後発医薬品指数	130
D P C 14桁 診断群分類上位頻度表（全科共通）	130
D P C M D C 6桁 診療科別上位頻度表	131
K c o d e 診療科別上位頻度表	134



## 患者数の推移（入院・外来）

	年度別 単位	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年
		承認病床数(床)	500	500	500	500
稼働病床数(床)		450	450	450	450	450
入院患者延数(人)		138,978	138,308	139,170	138,231	135,740
1日平均患者数(人)		380	379	381	379	371
新入院患者数(人)		7,966	8,894	9,391	8,685	8,643
退院患者数(人)		7,982	8,863	9,390	8,688	8,647
病床利用率(%)		84.4	84.2	84.7	84.2	82.4
平均在院日数(日)		16.1	14.1	13.2	15.9	16.1
病床回転数(回)		22.7	25.9	27.7	23.0	22.7
1人1日当単価(円)		41,881	45,500	46,668	46,896	47,878
診療実日数(日)		366	365	365	365	366
院内死亡患者数(人)		360	393	438	402	400
院内死亡率(%)		4.3	4.3	4.5	4.4	4.4
解剖検体数(件)		4	6	7	6	9
剖検率(%)		1.1	1.5	1.6	1.5	2.3
労災患者延数(人)		3,699	3,594	5,404	4,125	3,732
労災患者比率(%)		0.2	0.3	0.4	0.3	0.5
時間外新入院患者数(人)		979	1,114	1,141	963	962

	年度別 単位	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年
		外来患者延数(人)	241,091	236,722	235,009	236,495
1日平均患者数(人)		988	966	963	969	993
新外来患者数(人)		18,201	18,241	19,096	18,231	18,058
新外来患者率(%)		7.5	7.7	8.1	7.7	7.5
平均通院回数(回)		13.2	13.0	12.3	13.0	13.4
1人1日当単価(円)		9,701	10,448	11,169	12,316	13,790
診療実日数(日)		244	245	244	244	243
入院中外来併診数(人)		45,168	45,285	38,777	36,512	36,531
労災患者延数(人)		10,896	10,436	9,772	9,208	8,885
労災患者比率(%)		4.5	4.4	4.2	3.9	3.7
時間外外来患者数(人)		3,699	3,954	3,834	3,644	3,691

# 診療科別入院患者数の推移

(単位：人)

	25 年 度				26 年 度				27 年 度			
	入院患者数		新入院患者数		入院患者数		新入院患者数		入院患者数		新入院患者数	
	延数	1日平均	延数	1日平均	延数	1日平均	延数	1日平均	延数	1日平均	延数	1日平均
内 科	51,069	139.9	3,767	10.3	53,743	147.2	3,530	9.7	52,691	144.0	3,630	9.9
神 経 内 科	5,817	15.9	210	0.6	5,533	15.2	165	0.5	5,239	14.3	175	0.5
循 環 器 科	65	0.2	4	0.0	106	0.3	9	0.0	40	0.1	4	0.0
小 児 科	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
外 科	16,005	43.8	1,141	3.1	14,231	39.0	964	2.6	13,060	35.7	905	2.5
整 形 外 科	28,964	79.4	1,381	3.8	26,066	71.4	1,228	3.4	24,849	67.9	1,078	2.9
形 成 外 科	5,165	14.2	387	1.1	5,523	15.1	394	1.1	4,891	13.4	356	1.0
脳 神 経 外 科	18,075	49.5	928	2.5	19,847	54.4	909	2.5	20,367	55.6	817	2.3
皮 膚 科	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
泌 尿 器 科	5,091	13.9	413	1.1	4,900	13.4	405	1.1	6,345	17.3	486	1.3
産 婦 人 科	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
眼 科	793	2.2	110	0.3	953	2.6	113	0.3	1,327	3.6	184	0.5
耳 鼻 咽 喉 科	6,213	17.0	579	1.6	5,464	15.0	562	1.5	5,170	14.1	563	1.5
リ ハ 科	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
放 射 線 科	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
麻 酔 科	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
歯 科	1,866	5.1	424	1.2	1,865	5.1	406	1.1	1,761	4.8	445	1.2
合 計	139,123	381.2	9,344	25.6	138,231	378.7	8,685	23.8	135,740	370.9	8,643	23.6
労 災 患 者 数 (再掲)	5,404	14.8	-	-	4,125	11.3	-	-	3,732	10.2	-	-

## 診療科別外来患者数 (平成27年度)

(単位:人)

	新 患	再 来	合 計	一日平均患者数		
				新 患	再 来	合 計
内 科	3,176	53,936	57,112	13.1	222.0	235.0
精 神 科	193	1,039	1,232	0.8	4.3	5.1
神 経 内 科	770	10,192	10,962	3.2	41.9	45.1
循 環 器 科	612	6,875	7,487	2.5	28.3	30.8
小 児 科	0	0	0	0.0	0.0	0.0
外 科	1,101	11,946	13,047	4.5	49.2	53.7
整 形 外 科	3,059	32,497	35,556	12.6	133.7	146.3
形 成 外 科	1,347	6,576	7,923	5.5	27.1	32.6
脳 神 経 外 科	1,516	19,287	20,803	6.2	79.4	85.6
皮 膚 科	99	437	536	0.4	1.8	2.2
泌 尿 器 科	618	16,213	16,831	2.5	66.7	69.3
産 婦 人 科	29	195	224	0.1	0.8	0.9
眼 科	778	7,722	8,500	3.2	31.8	35.0
耳 鼻 咽 喉 科	1,737	13,003	14,740	7.1	53.5	60.7
リ ハ 科	870	31,431	32,301	3.6	129.3	132.9
放 射 線 科	201	5,289	5,490	0.8	21.8	22.6
麻 酔 科	11	136	147	0.0	0.6	0.6
歯 科	1,673	6,259	7,932	6.9	25.8	32.6
医 療 相 談 科	268	203	471	1.1	0.8	1.9
合 計	18,058	223,236	241,294	74.3	918.7	993.0
労災患者数(再掲)	—	—	8,885	—	—	36.6

## 診療科別入院単価の推移

(単位：円)

	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
内 科	38,712	40,791	43,192	45,213	48,082
精 神 科	—	—	—	—	—
神 経 内 科	32,693	38,704	35,417	34,583	35,000
循 環 器 科	32,457	100,068	91,353	89,896	159,750
小 児 科	—	—	—	—	—
外 科	50,138	56,027	55,640	54,547	56,371
整 形 外 科	43,582	46,176	49,433	51,518	50,202
形 成 外 科	40,873	40,039	44,961	42,816	41,865
脳 神 経 外 科	42,306	50,351	47,550	44,275	43,161
皮 膚 科	—	—	—	—	—
泌 尿 器 科	50,761	50,183	47,489	45,255	43,831
産 婦 人 科	28,735	—	—	—	—
眼 科	58,961	61,709	57,154	57,985	63,133
耳 鼻 咽 喉 科	38,613	42,885	42,132	42,638	45,832
リ ハ 科	—	—	—	—	—
放 射 線 科	—	—	—	—	—
麻 酔 科	—	—	—	—	—
歯 科	61,360	60,262	59,328	57,621	62,097
医 療 相 談 科	87,708	74,932	74,930	—	—
合 計	41,881	45,500	46,668	46,896	47,878

## 診療科別外来単価の推移

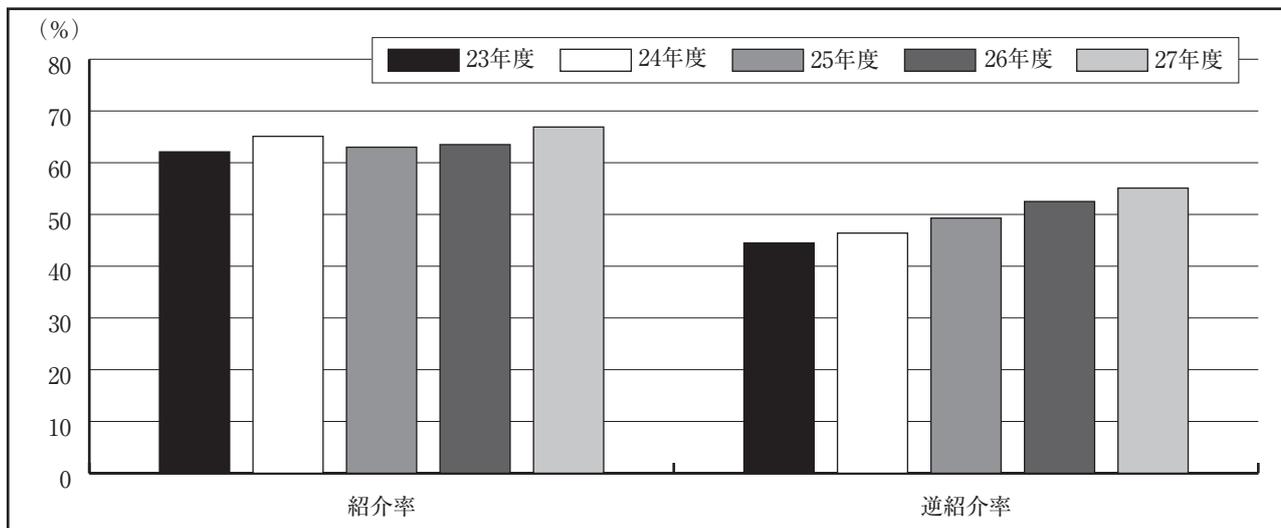
(単位：円)

	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
内 科	15,568	17,700	19,529	23,612	29,859
精 神 科	—	—	—	5,140	5,490
神 経 内 科	8,339	9,176	8,970	9,728	10,302
循 環 器 科	6,693	7,558	7,369	7,048	6,753
小 児 科	—	—	—	—	—
外 科	17,970	18,645	18,367	19,106	19,243
整 形 外 科	6,475	6,452	6,565	6,464	6,725
形 成 外 科	5,026	5,634	6,391	6,745	9,232
脳 神 経 外 科	8,122	8,724	8,385	8,497	8,502
皮 膚 科	815	763	1,479	1,274	1,624
泌 尿 器 科	18,565	17,717	17,842	18,168	18,235
産 婦 人 科	4,543	5,220	6,627	5,127	7,086
眼 科	5,004	4,770	4,586	4,775	4,803
耳 鼻 咽 喉 科	5,949	6,012	6,012	6,409	6,329
リ ハ 科	4,429	4,692	4,356	4,269	3,418
放 射 線 科	12,252	14,657	14,416	14,715	14,852
麻 酔 科	4,766	3,877	8,818	3,765	1,943
歯 科	5,015	5,279	6,833	7,138	7,372
医 療 相 談 科	28,792	33,872	35,610	39,984	37,203
合 計	9,701	10,448	11,169	12,316	13,790

## 紹介率・逆紹介率の推移

(単位：%)

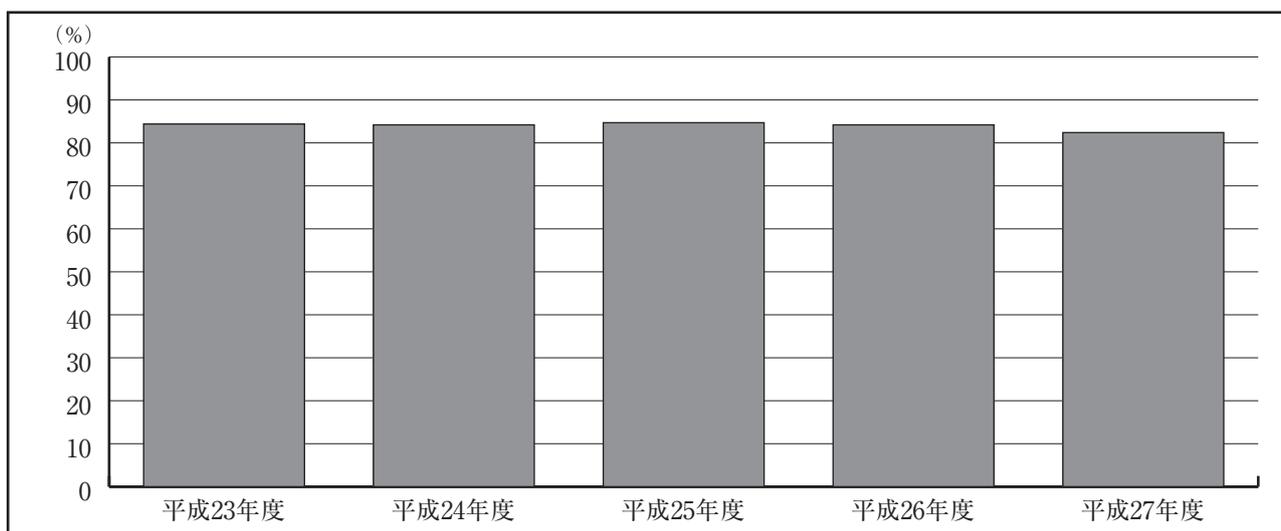
	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
紹介率	62.1	65.1	63.0	63.5	66.9
逆紹介率	44.5	46.4	49.3	52.5	55.1



## 病床利用率の推移

(単位：%)

	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
病床利用率	84.4	84.2	84.7	84.2	82.4



## 平均在院日数の推移

(単位：日)

	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
内 科	18.2	15.6	13.5	15.8	14.9
神 経 内 科	34.8	30.2	27.7	35.4	31.4
循 環 器 科	38.0	18.2	18.6	11.2	10.0
小 児 科	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
外 科	14.6	14.3	14.0	15.8	15.3
整 形 外 科	23.0	22.1	21.1	21.3	23.5
形 成 外 科	14.0	14.3	13.3	14.3	13.9
脳 神 経 外 科	23.5	19.0	19.5	22.6	25.4
皮 膚 科	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
泌 尿 器 科	10.7	11.0	12.8	12.5	13.3
産 婦 人 科	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
眼 科	7.2	6.3	7.2	8.6	7.2
耳 鼻 咽 喉 科	10.7	9.5	10.7	9.7	9.3
リ ハ 科	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
放 射 線 科	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
麻 酔 科	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
歯 科	3.8	4.2	4.4	4.6	4.0
医 療 相 談 科	1.0	1.0	1.0	0.0	0.0
合 計	17.4	15.6	14.8	16.4	16.1

## 時間外取扱患者数 総数と1日平均の推移

(単位：人)

総数	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
内科	975	1,268	1,258	1,023	1,204
精神科	0	0	0	0	0
神経内科	71	78	74	57	58
循環器科	10	8	7	3	1
小児科	0	0	0	0	0
外科	171	194	190	162	168
整形外科	862	813	910	1,009	863
形成外科	537	527	337	357	312
脳神経外科	559	552	586	634	669
皮膚科	0	0	0	0	0
泌尿器科	113	134	151	98	117
産婦人科	2	0	0	0	0
眼科	63	71	68	54	52
耳鼻咽喉科	233	210	203	197	207
リハ科	0	0	0	0	0
放射線科	14	21	1	0	0
麻酔科	0	0	0	0	0
歯科	89	78	49	50	40
医療相談科	0	0	0	0	0
合計	3,699	3,954	3,834	3,644	3,691

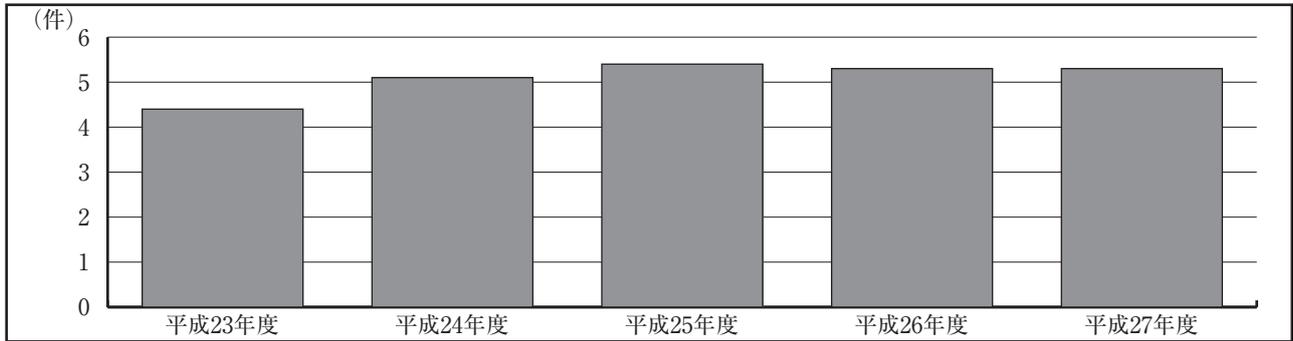
(単位：人)

1日平均	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
内科	2.7	3.5	3.4	2.8	3.3
精神科	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
神経内科	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2
循環器科	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
小児科	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
外科	0.5	0.5	0.5	0.4	0.5
整形外科	2.4	2.2	2.5	2.8	2.4
形成外科	1.5	1.4	0.9	1.0	0.9
脳神経外科	1.5	1.5	1.6	1.7	1.8
皮膚科	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
泌尿器科	0.3	0.4	0.4	0.3	0.3
産婦人科	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
眼科	0.2	0.2	0.2	0.1	0.1
耳鼻咽喉科	0.6	0.6	0.6	0.5	0.6
リハ科	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
放射線科	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0
麻酔科	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
歯科	0.2	0.2	0.1	0.1	0.1
医療相談科	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
合計	10.1	10.8	10.5	10.0	10.1

## 救急車受入件数（総数と1日平均）

（単位：件）

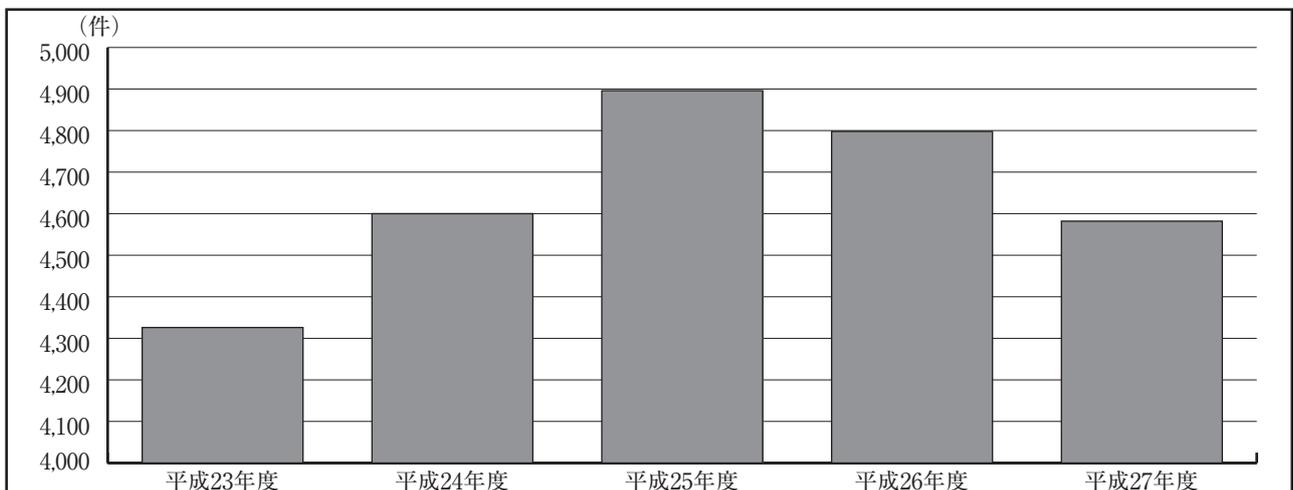
	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
総数	1,600	1,875	1,986	1,919	1,948
1日平均	4.4	5.1	5.4	5.3	5.3



## 手術件数の推移（手術室内）

（単位：件）

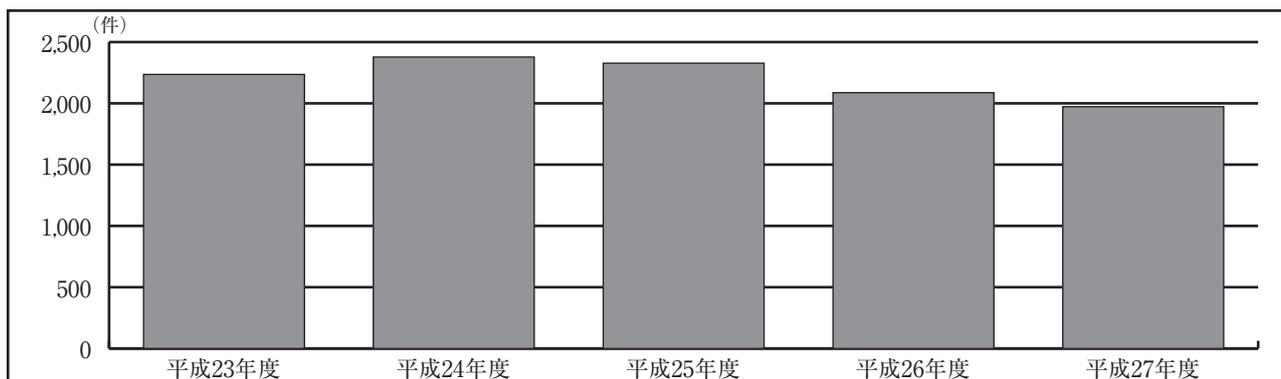
	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
内科	1	0	0	3	2
外科	653	722	679	591	610
整形外科	1,100	1,106	1,402	1,469	1,156
形成外科	691	743	788	837	785
脳神経外科	465	487	449	419	349
心臓血管外科	—	—	—	—	—
皮膚科	—	—	—	—	—
泌尿器科	159	250	228	231	278
産科	—	—	—	—	—
産婦人科	—	—	—	—	—
眼科	207	201	171	177	301
耳鼻咽喉科	344	360	340	281	336
リハ科	—	—	—	—	—
歯科	695	731	839	788	765
歯科口腔外科	—	—	—	—	—
神経内科	3	1	2	2	—
合計	4,318	4,601	4,898	4,798	4,582



## 全身麻酔件数の推移

(単位：件)

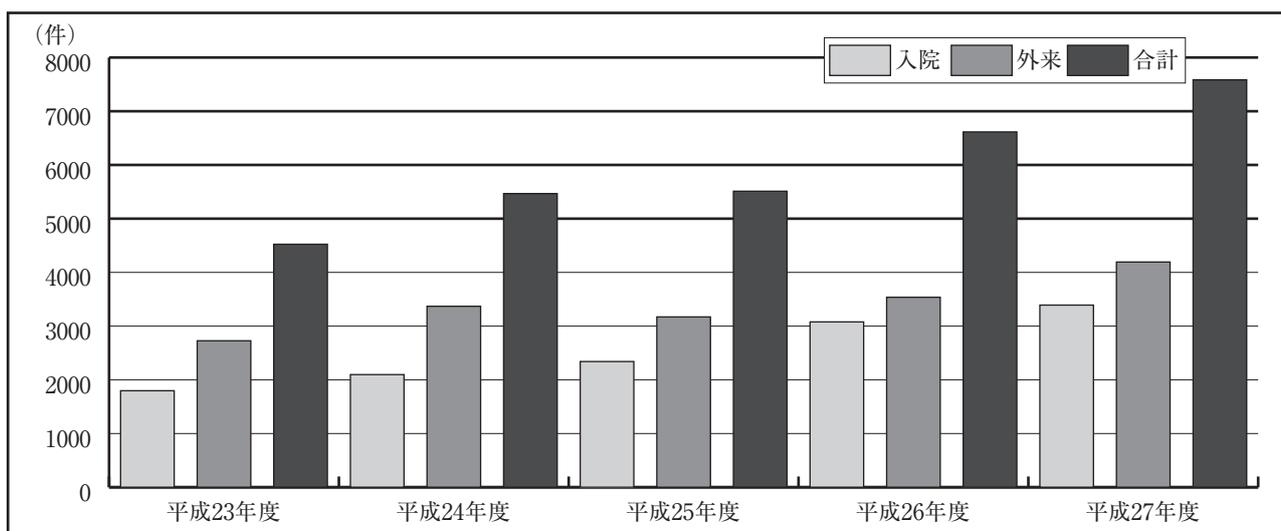
	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
全身麻酔件数	2,236	2,378	2,328	2,087	1,973



## 化学療法件数の推移（入院・外来）

(単位：件)

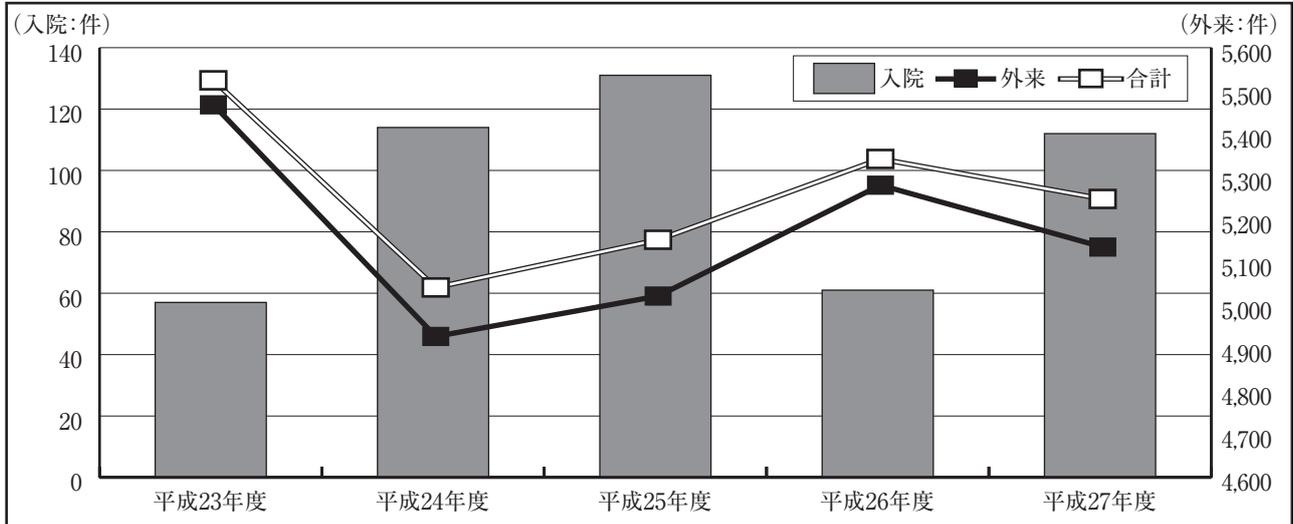
	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
入院	1,797	2,097	2,340	3,078	3,391
外来	2,727	3,369	3,171	3,537	4,193
合計	4,524	5,466	5,511	6,615	7,584



## 透析件数の推移（入院・外来）

（単位：件）

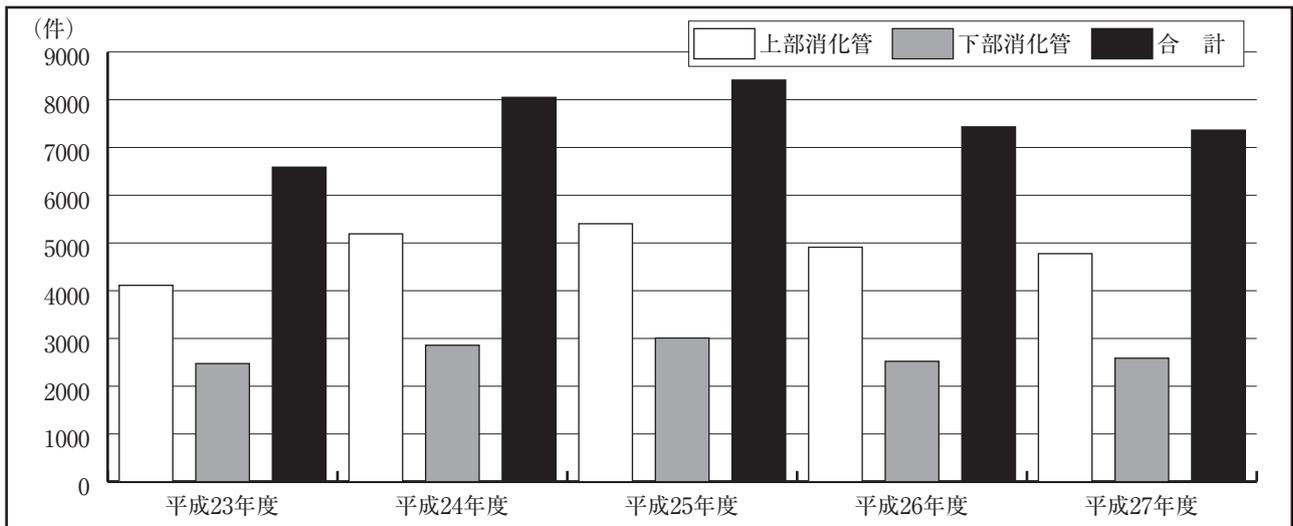
	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
入院	57	114	131	61	112
外来	5,467	4,928	5,022	5,280	5,136
合計	5,524	5,042	5,153	5,341	5,248



## 内視鏡件数の推移（上部・下部）

（単位：件）

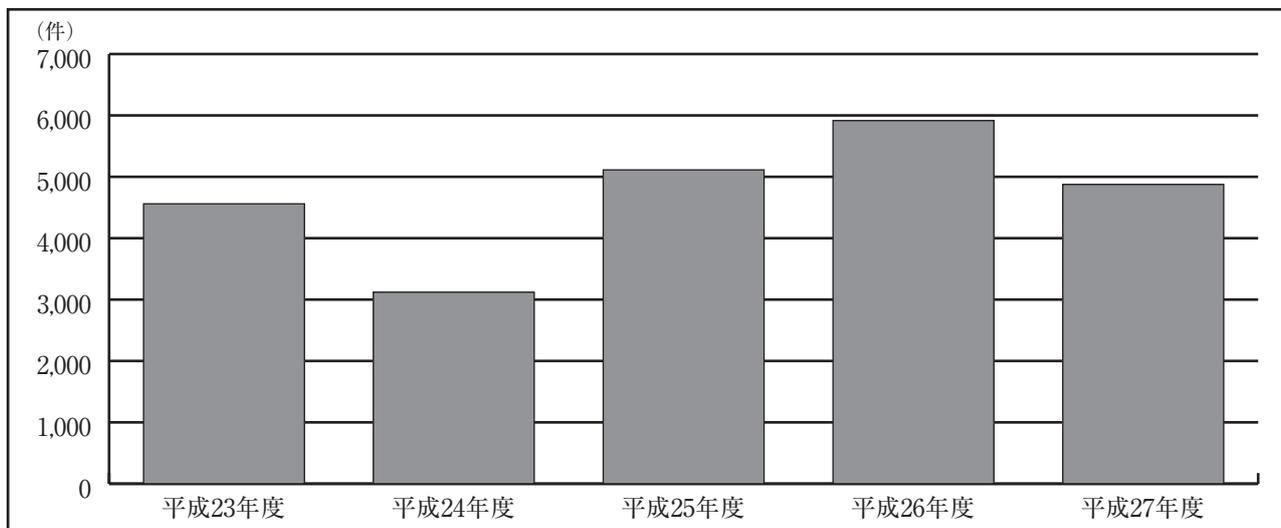
	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
上部消化管	4,113	5,191	5,403	4,911	4,776
下部消化管	2,474	2,858	3,009	2,521	2,587
合計	6,587	8,049	8,412	7,432	7,363



## 放射線治療件数の推移

(単位：件)

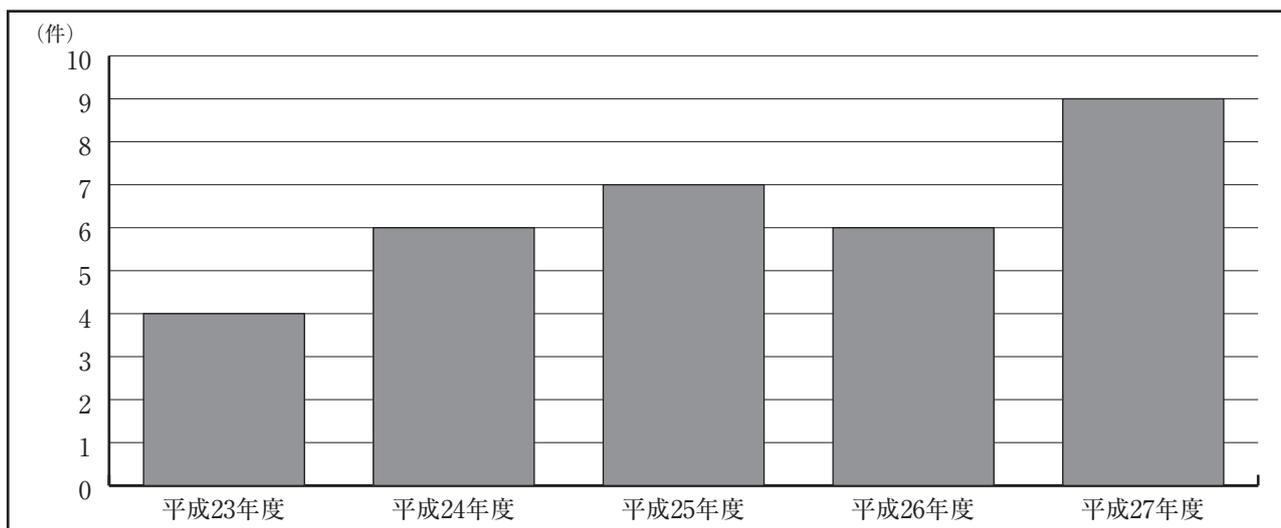
	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
放射線件数	4,560	3,120	5,113	5,916	4,875



## 解剖件数の推移

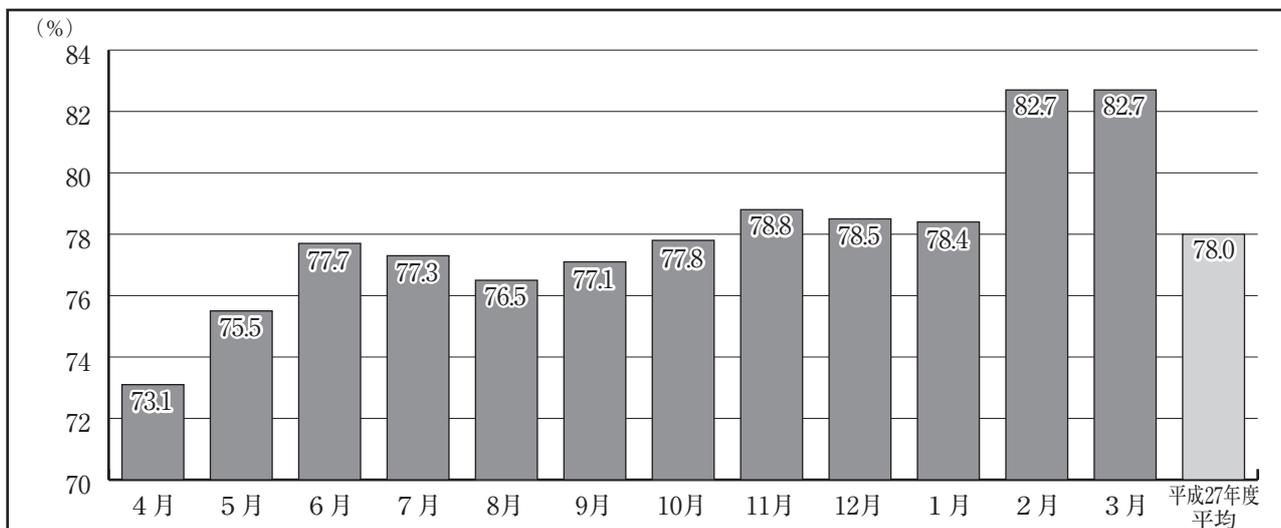
(単位：件)

	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
解剖件数	4	6	7	6	9



## 2015年度 後発医薬品指数

年 月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	H27年度 平均
後発医薬品指数 (%)	73.1	75.5	77.7	77.3	76.5	77.1	77.8	78.8	78.5	78.4	82.7	82.7	78.0



## DPC14桁 診断群分類上位頻度表 (全科共通)

対象：2015年4月1日～2016年3月31日退院患者

(転科を含み、医療資源を最も投入した傷病の診療科で集計)

順位	診断群分類番号	診断群分類名称	症例数 (件)
1	060100xxxxxxツ	小腸大腸の良性疾患の短手3 (内視鏡的結腸ポリープ・粘膜切除術2cm未満)	548
2	020110xxxxxxリ	白内障の短手3 (水晶体再建術・眼内レンズ挿入・その他のもの)	175
3	010111xxxxxx0xx	遺伝性ニューロパチー処置2なし	142
4	160620xx01xxxx	肘、膝の外傷 (スポーツ障害等を含む) 腱縫合術等	91
5	130030xx99x40x	非ホジキンリンパ腫 手術なし 処置2:リツキサソ (4) 副傷病なし	84
6	110080xxxxxxホ	前立腺の悪性腫瘍の短手3 (前立腺針生検法)	84
7	010060x099030x	脳梗塞 JCS10未満 手術なし 処置1なし 処置2:ラジカット (3) 副傷病なし	82
8	040080x099x0xx	肺炎、急性気管支炎、急性細気管支炎 15歳以上 手術なし 処置2なし	80
9	110070xx0200xx	膀胱腫瘍 膀胱悪性腫瘍手術 経尿道的手術 処置1なし 処置2なし	78
10	070230xx01xxxx	膝関節症 (変形性を含む) 人工関節再置換術等	75
11	060340xx03x00x	胆管 (肝内外) 結石、胆管炎 限局性腹腔膿瘍手術等 処置2なし 副傷病なし	70
12	030240xx99xxxx	扁桃周囲膿瘍、急性扁桃炎、急性咽頭喉頭炎 手術なし	66
13	060020xx04x0xx	胃の悪性腫瘍 内視鏡的胃、十二指腸ポリープ・粘膜切除術 処置2なし	64
14	020230xx97x0xx	眼瞼下垂 手術あり 処置2なし	63
15	060335xx0200xx	胆嚢水腫、胆嚢炎等 腹腔鏡下胆嚢摘出術等 処置1なし 処置2なし	61
16	160800xx01xxxx	股関節大腿近位骨折 人工骨頭挿入術 肩、股等	59
17	160610xx01xxxx	四肢筋腱損傷 靭帯断裂形成手術等	57
18	070343xx99x1xx	脊柱管狭窄 (脊椎症を含む) 腰部骨盤、不安定椎 手術なし 処置2:脳脊髄造影剤使用撮影加算 (1)	56
19	060020xx99x00x	胃の悪性腫瘍 手術なし 処置2なし 副傷病なし	55
20	030400xx99xxxx	前庭機能障害 手術なし	52

## DPC MDC6桁 診療科別上位頻度表

対象：2015年4月1日～2016年3月31日退院患者  
(転科を含み、医療資源を最も投入した傷病の診療科で集計)

## 内科

順位	MDC6	MDC6名称	症例数(件)
1	060100	小腸大腸の良性疾患(良性腫瘍を含む)	636
2	060020	胃の悪性腫瘍	301
3	130030	非ホジキンリンパ腫	262
4	040040	肺の悪性腫瘍	163
5	06007x	膵臓、脾臓の腫瘍	158
6	060035	結腸(虫垂を含む)の悪性腫瘍	138
7	060340	胆管(肝内外)結石、胆管炎	110
8	060050	肝・肝内胆管の悪性腫瘍(続発性を含む)	96
9	060010	食道の悪性腫瘍(頸部を含む)	95
10	040080	肺炎、急性気管支炎、急性細気管支炎	91

## 神経内科

順位	MDC6	MDC6名称	症例数(件)
1	010160	パーキンソン病	30
2	010090	多発性硬化症	24
3	010170	基底核等の変性疾患	19
4	010155	運動ニューロン疾患等	13
5	010080	脳脊髄の感染を伴う炎症	10
6	010110	免疫介在性・炎症性ニューロパチー	9
7	070560	全身性臓器障害を伴う自己免疫性疾患	7
8	010230	てんかん	5
9	010130	重症筋無力症	5
10	010060	脳梗塞	4

## 循環器内科

順位	MDC6	MDC6名称	症例数(件)
1	050210	徐脈性不整脈	3
2	050070	頻脈性不整脈	1

## 外科

順位	MDC6	MDC6名称	症例数(件)
1	090010	乳房の悪性腫瘍	229
2	060160	鼠径ヘルニア	86
3	060035	結腸(虫垂を含む)の悪性腫瘍	74
4	060335	胆嚢水腫、胆嚢炎等	71
5	060020	胃の悪性腫瘍	48
6	060040	直腸肛門(直腸S状部から肛門)の悪性腫瘍	44

順位	MDC6	MDC6名称	症例数 (件)
7	060150	虫垂炎	35
8	060210	ヘルニアの記載のない腸閉塞	19
9	060340	胆管(肝内外)結石、胆管炎	16
10	060170	閉塞、壊疽のない腹腔のヘルニア	15

#### 整形外科

順位	MDC6	MDC6名称	症例数 (件)
1	160620	肘、膝の外傷 (スポーツ障害等を含む)	109
2	070343	脊柱管狭窄 (脊椎症を含む) 腰部骨盤、不安定椎	107
3	070230	膝関節症 (変形性を含む)	79
4	160610	四肢筋腱損傷	78
5	160800	股関節大腿近位骨折	69
6	07040x	股関節骨頭壊死、股関節症 (変形性を含む)	52
7	160850	足関節・足部の骨折、脱臼	38
8	070350	椎間板変性、ヘルニア	34
9	160760	前腕の骨折	27
10	070160	上肢末梢神経麻痺	25

#### 形成外科

順位	MDC6	MDC6名称	症例数 (件)
1	020230	眼瞼下垂	64
2	080007	皮膚の良性新生物	45
3	160200	顔面損傷 (口腔、咽頭損傷を含む)	26
4	020320	眼瞼、涙器、眼窩の疾患	20
5	080005	黒色腫	18
6	03001x	頭頸部悪性腫瘍	17
7	080180	母斑、母斑症	14
8	080011	急性膿皮症	11
9	080250	褥瘡潰瘍	10
10	070570	癒痕拘縮	9

#### 脳神経外科

順位	MDC6	MDC6名称	症例数 (件)
1	010060	脳梗塞	178
2	010111	遺伝性ニューロパチー	142
3	010040	非外傷性頭蓋内血腫 (非外傷性硬膜下血腫以外)	63
4	070343	脊柱管狭窄 (脊椎症を含む) 腰部骨盤、不安定椎	58
5	010010	脳腫瘍	38
6	160100	頭蓋・頭蓋内損傷	38
7	010230	てんかん	27
8	010030	未破裂脳動脈瘤	25
9	030400	前庭機能障害	22

順位	MDC6	MDC6名称	症例数 (件)
10	010020	くも膜下出血、破裂脳動脈瘤	18

## 泌尿器科

順位	MDC6	MDC6名称	症例数 (件)
1	110080	前立腺の悪性腫瘍	130
2	110070	膀胱腫瘍	120
3	110060	腎盂・尿管の悪性腫瘍	38
4	11022x	男性生殖器疾患	24
5	11001x	腎腫瘍	22
6	110200	前立腺肥大症等	20
7	110280	慢性腎炎症候群・慢性間質性腎炎・慢性腎不全	19
8	110420	水腎症 (その他)	13
9	11013x	下部尿路疾患	13
10	11012x	上部尿路疾患	10

## 眼科

順位	MDC6	MDC6名称	症例数 (件)
1	020110	白内障、水晶体の疾患	178
2	020250	結膜の障害	3
3	020210	網膜血管閉塞症	2
4	020340	虹彩毛様体炎、虹彩・毛様体の障害	1
5	020240	硝子体疾患	1
6	020280	角膜の障害	1

## 耳鼻咽喉科

順位	MDC6	MDC6名称	症例数 (件)
1	030240	扁桃周囲膿瘍、急性扁桃炎、急性咽頭喉頭炎	69
2	03001x	頭頸部悪性腫瘍	58
3	030400	前庭機能障害	53
4	030350	慢性副鼻腔炎	44
5	030150	耳・鼻・口腔・咽頭・大唾液腺の腫瘍	36
6	030250	睡眠時無呼吸	33
7	030428	突発性難聴	30
8	030230	扁桃、アデノイドの慢性疾患	21
9	030380	鼻出血	19
10	100020	甲状腺の悪性腫瘍	16

# Kcode 診療科別上位頻度表

対象手術室内施行：2015年4月1日～2016年3月31日退院患者

## 外科

No.	K code	手術名称	回数 (件)
1	K672-2	腹腔鏡下胆嚢摘出術	68
2	K6335	ヘルニア手術 (鼠径ヘルニア)	51
3	K634	腹腔鏡下鼠径ヘルニア手術 (両側)	40
4	K7193	結腸切除術 (全切除、亜全切除又は悪性腫瘍手術)	36
5	K719-3	腹腔鏡下結腸悪性腫瘍切除術	28
6	K4763	乳腺悪性腫瘍手術 (乳房切除術 (腋窩部郭清を伴わないもの))	27
7	K4741	乳腺腫瘍摘出術 (長径5センチメートル未満)	25
8	K4762	乳腺悪性腫瘍手術 (乳房部分切除術 (腋窩部郭清を伴わないもの))	19
9	K718-21	腹腔鏡下虫垂切除術 (虫垂周囲膿瘍を伴わないもの)	19
10	K655-22	腹腔鏡下胃切除術 (悪性腫瘍手術)	16

## 整形外科

No.	K code	手術名称	回数 (件)
1	K082-31	人工関節置換術 (膝)	110
2	K082-31	人工関節置換術 (股)	65
3	K0461	骨折観血的手術 (大腿)	48
4	K068-2	関節鏡下半月板切除術	47
5	K0483	骨内異物 (挿入物を含む。) 除去術 (下腿)	47
6	K080-41	関節鏡下肩腱板断裂手術 (簡単なもの)	40
7	K0462	骨折観血的手術 (下腿)	40
8	K0462	骨折観血的手術 (前腕)	38
9	K1422	脊椎固定術、椎弓切除術、椎弓形成術 (多椎間又は多椎弓の場合を含む。)(後方椎体固定)	38
10	K0593	骨移植術 (軟骨移植術を含む。)(自家骨又は非生体同種骨移植と人工骨移植の併施)	35

## 形成外科

No.	K code	手術名称	回数 (件)
1	K0051	皮膚、皮下腫瘍摘出術 (露出部) (長径2cm未満)	87
2	K2193	眼瞼下垂症手術 (その他のもの)	80
3	K2191	眼瞼下垂症手術 (眼瞼挙筋前転法)	66
4	K0072	皮膚悪性腫瘍切除術 (単純切除)	47
5	K2172	眼瞼内反症手術 (皮膚切開法)	44
6	K0052	皮膚、皮下腫瘍摘出術 (露出部) (長径2cm以上、4cm未満)	44
7	K0061	皮膚、皮下腫瘍摘出術 (露出部以外) (長径3cm未満)	41
8	K0051	皮膚腫瘍摘出術 (露出部) (長径2cm未満)	34
9	K0301	四肢・軀幹軟部腫瘍摘出術 (軀幹)	28
10	K0053	皮膚、皮下腫瘍摘出術 (露出部) (長径4cm以上)	25

## 脳神経外科

No.	K code	手術名称	回数 (件)
1	K1882	神経剥離術 (その他のもの)	101
2	K1426	脊椎固定術、椎弓切除術、椎弓形成術 (多椎間又は多椎弓の場合を含む。)(椎弓形成)	58
3	K1692	頭蓋内腫瘍摘出術 (その他のもの)	29
4	K1771	脳動脈瘤頸部クリッピング (1箇所)	24
5	K1643	頭蓋内血腫除去術 (開頭して行うもの)(脳内のもの)	22
6	K1742	水頭症手術 (シャント手術)	16
7	K164-2	慢性硬膜下血腫洗浄・除去術 (穿頭による)	15
8	K164-2	慢性硬膜下血腫穿孔洗浄術	11
9	K093	手根管開放手術	7
10	K145	穿頭脳室ドレナージ術	7

## 泌尿器科

No.	K code	手術名称	回数 (件)
1	K8036f	膀胱悪性腫瘍手術 (経尿道的手術) (電解質溶液利用のもの)	74
2	K783-2	経尿道的尿管ステント留置術	34
3	K8412	経尿道的前立腺手術 (その他のもの)	21
4	K843	前立腺悪性腫瘍手術	16
5	K7981	膀胱結石摘出術 (経尿道的手術)	15
6	K773	腎 (尿管) 悪性腫瘍手術 (1歳以上の場合)	13
7	K8036g	膀胱悪性腫瘍手術 (経尿道的手術) (その他のもの)	13
8	K8352	陰嚢水腫手術 (その他)	10
9	K773-2	腹腔鏡下腎 (尿管) 悪性腫瘍手術	8
10	K775	経皮的腎 (腎盂) 瘻造設術	7

## 眼 科

No.	K code	手術名称	回数 (件)
1	K2821a	水晶体再建術 (眼内レンズを挿入する場合) (その他のもの)	295
2	K224	翼状片手術 (弁の移植を要するもの)	4
3	K279	硝子体切除術	1
4	K274	前房、虹彩内異物除去術	1

## 耳鼻咽喉科

No.	K code	手術名称	回数 (件)
1	K3772	口蓋扁桃手術 (摘出)	63
2	K340-5	内視鏡下鼻・副鼻腔手術 3型 (選択的 (複数洞) 副鼻腔手術)	31
3	K340-4	内視鏡下鼻・副鼻腔手術 2型 (副鼻腔単洞手術)	30
4	K4611	甲状腺部分切除術、甲状腺腫摘出術 (片葉のみの場合)	17
5	K347	鼻中隔矯正術	16
6	K309	鼓膜 (排液、換気) チューブ挿入術	12
7	K4571	耳下腺腫瘍摘出術 (耳下腺浅葉摘出術)	11
8	K340-3	内視鏡下鼻・副鼻腔手術 1型 (副鼻腔自然口開窓術)	11
9	K386	気管切開術	10
10	K3892	喉頭ポリープ切除術 (直達喉頭鏡によるもの)	9

## 歯科口腔外科

No.	K code	手術名称	回数 (件)
1	K4045	抜歯手術 (埋伏歯)	446
2	K4044	抜歯手術 (難抜歯)	118
3	K4043	抜歯手術 (臼歯)	37
4	K4042	抜歯手術 (前歯)	21
5	K4361	顎骨腫瘍摘出術 (長径3センチメートル未満)	17
6	K4041	抜歯手術 (乳歯)	12
7	K4362	顎骨腫瘍摘出術 (長径3センチメートル以上)	9
8	K4151	舌悪性腫瘍手術 (切除)	8
9	K4291	下顎骨折観血の手術 (片側)	5
10	K4422	上顎骨悪性腫瘍手術 (切除)	3

## V. 講演会等活動実績報告

### 講演活動報告

- 学術講演会…………… 139
- 学術研究会…………… 141



## 学術講演会

### 内科

小林 良充

E G F R阻害薬の皮膚障害マネジメント（特別講演）  
帯広がん化学療法談話会 2015.1.30 帯広市

小林 良充

E G F R阻害薬の皮膚障害マネジメント（一般演題）  
旭川大腸癌フォーラム 2015.2.6 旭川市

小林 良充

E G F R阻害薬の皮膚障害マネジメント（一般演題）  
がん治療とスキンケア 2015.3.14 札幌市

高橋 一宏

当院における消化管内視鏡診断・治療の現状と課題  
NEXT Lecture Meeting 2015.5.16 札幌市

中島 正人

透析患者さんに施行したESD  
NEXT Lecture Meeting 2015.5.16 札幌市

曾我部 進

大腸癌の化学療法  
第74回釧路外科集談会 2015.7.10 釧路市

宮城島 拓人

人ごとではないHIV/AIDSの話（もう大丈夫なんて言  
わせない）  
中標津高校思春期講座 2015.7.17 中標津町

岡田 耕平

骨髄線維症に対するジャカビの使用経験  
HOKKAIDO MYELOFIBROSIS FORUM  
2015.7.31 札幌市

宮城島 拓人

肝臓がんにならないために  
第10回記念釧路管内健康フォーラム2015  
2015.10.3 釧路市

羽場 真

当院における膵癌診療の現況  
～胆道感染への対策を含めて～  
第1回釧路肝胆膵セミナー 2015.10.29 釧路市

寺下 勝巳

新時代の肝疾患診療  
Hokkaido Digestive Disease Seminar Junior  
2015.10.31 札幌市

宮城島 拓人

HIV / AIDSの最新の話（世界・日本そして釧路）  
道東地区病診連携講演会 2015.11.21 釧路市

### 外科

小笠原 和宏

緩和ケアとは  
緩和ケア市民公開講座 2015.11.15 釧路市

### 形成外科

池田 正起

糖尿病性足潰瘍の基本と予防～救肢を目指して～  
くしろ糖尿病デー 市民公開講座  
2015.11.14 釧路市

### 脳神経外科

井須 豊彦

私の腰痛に対する治療方針－手で触れてわかること－  
医療講演会 2015.4.24 佐世保市

井須 豊彦

腰痛、しびれ、痛みの治療を志して30年  
第10回医療講演会 2015.5.23 中標津町

井須 豊彦

身体に触れてわかる腰痛－画像中心の診察から身体に  
触れる診察への転換－  
北大脳神経外科同門会特別講演 2015.6.20 札幌市

井須 豊彦

腰痛、しびれ、痛みの治療を志して30年  
第10回記念管内健康フォーラム2015  
2015.10.3 釧路市

井須 豊彦

手で身体に触れてわかる腰痛のお話  
第1回医学研修講座 2015.8.23 札幌市

磯部 正則  
脳神経外科を正しく知って健康に  
第10回記念管内健康フォーラム2015  
2015.10.3 釧路市

磯部 正則  
水頭症や脳梗塞と認知症  
医療講演会  
2015.7.23  
中標津町

## 耳鼻咽喉科

上村 明寛, 石井 秀幸, 北南 和彦  
当科におけるアレルギー性鼻炎患者の原因抗原について  
の検討  
釧路市招待講演会 2015.10.31 釧路市

上村 明寛, 石井 秀幸, 北南 和彦  
鼻腔内髄外性形質細胞腫の一例  
北海道耳鼻咽喉科懇話会 2015.9.26 旭川市

上村 明寛, 石井 秀幸, 北南 和彦  
鼻腔内髄外性形質細胞腫の一例  
日耳鼻北海道地方部会学術講演会  
2015.10.18 札幌市

## 歯科口腔外科

大坪 誠治  
フリーメディカルキャンプinケニア  
エイズ予防財団H I V医療講習会  
(兼)北海道H I V歯科医療研修セミナー in旭川  
2015.02.21 旭川市

## リハビリテーション部

田口 暢秀  
元気で長く働くために(運動方法)  
㈱大塚製薬依頼講演 2015.1.30 釧路市

田口 暢秀, 推井 基陽, 斎藤 輝未  
ストレッチとフィジカルチェック  
弟子屈町教育委員会依頼講演 2015.2.11 弟子屈町

田口 暢秀  
疼痛に対する理学療法士のアプローチ  
～運動連鎖の視点から～  
釧路市医師会講演会 2015.7.3 釧路市

田口 暢秀  
元気で長く働くために(腰の運動)  
㈱三ツ輪運輸依頼講演 2015.9.16 釧路市

田口 暢秀  
各世代(カテゴリー)におけるトレーニング  
J B A E-1 コーチ講習会 2015.10.11 釧路市

田口 暢秀  
肩・腰・膝の簡単な運動  
㈱日本製紙依頼講演 2015.10.16 釧路市

田口 暢秀  
児童のからだとケガから見えてくるもの  
～理学療法士の視点から～  
釧路養護教諭月例会 2015.11.4 釧路市

田口 暢秀  
J A S A-A Tの東北・北海道での実際  
J A S A-A T東北・北海道ブロックセミナー  
2015.11.23 札幌市

田口 暢秀, 推井 基陽, 斎藤 輝未  
PNFストレッチングの実際  
弟子屈町教育委員会依頼講演 2015.12.23 弟子屈町

## 薬剤部

小川 洋司  
静脈注射の安全使用に関する基礎知識  
新任職員研修会 2015.4.10 釧路市

中村 智  
インシデントがあった薬剤, アクシデントになりそう  
な注意すべき薬剤, 工夫されている剤形について  
医療安全研修会 2015.4.23 釧路市

梶原 徹  
緩和に関する設問と回答解説 ①  
第1回院内緩和ケア研修会 2015.6.16 釧路市

梶原 徹  
つらい症状への薬物対処  
院内がんサロン 2015.7.15 釧路市

矢沢 敏  
オピオイドによる疼痛管理  
院内病棟学習会 2015.8.28 釧路市

小島 佑太  
緩和に関する設問と回答解説 ②  
第2回院内緩和ケア研修会 2015.9.7 釧路市

小島 佑太  
薬物乱用防止について  
学校薬剤師会主催小学校講義 2015.11.7 釧路市

矢沢 敏  
輸液療法の基礎知識  
第8回院内N S Tセミナー 2015.11.10 釧路市

梶原 徹  
危険な薬物（不正薬物）について  
学校薬剤師会主催小学校講義 2015.11.17 釧路市

梶原 徹  
緩和に関する設問と回答解説 ③  
第3回院内緩和ケア研修会 2015.12.21 釧路市

## 学術研究会

### 内科

中野 真太郎, 平田 甫, 北原 言, 横山翔太,  
二瓶 壮史, 中島 正人, 小林 良充, 寺下 勝巳,  
高橋 一宏, 羽場 真, 小田 寿, 宮城島 拓人  
切除不能進行大腸癌 (metastatic colorectal cancer :  
mC R C) に対し姑息的手術を先行することは予後に  
影響するか?  
第20回北海道レジデントカンファレンス  
2015.9.19 札幌市

小田 寿  
当院における胃瘻外来に経験について：嚥下内視鏡検  
査を導入して  
第13回北海道胃瘻研究会  
2015.11.21 札幌市

高橋 一宏  
抗血栓薬内服患者の上部消化管内視鏡診療における組  
織採取手技別の出血リスクの検討  
第21回道東消化器内視鏡談話会 2015.7.18 釧路市

曾我部 進  
結腸癌術後補助化学療法の安全性に関する他施設の検  
討  
GI Oncology Forum 2015.8.7 札幌市

### 外科

宮岡 陽一, 鈴木 崇史, 島田 慎吾, 徳淵 浩,  
小林 篤寿, 河合 朋昭, 小林 清二, 小笠原 和宏  
釧根（北海道東部）地域におけるイレウスの現状  
平成26年度全国労災病院外科研究会  
2015.1.16 川崎市

宮岡 陽一, 八木澤 充堯, 鈴木 崇史, 島田 慎吾,  
徳淵 浩, 小林 篤寿, 河合 朋昭, 小林 清二,  
小笠原 和宏, 宮城島 拓人  
S状結腸sm癌E M R 後, 追加切除腸管深部に残存腫  
瘍・所属リンパ節転移/腹膜転移を認めた1例  
第73回釧路外科集談会 2015.3.11 釧路市

吉田 祐一, 柴田 賢吾, 宮岡 陽一, 江本 慎,  
河合 朋昭, 小林 清二, 小笠原 和宏  
虫垂憩室穿孔による間膜膿瘍をきたした虫垂炎の1例  
第2回道東外科集談会 2015.10.24 釧路市

原田 晋平, 吉田 祐一, 柴田 賢吾, 宮岡 陽一,  
江本 慎, 河合 朋昭, 小林 清二, 小笠原 和宏  
視野異常を契機に再発と診断された乳癌脈絡膜転移の  
2例  
第75回釧路外科集談会 2015.11.11 釧路市

### 整形外科

渡辺 直也, 放生 憲博  
外傷性重度末梢神経障害に対して尺骨神経およびその  
支配筋を用いた複合機能再建の1例  
第55回道東溪和会 2015.8.1 釧路市

## 脳神経外科

岩本 直高, 井須 豊彦, 千葉 泰弘, 石垣 大哉,  
金景 成, 森本 大二郎, 池田 拓磨, 山崎 和義,  
磯部 正則  
腰椎固定術後残存腰痛に対する治療経験 研究会  
2015.2.20

岩本 直高, 井須 豊彦, 金 景成, 千葉 泰弘,  
山内 朋裕, 森本 大二郎, 山崎 和義, 磯部 正則  
絞扼性腓骨神経障害の検討  
第4回痛み・しびれ研究会 2015.5.16

## 泌尿器科

村橋 範浩, 佐々木 芳浩, 野々村 克也  
泌尿器科領域の悪性腫瘍におけるPET診断  
第35回釧根地区泌尿器科研究会 2015.2.13 釧路市

佐々木 芳浩  
ケーススタディ「こんな症例, あなたならどう考える」  
第49回北大泌尿器科医局研究発表会  
2015.5.9 札幌市

佐々木 芳浩, 渡邊 絢子, 村橋 範浩, 高橋 達郎,  
野々村 克也  
上部尿路に生じたエンドメトリオーシスの1例  
第36回釧根地区泌尿器科研究会  
2015.6.5 釧路市

佐々木 芳浩, 渡邊 絢子, 村橋 範浩, 野々村 克也,  
守屋 仁彦  
治療に難渋した腎盂尿管移行部狭窄術後水腎症の1例  
第37回釧根地区泌尿器科研究会  
2015.11.5 釧路市

渡邊 絢子, 村橋 範浩, 佐々木 芳浩,  
野々村 克也  
ゴセリン10.8mg (ブラデックスLA) による筋膜  
下血腫の1例  
第37回釧根地区泌尿器科研究会  
2015.11.5 釧路市

Ryuji Matsumoto, Masumi Tsuda, Takasige Abe, Nobuo  
Shinohara, Sinya Tanaka, Katsuya Nonomura  
Signaling adaptor protein CRK promotes epithelial-mesenchymal transition and metastasis of bladder cancer cells via HGF-Met signaling.

30th EAU Congress March 20-24, 2015 Madrid

Ryuji Matsumoto, Masumi Tsuda, Takasige Abe, Nobuo  
Shinohara, Sinya Tanaka, Katsuya Nonomura  
High aldo-keto reductase 1C1 expression in metastatic  
bladder cancer cells associated with invasive potential and  
drug resistance.

30th EAU Congress March 20-24, 2015 Madrid

Masafumi Kon, Takeya Kitta, Takahiro Mitsui, Kaoru  
Yoshino, Katsuhiko Ueoka, Kimihiko Moriya, Maki  
Fukami, Katsuya Nonomura, Nobuo Shinohara  
Molecular basis of non-syndromic hypospadias: Systematic  
mutation screening and genome-wide copy-number analysis  
of 63 patients  
26th Congress of the European Society for Paediatric  
Urology October 14-17, 2015 Prague

## 歯科口腔外科

矢島 優己, 藤盛 真樹, 大坪 誠治  
当科における悪性腫瘍の臨床的検討  
釧路デンタルスタディクラブ 2015.01.27 釧路市

矢島 優己, 藤盛 真樹, 大坪 誠治  
当科における悪性腫瘍の臨床的検討  
-最近12年間の検討-  
口腔機能再生研究会 2015.01.29 釧路市

大坪 誠治, 矢島 優己, 藤盛 真樹  
ICG蛍光法が有用だった頸部乳糜漏の1例  
口腔機能再生研究会 2015.01.29 釧路市

矢島 優己, 藤盛 真樹, 大坪 誠治  
当科における悪性腫瘍の臨床的検討  
-最近12年間の検討-  
釧路地区3病院口腔外科研究会 2015.02.04 釧路市

大坪 誠治, 矢島 優己, 藤盛 真樹  
ICG蛍光法が有用だった乳糜漏の1例  
釧路地区3病院口腔外科研究会 2015.02.04 釧路市

大坪 誠治, 矢島 優己, 藤盛 真樹  
口腔癌におけるICG蛍光像の観察  
釧路地区3病院口腔外科研究会 2015.02.04 釧路市

矢島 優己, 藤盛 真樹, 大坪 誠治  
当科における過去12年間の顎顔面悪性腫瘍の臨床的検討  
道東歯学研究会 2015.02.06 釧路市

藤盛 真樹  
口腔ケアと周術期口腔機能管理  
釧路労災病院N S Tセミナー 2015.06.09 釧路市

大坪 誠治  
ケニアでの無料歯科医療支援について  
釧路デンタルスタディクラブ 2015.07.28 釧路市

野村 昌史, 矢島 優紀, 藤盛 真樹, 大坪 誠治  
頭頸部領域の悪性腫瘍において皮膚転移をきたした2例  
釧路地区口腔外科3病院研究会 2015.09.24 釧路市

大坪 誠治, 矢島 優紀, 野村 昌史, 藤盛 真樹  
頸部郭清でのICG蛍光法の応用  
釧路地区口腔外科3病院研究会 2015.09.24 釧路市

藤盛 真樹, 矢島 優己, 野村 昌史, 大坪 誠治  
歯科医療における機能細分化と連携～新たな病院歯科  
口腔外科の現状～  
釧路地区口腔外科3病院研究会 2015.09.24 釧路市

野村 昌史, 矢島 優紀, 藤盛 真樹, 大坪 誠治  
頭頸部領域の悪性腫瘍において皮膚転移をきたした2例  
釧路デンタルスタディクラブ 2015.09.29 釧路市

藤盛 真樹, 矢島 優己, 野村 昌史, 大坪 誠治  
歯科医療における機能細分化と連携～新たな病院歯科  
口腔外科の現状～  
釧路デンタルスタディクラブ 2015.09.29 釧路市

## 薬剤部

梶原 徹, 中村 智, 小川洋司  
地域保険調剤薬局を対象とした「緩和ケア」ワークシ  
ョップの開催～薬薬連携に向けて～  
第4回がん薬物療法研究討論会 2015.2.28 札幌市

小島 佑太  
新任薬剤師の1年間を通して～病棟業務とチーム医療～  
釧路市病院薬剤師会会員発表会 2015.2.27 釧路市

矢沢 敏  
病棟薬剤業務実施加算算定に向けた, 薬剤師の半日病  
棟常駐による薬剤リスクマネジメントへの貢献  
北海道ブロック労災病院薬剤部研修会  
2015.5.16 札幌市

小島 佑太  
地域医療連携総合センターの開設と薬剤師の関わり  
北海道ブロック労災病院薬剤部研修会  
2015.5.16 札幌市

## 看護部

村山 由佳子  
釧路がん化学療法看護研究会セミナー「地域における  
看護師の抗がん剤の取り扱い状況と曝露予防の調査」  
釧路がん化学療法看護研究会セミナー  
2015.2.14 釧路市



## IV. 業績目録

(1) 原 著	147
(2) 学会報告	147
(3) 論 文	154



## (1) 原著

### 脳神経外科

金 景成, 井須 豊彦

脊椎症(椎間板ヘルニアを含む)

神経疾患の最新の治療 201-017 2015 17-80

井須 豊彦, 金 景成

触れてわかる腰痛診療-画像でわからない痛みをみつけて治療する- 2015

井須 豊彦

腰痛を治療する医師-井須豊彦さん-釧路市  
北海道新聞<匠の技>2015.3.23

井須 豊彦

①時代おくれの外科医になりたい

②セカンドオピニオンの勧め

③医療連携の重要性

④笑顔

⑤私の腰痛治療に影響を与えた外科医

⑥バーチャルな時代

⑦仲間は大切

釧路新聞<番茶の味>2015.9

### 泌尿器科

野々村 克也

停留精巣, 外性器異常

今日の診断指針-医学書院 2015年 177-773

野々村 克也

尿管異所開口, 異所性尿管瘤

今日の診断指針-医学書院 2015年 110-105

### 歯科口腔外科

川村 信五, 藤盛 真樹, 他

十勝地区における救急救命トレーニングコースへの取り組み

北海道歯科医師会誌 2015 70号 13-39

谷 和俊, 佐藤 栄晃, 藤盛 真樹, 他

解離性大動脈瘤に起因する慢性DICによる舌咬傷出血に難渋した1例

有病者歯科医療 2015 24(4) 23-42

## リハビリテーション部

井須 豊彦, 金 景成 編著 (分担執筆: 田口暢秀)

触れてわかる腰痛診療 7-9

## (2) 学会報告

### 内科

Susumu Sogabe, Satoshi Yuki, Hiraku Fukushima, Norihiko Takahashi, Toshiaki Shichinohe, Takaya Kusumi, Fumitaka Nakamura, Ichiro Iwanaga, Kazuteru Hatanaka, Kencho Miyashita, Jun Konno, Kazuhito Uemura, Masaaki Nenohi, Masaya Kina, Naoya Sakamoto, Akinobu Taketomi, Satoshi Hirano, Toraji Amano, Yoichi M Ito, Yoshito Komatsu

Safety analysis of FOLFOX as adjuvant chemotherapy for stage III colon cancer in phase II study(NORTH/HGCSG1003):Detailed analysis of peripheral sensory neuropathy.

2015 Gastrointestinal Cancers Symposium

2015.1.1-7 San Francisco

Masataka Yagisawa, Susumu Sogabe, Ichiro Iwanaga, Tomohiro Oshino, Takahiro Yamamura, Hajime Hirata, Masahito Nakajima, Kazuharu Suzuki, Joji Shimono, Takuma Takasaka, Kazuhiro Takahashi, Yoshimitsu Kobayashi, Taiki Kudo, Kohei Okada, Masayoshi Dazai, Hisashi Oda, Takuto Miyagishima

Weekly nanoparticle albumin-bound paclitaxel( nab-PTX) as second-or later-line treatment for unresectable or recurrent gastric cancer in practice.

2015 Gastrointestinal Cancers Symposium

2015.1.1-7 San Francisco

Masahito Nakajima, Yoshimitsu Kobayashi, Miho Tajima, Shota Yokoyama, Masashi Nihei, Shintaro Nakano, Hajime Hirata, Gen Kitahara, Katsumi Terashita, Kazuhiro Takahashi, Kohei Okada, Ahin Haba, Susumu Sogabe, Hisashi Oda, Takuto Miyagishima.

Retrospective Study on the Safety and Efficacy of Cell-Free and Concentrated Ascites Reinfusion Therapy (CART)for patients with malignant ascites or pleural effusion: analysis of with or without steroid premedication.

European Cancer Congress 2015

2015.9.2-9 Vienna

Yoshimitsu Kobayashi, Satoshi Yuki, Yasuyuki Kawamoto, Kentaro Sawada, Takuto Miyagishima, Nobuyuki Ehira, Ichiro Iwanaga, Hiroyuki Okuda, Miki Tateyama, Yasushi Tsuji, Kazuteru Hatanaka, Michio Nakamura, Mineo Kudo, Hiraku Fukushima, Tomofumi Takagi, Hiroyuki Hisai, Masahiko Koike, Riichiro Abe, Yuh Sakata, Yoshito Komatsu  
Randomized controlled trial on the toxicity of panitumumab in third line treatment of KRAS Exon2 wild-type metastatic colorectal cancer:HGCSG1001(Japanese Skin Toxicity Evaluation Protocol With Panitumumab-J-STEP):Updated analysis of anti-tumor efficacy.  
European Cancer Congress 2015  
2015.9.2-9 Vienna

平田 甫, 岡田 耕平, 下埜 城嗣, 押味 和夫, 宮城島 拓人, 白井 慎一, 津坂 和文  
化学療法後に可逆的後頭葉白質脳症(PRES)を発症した急性骨髄性白血病  
第273回日本内科学会北海道地方会  
2015.2.7 札幌市

中島 正人, 曾我部 進, 更科 耕一郎, 押野 智博, 山村 貴洋, 平田 甫, 北原 言, 白井 葉月, 鈴木 和治, 八木澤 允貴, 下埜 城嗣, 高坂 琢磨, 小林 良充, 工藤 大樹, 高橋 一宏, 岡田 耕平, 太宰 昌佳, 小田 寿, 小笠原 和宏, 高橋 達郎, 宮城島 拓人  
FOLFIRI療法単独で根治切除可能となったS状結腸癌膀胱浸潤、リンパ節転移の1例  
第116回日本消化器病学会北海道地方会  
2015.3.- 札幌市

山村 貴洋, 宮城島 拓人, 平田 甫, 中島 正人, 鈴木 和治, 八木澤 允貴, 高坂 琢磨, 小林 良充, 工藤 大樹, 高橋 一宏, 太宰 昌佳, 曾我部 進, 小田 寿, 高橋 達郎  
10年の経過の中で自然寛解をきたした十二指腸原発性リンパ腫  
第110回日本消化器内視鏡学会北海道地方会  
2015.3.- 札幌市

高橋 一宏, 平田 甫, 中島 正人, 鈴木 和治, 八木澤 允貴, 高坂 琢磨, 小林 良充, 工藤 大樹, 太宰 昌佳, 曾我部 進, 小田 寿, 宮城島 拓人  
当院における血球成分吸着・除去療法の成績について  
第116回日本消化器病学会北海道地方会  
2015.3.- 札幌市

八木澤 允貴, 高坂 琢磨, 中島 正人, 鈴木 和治, 小林 良充, 工藤 大樹, 高橋 一宏, 太宰 昌佳, 曾我部 進, 小田 寿, 宮城島 拓人, 徳淵 浩, 小笠原 和宏, 高橋 達郎  
びまん性大細胞型B細胞性リンパ腫を合併した難治性潰瘍性大腸炎の一例  
第116回日本消化器病学会北海道地方会  
2015.3.- 札幌市

横山 翔大, 岡田 耕平, 押味 和夫, 宮城島 拓人  
自家末梢血幹細胞移植後に発症したT-LGL leukemia  
第50回日本血液学会春季北海道地方会  
2015.4.4 札幌市

曾我部 進  
Association of morphologic response with PFS in patients with mCRC treated with bevacizumab-based regimen: HGCSG0802.  
第13回日本臨床腫瘍学会学術集会  
2015.7.18 札幌市

小林 良充, 横山 翔大, 二瓶 莊史, 中野 真太郎, 平田 甫, 北原 言, 中島 正人, 寺下 勝巳, 高橋 一宏, 羽場 真, 岡田 耕平, 曾我部 進, 小田 寿, 宮城島 拓人  
Retrospective Study on the Safety and Efficacy of CART for patients with malignant ascites or pleural effusion: analysis of the impact of steroid premedication  
第13回日本臨床腫瘍学会学術集会パネルディスカッション  
2015.7.18 札幌市

高橋 一宏, 吉河 歩, 山村 貴洋, 北原 言, 横山 翔大, 二瓶 壯史, 中野 真太郎, 平田 甫, 中島 正人, 小林 良充, 寺下 勝巳, 羽場 真, 岡田 耕平, 曾我部 進, 小田 寿, 宮城島 拓人, 高橋 達郎, 石田 雄介  
当院における大腸ESD導入後の成績  
第111回日本消化器内視鏡学会北海道支部例会  
2015.8.29 札幌市

中野 真太郎, 曾我部 進, 吉河 歩, 川代 啓汰, 山村 貴洋, 北原 言, 横山 翔大, 二瓶 壯史, 平田 甫, 中島 正人, 小林 良充, 寺下 勝巳, 高橋 一宏, 羽場 真, 岡田 耕平, 小田 寿, 宮城島 拓人  
S-1不耐かつCPT-11+CDDP療法増悪後にXP療法が著効した術後再発胃癌の1例

第117回日本消化器病学会北海道支部例会

2015.8.29 札幌市

北原 言, 曾我部 進, 吉河 歩, 川代 啓汰,  
山村 貴洋, 中野 真太郎, 横山 翔大, 二瓶 壮史,  
平田 甫, 中島 正人, 小林 良充, 寺下 勝巳,  
高橋 一宏, 羽場 真, 岡田 耕平, 小田 寿,  
宮城島 拓人

幽門狭窄および胆管狭窄を伴う進行胃癌に対して各種インターベンションを行い, 化学療法を継続し得た1例

第117回日本消化器病学会北海道支部例会

2015.8.29 札幌市

山村 貴洋, 宮城島 拓人, 北原 言, 中野 真太郎,  
横山 翔大, 二瓶 壮史, 平田 甫, 中島 正人,  
小林 良充, 寺下 勝巳, 高橋 一宏, 羽場 真,  
曾我部 進, 小田 寿, 高橋 達郎

健常若年男性の肝門部に認められた巨大FNH-like lesionの1例

第117回日本消化器病学会北海道支部例会

2015.8.29 札幌市

Kohei Okada, Shota Yokoyama, Shigeki Kaino, Kazuo Oshimi, Takuto Miyagishima

Rapidly progressive visual impairment in a patient with multiple myeloma

第77回日本血液学会学術集会

2015.10.17 金沢市

小林 良充, 横山 翔大, 二瓶 壮史, 中野 真太郎,  
平田 甫, 北原 言, 中島 正人, 寺下 勝巳,  
高橋 一宏, 羽場 真, 岡田 耕平, 曾我部 進,  
小田 寿, 宮城島 拓人

癌性胸腹水に対するCARTの有用性・安全性と, ステロイド前投与の関与についての検討

第53回日本癌治療学会学術集会(ワークショップ)

2015.10.31 京都市

更科 耕一郎, 宮城島 拓人, 二瓶 壮史,  
中野 真太郎, 平田 甫, 北原 言, 横山 翔大,  
中島 正人, 岡田 耕平, 小田 寿

ヒトパルボウイルスB19感染によりTransient aplastic crisisを発症した遺伝性球状赤血球症

第275回日本内科学会北海道地方会

2015.12.5 札幌市

岡田 耕平, 横山 翔大, 押味 和夫, 宮城島 拓人  
Brentuximab vedotin投与後に自家末梢血幹細胞採取を施行した再発性未分化大細胞型リンパ腫

第275回日本内科学会北海道地方会

2015.12.5 札幌市

## 外科

島田 慎吾, 宮岡 陽一, 鈴木 崇史, 徳淵 浩,  
小林 篤寿, 河合 朋昭, 小林 清二, 高橋 達郎,  
小笠原 和宏

術後22年目に局所再発・肺転移・リンパ節転移で再発した乳癌の1例

第102回北海道外科学会

2015.2.21 札幌市

島田 慎吾, 宮岡 陽一, 鈴木 崇史, 徳淵 浩,  
小林 篤寿, 河合 朋昭, 小林 清二, 小笠原 和宏  
高齢者肝細胞癌切除症例における臨床病理学的特徴と治療成績の検討

第115回日本外科学会定期学術集会

2015.4.16 名古屋市

江本 慎, 後藤 了一, 柴崎 晋, 長津 明久,  
小野 仁, 深井 原, 嶋村 剛, 雑賀 寛,  
武富 紹信, 藤堂 省, 山下 健一郎

新規免疫抑制剤NK026680とdonor specific transfusionの併用によるドナー特異的免疫修飾効果

第115回日本外科学会学術集会

2015.4.16 名古屋市

島田 慎吾  
急激なSpO<sub>2</sub>の低下を認めながらもキリマンジャロ(5,895m)登山を完遂できた1例

第14回日本旅行医学会大会

2015.4.18 東京都

Emoto S, Goto R, Shibasaki S, Nagatsu A, Ono H, Igarashi R, Fukai M, Shimamura T, Saiga K, Murakami M, Taketomi A, Todo S, Yamashita K

In vivo expansion of donor-specific regulatory T cells by a new triazolopyrimidine derivative and donor-specific transfusion

American Transplant Congress 2015

2015.5.3 Philadelphia

島田 慎吾  
術中出血による肝切除断念後に虚血性壊死に陥った結腸癌肝転移残肝再発の1生存例  
第27回日本肝胆膵外科学会 2015.6.12 東京都

小笠原 和宏, 河合 朋昭, 小林 清二, 島田 慎吾, 押野 智博  
化学療法(SOX療法)中の結腸癌再発に重複しながらanastrozoleによる内分泌療法が奏功している切除不能進行乳癌の1例  
第23回日本乳癌学会 2015.7.3 東京都

宮岡 陽一, 河合 朋昭, 小林 清二, 小笠原 和宏, 鈴木 崇史, 島田 慎吾, 小林 篤寿, 徳測 浩  
Nuck管水腫近傍に併存し出血を伴った鼠径部子宮内膜症の1例  
第107回日本臨床外科学会北海道支部総会  
2015.7.11 室蘭市

河合 朋昭, 宮岡 陽一, 鈴木 崇史, 島田 慎吾, 徳測 浩, 小林 篤寿, 小林 清二, 小笠原 和宏, 高橋 達郎  
Crohn病に合併した直腸神経内分泌腫瘍の1例  
第70回日本消化器外科学会  
2015.7.15 浜松市

柴田 賢吾, 吉田 祐一, 宮岡 陽一, 江本 慎, 河合 朋昭, 小林 清二, 小笠原 和宏, 曾我部 進, 宮城島 拓人, 石田 雄介, 高橋 達郎  
mFOLFOX 6 + panitumumab療法により根治切除し得た局所進行大腸癌の1例  
第117回日本消化器病学会北海道支部例会  
2015.8.29 札幌市

押野 智博, 小笠原 和宏, 小林 清二, 河合 朋昭, 江本 慎, 宮岡 陽一, 柴田 賢吾, 吉田 祐一  
HER 2 強陽性の乳癌多発脳転移に対しPertuzumabを含む集学的治療により長期生存中の1例  
第13回日本乳癌学会北海道地方会  
2015.9.12 札幌市

江本 慎, 小林 清二, 河合 朋昭, 宮岡 陽一, 柴田 賢吾, 吉田 祐一, 小笠原 和宏  
当院における過去15年間の鼠径ヘルニア手術例の検討  
第103回北海道外科学会  
2015.9.19 札幌市

小笠原 和宏, 草野 満夫, 島田 慎吾  
全国労災病院の胆管癌切除例におけるHER2・EGFR・KRAS遺伝子発現と臨床病理学的所見  
第63回日本職業・災害医学会  
2015.11.22 東京都

河合 朋昭, 吉田 祐一, 柴田 賢吾, 宮岡 陽一, 江本 慎, 小林 清二, 小笠原 和宏  
異時性両側閉鎖孔ヘルニアの1例  
第77回日本臨床外科学会  
2015.11.26 福岡市

宮岡 陽一, 吉田 祐一, 柴田 賢吾, 江本 慎, 河合 朋昭, 小林 清二, 小笠原 和宏  
術後留置ドレーン刺入部に皮膚転移を認めた胆嚢癌の1例  
第108回日本臨床外科学会北海道支部例会  
2015.12.5 札幌市

## 整形外科

五十嵐 達弥  
Bi-cruciate stabilizing TKA(Journey II)の術後短期成績  
第128回北海道整形災害外科学会  
2015.1.3-1 札幌市

加藤 琢磨, 五十嵐 達弥, 放生 憲博  
外反母趾に対するopen wedge型ロッキングプレートをを用いた第一中足骨骨切り術の治療成績  
第128回北海道整形災害外科学会  
2015.1.3-1 札幌市

五十嵐 達弥  
Journey II BCSの短期臨床成績  
第45回日本人工関節学会 2015.2.2-8 福岡市

渡辺 直也  
当院におけるDupuytren拘縮の治療成績  
第58回日本手外科学会 2015.4.1-7 東京都

五十嵐達弥  
Bi-cruciate stabilizing TKA(Journey II)の術後短期成績  
第88回日本整形外科学会学術総会  
2015.5.2-4 神戸市

加藤 琢磨, 五十嵐 達弥, 放生 憲博  
外反母趾に対するopen wedge型ロッキングプレートをを用いた第一中足骨骨切り術の治療成績

第88回日本整形外科学会学術総会

2015.5.2-4 神戸市

渡辺 直也

高齢者上腕骨遠位端骨折に対する手術治療の検討

第88回日本整形外科学会学術総会

2015.5.2-4 神戸市

## 形成外科

池田 正起

センチネルリンパ節生検を試みた熱傷瘢痕痛の1例

第41回日本熱傷学会総会

2015.06.18 名古屋市

池田 正起, 本宮 真, 松本 大, 小田 陽一郎,

伊藤 梨里, 古川 洋志

有茎腹壁皮弁の切離前に赤外線観察システムを用いて  
血流を確認した1例

第90回北日本形成外科学会北海道地方会

2015.09.26 札幌市

## 脳神経外科

金 景成, 森本 大二郎, 井須 豊彦

上殿皮神経障害の手術成績

手で身体に触れてわかる腰痛を考える－上殿皮神経障  
害の病態に迫る－in札幌

2015.6.27 札幌市

Kim K, Isu T, Morimoto D, Kokubo R, Iwamoto N,  
Kobayashi S, Morita A

Small but important basic tips for treatment of degenera-  
tive spinal disease,

4th Nepal-Japan Neurosurgical Conference

2015.10.3-1 Nepal

岩本 直高, 井須 豊彦, 金 景成, 千葉 泰弘,

山内 朋裕, 森本 大二郎, 山崎 和義, 磯部 正則

上殿皮神経障害の保存療法

手で身体に触れてわかる腰痛を考える－上殿皮神経障  
害の病態に迫る－in札幌

2015.6.27 札幌市

井須 豊彦

画像で診断が付かない腰, 下肢痛疾患

第15回山形脊椎懇話会

2015.2.14 山形市

井須 豊彦

脊椎疾患のprinciple lecture

脳神経外科フォーラム 2015.4.14 印西市

井須 豊彦

私の腰痛に対する治療方針－身体に触れてわかること－

第50回横浜内科学会 2015.4.21 横浜市

井須 豊彦

私の腰痛に対する治療方針－身体に触れてわかること－

福岡若手脳神経外科懇話会 2015.4.23 福岡市

井須 豊彦

私の腰痛に対する治療方針－身体に触れてわかること－

三重脳神経外科集談会 2015.5.15 津市

井須 豊彦

上殿皮神経障害による腰痛の治療

手術手技, 手で触れてわかる腰痛を考える－上殿皮神  
経障害の病態に迫る－

2015.6.27 札幌市

Kim K, Isu T, Kokubo R, Morimoto D, Kobayashi S,  
Morita A.

Strategy for low back pain and lower limb pain treatment  
with lumbar degenerative spondylolisthesis.

AACNS 2015 2015.4.1-8 Jeju, Korea

金 景成, 井須 豊彦, 岩本 直高, 千葉 泰弘,

國保 倫子, 森本 大二郎, 菅原 淳, 小林 士郎,

森田 明夫

腰椎変性すべりを伴う腰下肢痛への新たな治療戦略

第30回日本脊髄外科学会 2015.6.2-6 札幌市

森本 大二郎, 金 景成, 井須 豊彦, 喜多村 孝雄,

森田 明夫

ドラム演奏が誘因であった腓骨神経の絞扼性神経障  
害の1例

第30回日本脊髄外科学会 2015.6.2-6 札幌市

森本 大二郎, 井須 豊彦, 金 景成, 千葉 泰弘,

岩本 直高, 山崎 和義, 磯部 正則, 森田 明夫

上殿皮神経障害の外科的治療成績

第30回日本脊髄外科学会 2015.6.2-6 札幌市

岩本 直高, 井須 豊彦, 金 景成, 千葉 泰弘,  
山内 朋裕, 森本 大二郎, 山崎 和義, 磯部 正則  
絞扼性腓骨神経障害に対する局所麻酔下神経剥離術  
第30回日本脊髄外科学会 2015.6.2-6 札幌市

岩本 直高, 井須 豊彦, 金 景成, 千葉 泰弘,  
山内 朋裕, 森本 大二郎, 山崎 和義, 磯部 正則  
腸骨稜近傍に圧痛を認めた腰下肢痛に関する研究  
第30回日本脊髄外科学会 2015.6.2-6 札幌市

菅原 淳, 井須豊彦, 石垣大哉, 小川 彰,  
小笠原 邦昭  
腰部脊柱管狭窄症の術後の牛車腎気丸投与の有効性  
第30回日本脊髄外科学会 2015.6.2-6 札幌市

金 景成, 國保 倫子, 井須 豊彦, 森本 大二郎,  
岩本 直高, 千葉 泰弘, 小林 士郎, 森田 明夫  
試験的負荷試験を診断の補助として用いた腓骨神経障  
害の1例  
第26回日本末梢神経学会学術総会  
2015.9.1-9 松本

岩本 直高, 金 景成, 井須 豊彦, 千葉 泰弘,  
森本 大二郎, 山内 朋裕, 山崎 和義, 磯部 正則  
絞扼性総腓骨神経障害に対する負荷試験の検討  
第26回日本末梢神経学会学術総会  
2015.9.1-9 松本市

金 景成, 井須 豊彦, 岩本 直高, 山内 朋裕,  
森本 大二郎, 國保 倫子, 小林 士郎, 森田 明夫  
難治性殿部痛に対する中殿筋除圧術  
第74回日本脳神経外科学会学術総会  
2015.10.1-6 札幌市

森本 大二郎, 井須 豊彦, 金 景成, 千葉 泰弘,  
岩本 直高, 山崎 和義, 磯部 正則, 森田 明夫  
上殿皮神経障害の外科的治療成績  
第74回日本脳神経外科学会学術総会  
2015.10.1-6 札幌市

岩本 直高, 井須 豊彦, 金 景成, 山内 朋裕,  
千葉 泰弘, 森本 大二郎, 斎藤 拓実, 山崎 和義,  
磯部 正則  
腸骨稜近傍に圧痛を認めた腰下肢痛に関する研究  
第74回日本脳神経外科学会学術総会  
2015.10.1-6 札幌市

岩本 直高, 井須 豊彦, 金 景成, 山内 朋裕,  
千葉 泰弘, 森本 大二郎, 斎藤 拓実, 山崎 和義,  
磯部 正則  
腸骨稜近傍に圧痛を認めた腰下肢痛に関する研究  
第23回日本腰痛学会 2015.11.1-5 東京都

菅原 淳, 井須 豊彦, 石垣 大哉, 小川 彰,  
小笠原 邦昭  
腰部脊柱管狭窄症の術後下肢症状に対する牛車腎気丸  
の有効性  
第24回日本脳神経外科学漢方医学会  
2015.11.14 東京都

山内 朋裕  
Intradural arachnoid cyst as a cause of intractable  
pain (poster)  
83rd AANS Annual scientific meeting  
2015.5.- Washington, D.C

山内 朋裕  
頭蓋頸椎移行部に対する後方固定の手術選択  
第30回 日本脊髄外科学会  
2015.6.2-6 札幌市

山内 朋裕  
腰痛に対する上殿皮神経ブロックが及ぼす, 脊柱骨盤  
矢状面アライメントへの影響について  
第74回日本脳神経外科学会 学術総会  
2015.10.1-6 札幌市

山内 朋裕  
腰椎椎間板ヘルニア術後の腰下肢痛に対する治療選択  
第23回日本腰痛学会  
2015.11.1-5 東京都

斎藤 拓実, 磯部 正則, 山崎 和義  
脳転移をきたしたメルケル細胞がんの一例  
第75回日本脳神経外科学会北海道支部会  
2015.9.19 札幌市

## 泌尿器科

村橋 範浩, 佐々木 芳浩, 高橋 達郎,  
野々村 克也  
膀胱小細胞癌の検討  
第394回日本泌尿器科学会北海道地方会  
2015.1.24 札幌市

渡邊 絢子, 松田 博幸, 三橋 公美  
尿管皮膚瘻カテーテル留置中に左尿管-動脈瘻を発生し尿管結紮にて治療した2例  
第103回日本泌尿器科学会総会 2015.4.18 金沢市

今 雅史, 橘田 岳也, 三井 貴彦, 吉野 薫,  
上岡 克彦, 守屋 仁彦, 深見 真紀, 野々村 克也,  
篠原 信雄  
非症候性尿道下裂の分子基盤の解明: 患者63名における全既知疾患責任遺伝子変異解析およびゲノムコピー数解析  
第24回日本小児泌尿器科学会総会  
2015.7.- 東京都

村橋 範浩, 佐々木 芳浩, 渡邊 絢子,  
野々村 克也  
泌尿器科領域の悪性腫瘍におけるPET診断  
第80回日本泌尿器科学会東部総会  
2015.9.27 東京都

村橋 範浩, 佐々木 芳浩, 渡邊 絢子,  
野々村 克也  
当院における上部尿路腫瘍における腎尿管全摘除術の治療成績  
第396回日本泌尿器科学会北海道地方会  
2015.10.17 札幌市

## 歯科口腔外科

矢島 優己, 藤盛 真樹, 大坪 誠治  
当科における悪性腫瘍の臨床的検討-最近12年間の症例について-  
釧路歯科医師会学術大会 2015.02.14 釧路市

大坪 誠治, 矢島 優紀, 藤盛 真樹  
口腔癌におけるICG蛍光像の観察  
第41回北海道頭頸部腫瘍研究会  
2015.02.28 札幌市

大坪 誠治, 矢島 優紀, 藤盛 真樹  
ICG蛍光法が有用だった乳糜漏の1例  
第41回北海道頭頸部腫瘍研究会  
2015.02.28 札幌市

藤盛 真樹, 矢島 優紀, 大坪 誠治  
ICG蛍光法が有用だった頸部乳糜漏の1例  
平成27年度第1回例会 北海道病院歯科医会臨床検討会

2015.03.14 札幌市  
矢島 優紀, 藤盛 真樹, 大坪 誠治  
オーラルジスキネジアに対し抑肝散が著効した1例  
第24回日本有病者歯科学会 2015.03.21 旭川市

藤盛 真樹, 矢島 優紀, 大坪 誠治  
リバーロキサバン内服患者における多数歯抜歯の1例  
第24回日本有病者歯科学会 2015.03.21 旭川市

矢島 優紀, 藤盛 真樹, 大坪 誠治  
歯性急性炎症を疑ったHIV患者の形質細胞腫の1例  
第24回日本有病者歯科学会 2015.03.22 旭川市

藤盛 真樹, 矢島 優己, 野村 昌史, 大坪 誠治,  
草野 満夫  
口腔領域におけるICG蛍光像に関する検討-頸部郭清での応用-  
第14回道東画像診断・治療ケア研究会  
2015.08.29 釧路市

梶原 徹, 小島 裕太, 藤盛 真樹, 大坪 誠治,  
小川 洋治  
放射線療法により疼痛が緩和されオキシコドン徐放錠を自己中断し退薬症状が出現した1例  
日本緩和医療薬学会年会 2015.10.03 横浜市

宮腰 昌明, 北川 善政, 大坪 誠治, 他  
北海道HIV/AIDS歯科医療ネットワーク構築事業の概要  
第60回日本口腔外科学会総会・学術大会  
2015.10.17 名古屋市

藤盛 真樹  
歯科医療における機能分化と連携-新たな病院歯科口腔外科への挑戦-  
第60回日本口腔外科学会総会・学術大会  
2015.10.17 名古屋市

大坪 誠治, 草野 満夫, 藤盛 真樹, 矢島 優己,  
野村 昌史  
口腔領域におけるICG蛍光像に関する検討-頸部郭清での応用-  
第8回蛍光NS研究会 2015.10.17 浜松市

藤盛 真樹, 矢島 優己, 野村 昌史, 大坪 誠治  
水酸化カルシウム製剤による顎動脈塞栓症を疑った1例  
第60回日本口腔外科学会総会・学術大会

2015.10.18 名古屋市

### リハビリテーション部

吉川 陽, 根本 祥子, 山田 毅, 本宮 真,  
放生 憲博, 船越 忠直, 岩崎 倫政  
広域医療圏における I C T を利用した手外科患者退院  
後支援の試み  
第128回北海道整形災害外科学会 2015.1.31 札幌市

### 中央検査部

遊佐 純教  
糖尿病療養指導士(CDEJ)としての臨床検査と地域貢献  
第54回全国自治体病院学会 2015.10.9 函館市

### 看護部

村山由 佳子(演者)  
佐々木 祐美(共同演者)  
「化学療法室における, 内服抗がん剤治療を受ける外  
来患者への関わり」  
第53回日本癌治療学会学術集会  
2015.10.30 京都府

大倉 泉(演者)  
村山 由佳子 佐々木 祐美(共同演者)  
「当院のB型肝炎スクリーニング検査における取り組  
みと現状」  
第53回日本癌治療学会学術集会  
2015.10.30 京都府

### 臨床工学部

川合 博貴  
「臨床工学技士の理想と現実」  
第17回釧根地区臨床工学技士会学術集会  
2015.05.16 釧路市

## (3) 論文発表

### 内 科

Yoshimitsu Kobayashi, Yoshito Komatsu, Satoshi Yuki,  
Hiraku Fukushima, Takahide Sasaki, Ichiro Iwanaga,  
Minoru Uebayashi, Hiroyuki Okuda, Takaya Kusumi,  
Takuto Miyagishima, Susumu Sogabe, Miki Tateyama,  
Kazuteru Hatanaka, Yasushi Tsuji, Michio Nakamura,  
Jun Konno, Fumiyasu Yamamoto, Manabu Onodera,  
Kazuhiro Iwai, Yuh Sakata, Riichiro Abe, Koji Oba,  
Naoya Sakamoto  
Randomized controlled trial on the skin toxicity of  
panitumumab in Japanese patients with metastatic  
colorectal cancer:HGCSG1001  
Future Oncology 2015 11(4) 61-23

久保 公利、小野寺 学、曾我 部進、小田 寿、  
宮城島 拓人、高橋 達郎、榎谷 将成  
縦隔病変に対する EUS-FNA の有用性および経気管支  
的肺生検との相補的利用  
Gastroenterol Endosc 2015 157(7) 146-476

### 脳神経外科

金 景成、井須 豊彦  
脊髄外科研究に用いられるスコアリングシステムおよ  
びその特徴②。腰椎疾患の評価システム。  
脊髄外科 2015 29(1) 1-5

金 景成、井須 豊彦  
脳神経外科医として知っておきたい絞扼性末梢神経障  
害-診断から治療まで-  
脳神経外科 2015 43(5) 38-97

Kim K, Isu T, Chiba Y, Iwamoto N, Yamazaki K,  
Morimoto D, Isobe M, Inoue K.  
Treatment of low back pain in patients with vertebral  
compression fractures and superior cluneal nerve  
entrapment neuropathies.  
Surg Neurol Int 2015 25 S619-S621

金 景成、國保 倫子、井須 豊彦、森本 大二郎、  
小林 士郎  
上殿皮神経障害の外科治療に関する検討  
脊髄障害医学会雑誌 2015 28(1) 15-55

Chiba Y, Isu T, Kim K, Iwamoto N, Morimoto D, Yamazaki K, Hokari M, Isobe M, Kusano M. Association between intermittent low-back pain and superior cluneal nerve entrapment neuropathy. J Neurosurg Spine. 2015 13 -

Kogure K, Isu T, Node Y, Tamaki T, Kim K, Morimoto D, Morita A Technical arrangement of the Williams-Isu method for anterior cervical discectomy and fusion. J Nippon Medical School 2015 82(1) 5-3

Morimoto D, Isu T, Kim K, Sugawara A, Yamazaki K, Chiba Y, Iwamoto N, Isobe M, Morita A. Microsurgical Decompression for Peroneal Nerve Entrapment Neuropathy. Neurol Med Chir 2015 55 66-73

岩本 直高、井須 豊彦、千葉 泰弘、金 景成、森本 大二郎、山崎 和義、磯部 正則 絞扼性腓骨神経障害の臨床像に関する検討 脳神経外科 2015 43(4) 30-16

金 景成、井須 豊彦 Posterior approach to cervical spine 新NS Now No.2 2015 15-59

Kim K, Isu T, Kokubo R, Morimoto D, Kobayashi S, Morita A. Repetitive Plantar Flexion(Provocation)Test for the Diagnosis of Intermittent Claudication due to Peroneal Nerve Entrapment Neuropathy Case Report NMC Case Report Journal 2015 2(4) 14-42

## 泌尿器科

渡邊 絢子、松田 博幸、三橋 公美 膀胱癌手術後の尿管皮膚婁カテーテル留置中に左尿管-動脈婁を発症し尿管結さつにて治療した2例- 泌尿器外科 2015年 第28巻(10) 170-707

渡邊 絢子、松田 博幸、三橋 公美 手術を要した急性陰嚢症の検討 臨床泌尿器科 2015年 第69巻(6) 49-02

渡邊 絢子、松田 博幸、三橋 公美 デュタステリド内服中に発見された前立腺癌の臨床的検討 泌尿器外科 2015年 第28巻(5) 95-61

野々村 克也 妊娠中及び胎児期における内分泌攪乱物質が性分化および性腺機能に及ぼす影響について 環境省環境研究総合推進費終了研究等成果報告書 2015年

西村 陽子、守屋 仁彦、三井 貴彦、橘田 岳也、野々村 克也、高桑 恵美、畑中 佳奈子、山田 洋介、金内 優典 卵精巣に性腺芽腫と未分化胚細胞腫を認めた卵精巣性分化疾患(ovotesticular DSD)の1例 日本小児泌尿器科学会雑誌 2015年 24巻(1) 2-1

宮田 遥、篠原 信雄、村橋 範浩、土屋 邦彦、宮島 直人、丸山 覚、安部 崇重、加賀 基知三、平野 聡、野々村 克也 有転移腎癌患者における転移巣切除術の意義 泌尿器紀要 2015年 61巻(2) 4-4

Abe T, Takada N, Matsumoto R, Osawa T, Sazawa A, Maruyama S, Tsuchiya K, Harabayashi T, Minami K, Nagamori S, Hatanaka KC, Tanaka Y, Shinohara N, Nonomura K Outcome of regional lymphadenectomy in accordance with primary tumor location on laparoscopic nephroureterectomy for urothelial carcinoma of the upper urinary tract: a prospective study. Journal of endourology 2015 29(3) 30-09

Igarashi M, Wada Y, Kojima Y, Miyado M, Nakamura M, Muroya K, Mizuno K, Hayashi Y, Nonomura K, Kohri K, Ogata T, Fukami M Novel Splice Site Mutation in MAMLD in a Patient with Hypospadias. Sexual development 2015 9(3) 13-35

Kanno Y, Mitsui T, Kitta T, Moriya K, Tsukiyama T, Hatakeyama S, Nonomura K The inflammatory cytokine IL-1beta is involved in bladder remodeling after bladder outlet obstruction in mice. Neurourology and urodynamics 2015 doi:10.1002/nau.22721.

Kitta T, Mitsui T, Kanno Y, Chiba H, Moriya K, Nonomura K

Postoperative detrusor contractility temporarily decreases in patients undergoing pelvic organ prolapse surgery.

International journal of urology

2015 22(2) 20-05

Kon M, Suzuki E, Dung VC, Hasegawa Y, Mitsui T, Muroya K, Ueoka K, Igarashi N, Nagasaki K, Oto Y, Hamajima T, Yoshino K, Igarashi M, Kato-Fukui Y, Nakabayashi K, Hayashi K, Hata K, Matsubara Y, Moriya k, Ogata T, Nonomura K, Fukami M

Molecular basis of non-syndromic hypospadias: systematic mutation screening and genome-wide copy-number analysis of 62 patients.

Human reproduction (Oxford, England)

2015 30(3) 49-06

Matsumoto R, Shinohara N, K CH, Kuroda N, Tsuchiya K, Maruyama S, Abe T, Nonomura K

Concurrent occurrence of renal cell carcinoma with rhabdoid features in a married couple: a case report.

BMC research notes 2015 8(1) 3

Matsumoto R, Tsuda M, Wang L, Maishi N, Abe T, Kimura T, Tanino M, Nishihara H, Hida K, Ohba Y, Shinohara N, Nonomura K

CRK adaptor protein induces epithelial-mesenchymal transition and metastasis of bladder cancer cells via HGF/c-Met feedback loop.

Cancer science 2015 106(6) 70-17

Mitsui T, Araki A, Imai A, Sato S, Miyashita C, Ito S, Sasaki S, Kitta T, Moriya k, Cho K, Morioka K, Kishi R, Nonomura K

Effects of prenatal leydig cell function on the ratio of the second to fourth digit lengths in school-aged children.

PloS one 2015 10(3) e0120636

Moriya K, Mitsui T, Kitta T, Nakamura M, Kanno Y, Kon M, Nishimura Y, Shinohara N, Nonomura K

Early Discontinuation of Antibiotic Prophylaxis in Patients with Persistent Primary Vesicoureteral Reflux Initially Detected during Infancy: Outcome Analysis and Risk Factors for Febrile Urinary Tract Infection.

The Journal of urology 2015 193(2) 63-42

Murahashi N, Abe T, Shinohara N, Murai S, Harabayashi T, Sazawa A, Maruyama S, Tsuchiya K, Miyajima N, Hatanaka K, Nonomura K

Diagnostic outcome of ureteroscopy in urothelial carcinoma of the upper urinary tract: Incidence of later cancer detection and its risk factors after the first examination.

BMC urology 2015 15(1) 92

## 歯科口腔外科

Norihiko Kitagawa, Mitsuo Kusano, Seiji Ohtsubo, et al. Navigation using indocyanine green fluorescence imaging for hepatoblastoma pulmonary metastases surgery

Pediatr Surg Int. 2015 31(4) 40-11

Shingo Shimada, Mitsuo Kusano, Seiji Ohtsubo, et al. Macro and Microscopic Findings of ICG Fluorescence in Liver Tumors

World J Surg Oncol. 2015 13(9) 19-07

大坪 誠治, 藤盛 真樹, 他

蛍光バイオイメージングによる上皮腫瘍の組織・細胞レベルからの病態解析に関する研究

労働福祉機構 病院機能向上研究 2015 10号 43-62

## 眼 科

海野 茂樹、横田 陽匡、野村 研一郎、吉田 晃敏  
発症から長期経過後に副鼻腔手術により視力改善が得られた鼻性視神経症の1例

臨床眼科 2015 69(7) 107-079

## リハビリテーション部

吉川 陽、本宮 真、根本 祥子、山田 毅、船越 忠直、岩崎 倫政

広域医療圏におけるInformation Communication and Technology(ICT)を利用した手外科患者退院後支援の試み

北海道作業療法 2015 32(3) 177-180

# 編集後記

2016年11月吉日

平素より当院の事業運営にご協力を賜り厚くご御礼申し上げます。

さてこの度「やちぼうず 2015年度年報」が完成いたしました。今年度のコンセプトは院内向けのみならず他医療機関の皆さまにも「釧路労災病院の活動実績を知っていただくことと」、「見やすくわかりやすくすること」を基本方針とし、発行に携わってまいりました。

製作方法の変更により、関係各所にはご迷惑をおかけしましたが、皆さまのご協力のおかげで無事発行することができました。心から感謝申し上げます

年報は一年間に行った業務の報告と記録になります。一年一年を積み重ねていくことで自らの業務を振り返り、良い評価や反省するところを確認し、次年度の目標指標として用いることと、外部評価の資料としても重要な位置付けとされております。発行の意義は大きく、継続して発刊していくことが大切でありますので、引き続きご協力のほどお願いいたします。何かお気づきの点がございましたら、病院誌「やちぼうず」編集委員会までお知らせください。

病院誌「やちぼうず」編集委員会  
委員長 磯部 正則

---

## 病院誌「やちぼうず」編集委員

磯部 正則  
渡部 俊信  
小林 良充  
江本 慎  
玉澤 麻美  
武田 真実  
五十嵐 稔  
田川 雅敏



独立行政法人 労働者健康安全機構  
**釧路労災病院**

〒085-8533  
 北海道釧路市中園町13番23号  
 電話 (0154)22-7191(代表)  
 F A X (0154)25-7308

| 交通アクセス |

- JRで来院される場合  
 釧路駅より車で15分
- バスで来院される場合
  - くしろバス  
 南北線、労災病院正面玄関横下車
  - 阿寒バス  
 新橋大通大曲バス停にて下車  
 (徒歩10分)
- 飛行機で来院される場合  
 たんちょう釧路空港から  
 連絡バスにて30分  
 新橋大通大曲バス停下車  
 (徒歩10分)



最新の知識と技術に基づき、  
良質で信頼される医療を実践します。

